

ニチレイグループ  
CSRレポート2019



株式会社ニチレイ

# 目次

## CONTENTS

■ トップメッセージ	… 2	■ コーポレートガバナンスの充実	
■ ニチレイグループ『ニチレイの約束』	… 6	コーポレートガバナンス	… 89
■ 新たな顧客価値の創造		リスクマネジメント	… 92
新たな顧客価値の創造	… 9	■ コンプライアンスの徹底	
■ 安全な商品とサービスの提供		コンプライアンス	… 94
製品責任	… 14	■ レポートライブラリー	… 97
■ 持続可能なサプライチェーンの構築		■ ESGナビゲーション	… 99
サプライチェーンマネジメント	… 27	■ ESGに関する方針一覧	… 100
人権への取組み	… 30	■ ESGデータ集	… 101
■ 環境負荷の低減		■ 社外からの評価	… 117
環境マネジメント	… 33		
持続可能な原材料への取組み	… 43		
エネルギー・気候変動への取組み	… 46		
水資源保全への取組み	… 55		
生物多様性保全への取組み	… 57		
大気への排出	… 60		
排水・廃棄物および化学物質管理	… 61		
製品・サービスにおける取組み	… 64		
環境に関する苦情処理について	… 65		
■ 社会との共生			
社会貢献	… 67		
■ 働きがいの向上			
人財に関する基本方針	… 74		
健康と安全衛生	… 75		
労働慣行	… 80		
人権	… 83		
人財育成と多様性	… 85		

## トップメッセージ

---

持続可能な社会の実現に向けて「ニチレイの約束」を果たし、ステークホルダーの皆さまの期待に応えていきます。



株式会社ニチレイ  
代表取締役社長 大櫛顕也

ニチレイグループは、「暮らしを見つめ、人々に心の満足を提供する」というミッションを、すべての事業活動の土台に置いています。世の中のニーズを捉え、お客様にご満足いただける価値ある商品・サービスを創造し、提供していくことが私たちの使命であり、存在意義であるとしています。

### ウィウィル

本年4月より新たにスタートした中期経営計画「WeWill 2021」も、このミッションにもとづき策定したものです。

「WeWill」は、私たち皆で「やるぞ」という強い意志をもって、未来を自分たちで創っていこうという意味を込めた造語です。「WeWill 2021」は長期経営目標「2030年の姿」を実現させるための第一ステージであり、そのためには失敗を恐れず挑戦していくことが大事になります。

私たちは素材調達から物流に至る食の幅広い領域にわたるリソースを持っています。それを持続的な社会の実現のために連携していくことで、これまでの収益構造を変え経済的価値を上げていくと同時に、新たに社会的価値を創りだしていくことができるはずです。

私は社長として、どのように変化の激しい社会環境であろうと、柔軟な適応力を発揮し、社会から必要とされるニチレイ独自の商品・サービスを創り続けることにより、「100年続く企業」を目指してまいります。

# 前中期経営計画（2016-2018） 「POWER UP 2018」の成果と課題

前中期経営計画では基本方針を、「国内事業の収益力向上と海外事業の成長」および「国内外における中長期的な成長に向けた業務革新と新規事業開発」として推進しました。

食品業界では、食へのニーズがますます多様化し、調理の簡便化や健康志向の高まりによる需要が拡大した一方、労働力不足に伴う人件費や物流費、原材料価格などが上昇しました。また、食品物流業界では、旺盛な保管需要による取り扱い拡大を背景に設備増強の動きが顕著となる中、荷役作業費や車両調達コスト、電力料金などが上昇しました。

計画期間において、加工食品事業では、主力商品であるチキン加工品・米飯に経営資源を集中させ、商品開発や販売活動に注力するとともに、継続的な生産性改善とコストダウンに努め、利益率を大幅に向上させることができました。また、低温物流事業では、企業体質強化や海外事業拡大を通じて着実に収益を伸ばしました。

この結果、最終年度であるグループ全体の売上高は、5,801億円（前期比2.1%増収）、営業利益は、295億円（前期比1.3%減益）、経常利益は299億円（前期比2.6%減益）でした。資産の流動化を進めたことに伴う特別利益の計上があり、親会社株主に帰属する当期純利益は199億円（前期比4.4%増益）となりました。

今後の大きな課題としては、収益構造の変革と海外事業のさらなる規模拡大があると認識しています。外部環境の変化やコスト上昇への対応力を強化することで、さらなる利益水準の向上を果たさなくてはなりません。海外事業の規模拡大に向けては、より具体的な施策に取り組んでまいります。

## グループの羅針盤として新ビジョンを制定

ニチレイグループは、2005年に持株会社体制に移行しました。現在では各事業会社が、自立した会社として存在感を発揮しています。ところが昨今の複雑化する社会課題や顧客の要望に対しては、一つ一つの事業ドメインで解決していくことが難しくなっています。こういった環境の中、ニチレイグループは研究開発、素材調達、加工、品質管理、物流といったリソースを組み合わせることで、社会や顧客から必要とされる新しいビジネスモデルや新たな商品・サービスを創り出すことができると考えています。

グループとしての求心力を高め、グループのケイパビリティを活用し「総合力」を発揮していくために、私たちの羅針盤として新たなグループビジョンを作ることになりました。新しいグループビジョンは、

**「私たちは地球の恵みを活かしたものづくりと、  
卓越した物流サービスを通じて、豊かな食生活と健康を支えつづけます。」**

というものです。

このビジョンを実現するにあたって、率先垂範していきたいことは次の三つです。

### 1. 「成長にこだわる」

視界不良の事業環境にあっても、売上成長し利益を出し続けることで企業価値を高め、それをどう適正に配分していくと社会や顧客に貢献できるかを考えていきます。

### 2. 「新しいことに挑戦する」

会社のガバナンスを含めた仕組みを新しく変えながら経営の質を上げていくと同時に、常に失敗を恐れず挑戦することで新たな付加価値を創り出していきます。

### 3. 「楽しくて働きがいのある職場づくり」

人材の育成や多様性のある職場づくりに力を入れていきます。RPA<sup>※1</sup>やAI<sup>※2</sup>の導入により業務の効率化を進めながら、人にしかできない仕事を新しく創り出していきます。

仕事でも趣味でも楽しくないことは長続きしないのではないのでしょうか。豊かな人生をおくるには、何事も自分がやりたいことをやるのが一番のモチベーションになると思っています。働く人の多くが、自分自身で考えて、「これをして」とか「やってやろう」とかチャレンジできるような会社になりたいと思います。そのためには、失敗しても受け入れてくれるような安心できる職場を目指していきます。

今回の中計の「WeWill」ですが、これから私たちは「こういうことをやる」という意志を込めて、個人で、部署で、またはチームで、「WeWill」の後ろに独自の言葉を足してみたいと思います。

私たちはビジョンの制定と同時に、「2030年の姿」としての長期経営目標も掲げました。ニチレイは食べ物を扱っているということもあり「真面目で誠実」という社風をもっていますが、常に新たなことにチャレンジしていくという先達から受け継いだDNAもあります。チャレンジングな経営目標ではありますが、“イノベーションの推進により社会や顧客の課題を解決する新たな価値を創造し、人々の豊かな食生活と健康に貢献している”という2030年のありたい姿を目指し、その実現に向けてしっかり成果を出せるよう努めていきます。

※1 RPA：ロボティック・プロセス・オートメーション/Robotic Process Automationの略

認知技術を活用した、主にホワイトカラー業務の効率化・自動化の取り組み

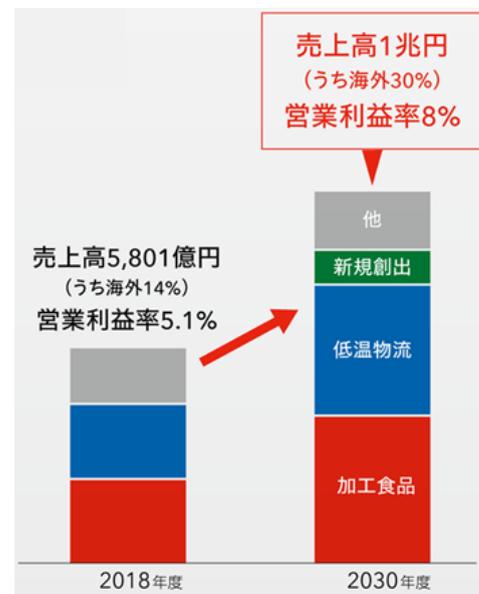
※2 AI：アーティフィシャル・インテリジェンス/Artificial Intelligenceの略

コンピュータを使って、人間の知能のはたらきを人工的に実現したもの

### 2030年の姿

イノベーションの推進により、お客様および社会の課題を解決する新たな価値を創造し、人々の豊かな食生活と健康に貢献している。

国内事業においては、高付加価値化と資本効率の最大化を実現し、加工食品事業と低温物流事業でNo.1の高収益企業として確固たる地位を築いている。海外事業においては、M&Aとアライアンスにより規模とエリアを拡大し、海外売上高比率30%を達成している。また、新規事業の創出により新たな収益の柱を確立している。



## 中期経営計画「WeWill 2021」

2019年度より、ニチレイグループとして新しい中期経営計画「WeWill 2021」のスタートを切りました。

基本方針は、「持続的な利益成長」と「豊かな食生活と健康を支える新たな価値創造」の実現です。「持続的な利益成長」の実現に向け、国内事業では、経営基盤の強化と事業構造の変革による収益力の向上を目指し、海外事業では規模拡大を追求していきます。

ニチレイグループ全体の売上高目標は、6,570億円（年平均成長率4.2%）、営業利益は350億円（年平均成長率5.9%）を目指します。加えて課題の海外事業展開を加速するため、M&Aを含め現地企業とのアライアンスにより、海外売上高を1,000億円以上に成長させます。

投資戦略としては、前中期経営計画を上回る積極的な投資を計画しています。グループ全体では前中計比+378億円となる1,008億円を計画し、コア事業である加工食品事業と低温物流事業を中心に、その中でも海外事業やIT化などの業務革新、中長期を見据えた新規事業開発・研究開発に経営資源を配分します。これにより、更なる競争力強化を図るとともに、新規分野を含めた将来の成長の柱づくりに取り組みます。

また、ニチレイグループでは2001年以降、資本コストを意識した指標REP（Retained Economic Profit：経済的獲得利益）を設け、セグメント別に資本コストを上回る利益の確保を目指してきましたが、今回新たな経営指標としてEBITDA※を業績評価指標に設定しました。利益率と併せてEBITDAの成長率もカバーしていくことで、キャッシュ創出力の継続的な財務マネジメントを充実させます。財務戦略としては、引き続き資本効率の向上に努め、ROEは10%以上を維持します。また、株主還元の充実のため、従来、連結自己資本配当率（DOE）2.5%だった配当基準を見直し、3.0%に引き上げます。これにより今期の配当は1株当たり10円増配の42円（配当性向28%）とし、今後も安定的な配当を目指します。

※EBITDA=営業利益+減価償却費（リースを含み、のれんを除く）

## 中期経営計画「WeWill 2021」

### 国内の収益力向上と海外拡大により持続的な成長へ

全体戦略

1. 持続的な利益成長
2. 資本効率の向上と株主還元の充実
3. 豊かな食生活と健康を支える新たな価値創造

「WeWill 2021」3カ年において、ESGに関しまして次の事に取り組んでいきます。持続可能な社会の実現に向け、気候変動への対応や人権尊重、水・エネルギー資源の保全など、様々な社会的課題に対して世界的に関心が高まっており、私たちニチレイグループにおいてもSDGs（持続可能な開発目標）やパリ協定で掲げる長期目標の達成に向け様々な取り組みにより注力していきます。食の分野では昨今は、「フードロス」が社会問題化していますが、冷凍食品や素材品、低温物流、それぞれの事業を通じて、この問題解決に積極的に取り組みます。環境負荷の低減では、自然冷媒冷凍設備への転換による脱フロンへの推進を図ること、薄膜包材などの新規開発によりプラスチック使用量の削減にもしっかりと対応していきます。また、コーポレートガバナンスのより一層の充実を図る施策として、取締役会評価の実施による継続的な改善はもちろんのこと、役員報酬体系の業績連動性を強化することなどを通じ、中長期的な企業価値の向上を図ってまいります。

今後更に大きな環境変化も予想されますが、今回策定した「2030年の姿」に向かって、「WeWill 2021」のもと、ニチレイグループのケイパビリティを最大限に発揮し、企業価値向上に努めてまいります。

[単位:億円]	2019/3期 (実績)	2022/3期 (計画)	増減	年平均 成長率
売上高	5,801	6,570	769	4.2%
(海外売上高)	792	1,023	231	8.9%
営業利益	295	350	55	5.9%
(営業利益率)	5.1%	5.3%	0.2pt	-
当期純利益	199	220	21	3.3%
EBITDA	470	576	106	7.0%
ROE	11.7%	10%以上	-	-
EPS	149.7円	164.9円以上	-	-



# ニチレイグループ「ニチレイの約束」

## ニチレイの約束

### ～持続可能な社会の実現に向けて～

ニチレイグループは、食と健康を支える企業として事業活動を通じて新たな顧客価値を創造し、社会課題の解決に貢献します。また、経済的・社会的・環境的側面に配慮しながら事業活動に取り組み、その活動をステークホルダーの皆様幅広く公表し、理解と対話を深めてまいります。

### 新たな顧客価値の創造

新たな商品やサービスを創り出し、事業を通じてお客様および社会の課題を解決します

安全な商品とサービスの提供	持続可能なサプライチェーンの構築	環境負荷の低減	社会との共生
高い品質と安全性を実現し、お客様の信頼を獲得します	持続可能なサプライチェーンの構築に努めます	地球環境に配慮し、環境負荷を低減します	社会と地域コミュニティの一員として共に考え、行動します

### 働きがいの向上

働く人の多様性を尊重するとともに、個々の能力を最大限に発揮し生き生きと働ける環境を実現します

### コーポレートガバナンスの充実

適切な資源配分や意思決定の迅速化に努め、公正かつ透明性の高い経営を推進します

### コンプライアンスの徹底

ニチレイグループが事業を展開する各国の法令と社会規範を遵守し、倫理性を高めます

# CSR推進体制



## 新たな顧客価値の創造

---

ニチレイグループは、事業活動を通じて新たな顧客価値を創造し、社会課題の解決に貢献します。

食に関わる事業を行う企業として、よりよい栄養へのアクセス向上を目指すさまざまな取組みを通して、人の健康に貢献していきたいと考えています。例えば、ニチレイフーズでは健康をサポートするウェルネス製品の開発・販売、オーガニックの冷凍野菜を、ニチレイフレッシュでは飼料や飼育環境にこだわった食肉の販売を行っています。また、ニチレイバイオサイエンスでは、免疫染色に関連する学術・技術情報を一般に公開し、医療従事者向けの情報サイトを通じて提供することで、事業を通じた健康な社会づくりに貢献しています。



# 新たな顧客価値の創造

## 基本的な考え方

ニチレイグループは、事業活動を通じて新たな顧客価値を創造し、社会課題の解決に貢献します。

食に関わる事業を行う企業として、よりよい栄養へのアクセス向上を目指すさまざまな取組みを通して、人の健康に貢献していきたいと考えています。例えば、ニチレイフーズでは健康をサポートするウェルネス製品の開発・販売、オーガニックの冷凍野菜を、ニチレイフレッシュでは飼料や飼育環境にこだわった食肉の販売を行っています。また、ニチレイバイオサイエンスでは、免疫染色に関連する学術・技術情報を一般に公開し、医療従事者向けの情報サイトを通じて提供することで、事業を通じた健康な社会づくりに貢献しています。

## 健康を考えた取組み

### ■ ニチレイフーズでの取組み

ニチレイフーズは、美味しさを追求するだけでなくダイエットやカロリーコントロールをしたい方、糖尿病の方に向けて、カロリー、糖質、塩分、脂質、たんぱく質などの摂取量に配慮した健康管理食を公式オンラインショップで販売しています。管理栄養士の監修に基づき、お客様の健康ニーズに応じて、メニューを選べるようウェブサイトの工夫をしています。

また、化学的に合成された農薬・肥料を一切使用しない農場で栽培された有機農産物を原料とした、オーガニック冷凍食品「元気畑」シリーズも販売しています。

### ■ ニチレイフレッシュでの取組み

ニチレイフレッシュでは、飼料や飼育環境にこだわって食肉生産を行っています。一般的なブロイラーの養鶏では、病気の治療のほか密飼いによる病気リスクの予防や成長促進を期待して、抗生物質や合成抗菌剤などの薬剤が使用されています。しかしニチレイフレッシュの『F A チキン』では、ワクチンは使用しますが、全育成過程を通じて抗生物質や合成抗菌剤を一切使用していません。飼育環境への配慮や鶏本来の免疫力を高め病気への抵抗力をつけるため、乳酸菌などの生菌剤や植物性の生薬（漢方など）を与えた飼育方法に取り組んでいます。

また、“現代の食生活で不足しがちなオメガ3系脂肪酸をお肉から”、というコンセプトのもと、専用の飼料と独自の飼育方法にて、一般の食肉よりも多くオメガ3系脂肪酸が摂取できる『オメガラバンス』TMミートシリーズを開発しました。

ニチレイフレッシュでは、飼料や飼育方法にこだわり、人にも動物にも環境にもやさしい畜産業を目指しています。

### ■ ニチレイバイオサイエンスでの取組み

ニチレイバイオサイエンスでは、病院等の病理検査業務をはじめ、大学・研究機関等の基礎や臨床の病理研究に携わっている方々に、免疫染色関係の最新の情報をお届けするため、医師の監修を受けたウェブサイト「免疫染色玉手箱」を運営しています。

免疫染色玉手箱



### ■ オメガ3系脂肪酸に着目した食肉生産

「亜麻仁の恵み®」食肉の提供

<http://www.goodbalancemeat.jp/>

ニチレイフレッシュでは、人の健康に欠かすことのできない栄養素であるオメガ3系脂肪酸に着目し食肉の生産・販売を行っています。α-リノレン酸を多く含む健康素材、アマニ由来の成分を使用した配合飼料を鶏・豚・牛※1に与えることでオメガ3系脂肪酸とオメガ6系脂肪酸のバランスを改善しつつ、肉質が柔らかく、脂の口どけが良いお肉を開発し、2006年より販売しています。

オメガ3系脂肪酸は、α-リノレン酸を代表とした必須脂肪酸で青魚やアマニ油、えごま油に多く含まれます。これらは体内でEPAやDHAに変換されます。体内で作ることができない必須脂肪酸、中でもオメガ3系脂肪酸は現代の日本人の食生活において日ごろ不足しがちと考えられており、バランスよく摂取することは現代社会に生きる私たちにとって大切であると考えられています。

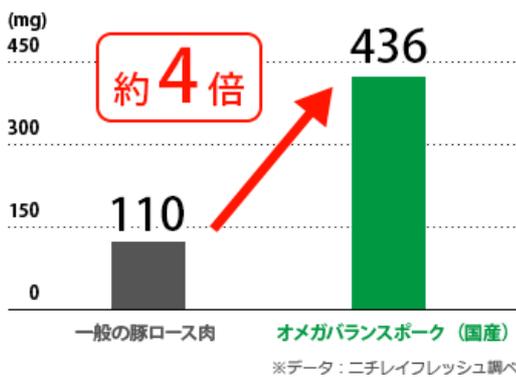
ニチレイフレッシュは、日常の食シーンで多く登場するお肉を通じて、健康管理や食バランスのサポートを提案していきます。

※1 牛については個体差があります。



あまに  
 亜麻仁の恵み® 豚

■ 豚ロース肉 100g から摂取できる  
 オメガ3系脂肪酸(α-リノレン酸)の量の比較



■ 栄養成分コントロールによる健康支援  
 栄養成分コントロール食の提供

<https://wellness.nichirei.co.jp/shop/default.aspx>

ニチレイフーズでは2004年より、カロリーだけではなく塩分や脂質、糖質等をコントロールしたおかずやご飯等を通信販売しています。また、管理栄養士が常駐し、電話による食事相談も行っており、いつでも気軽に自己の健康管理が行える機会を提供しています。



栄養成分コントロール食「あくばり御膳®」

■ コンパニオン診断薬

個々にあわせたがん治療のための診断薬の提供

<https://www.nichirei.co.jp/news/2018/321.html>

ニチレイバイオサイエンスは、患者さん一人ひとりの体質や病態にあった適切ながんの治療法や医薬品の選択をするための「コンパニオン診断薬」を、2014年に日本で初めて承認を受け、製造販売を開始しました。これまで培ってきた免疫関連技術により、効果が高く副作用の少ない適切な治療法や医薬品の選択を実現する個別化医療の発展に貢献しています。



コンパニオン診断薬 ヒストファインALK iAEP®キット

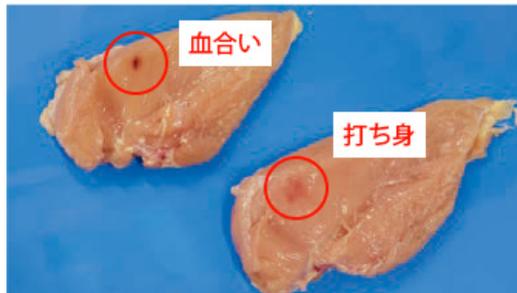
## イノベーションについての取組み

### ■ フードロスの削減

#### 近畿大学とAIでの異物除去診断技術の共同開発

[https://www.nichireifoods.co.jp/news/2018/info\\_id5715/](https://www.nichireifoods.co.jp/news/2018/info_id5715/)

2018年2月、ニチレイフーズは近畿大学と共同で人工知能（AI）<sup>※1</sup>を使用した選別技術を開発いたしました。自社の鶏肉加工品の製造ラインでは、原料受け入れ時に金属探知、X線、近赤外線、光学・色彩などの選別技術を活用して原料の品質保持・管理をしております。しかしながら、不定形な原料や混入している夾雑物<sup>※2</sup>の位置や角度 などにより、判別の精度が下がるため、選別後に人手や目視による検品が必要となることも多くあるのが現状です。特に鶏肉原料選別では3大夾雑物である「硬骨」「羽根」「血合い」をいかに取り除くかがポイントとなります。夾雑物をピンポイントで探し当てるので、余分に良品を除去することがなく、フードロスの削減に繋げることができます。



※1 人工知能（Artificial Intelligence, AI）とは、コンピュータを使って、人間の知能のはたらきを人工的に実現したものです。具体的には、人間の使う自然言語を理解したり、論理的な推論を行ったり、経験から学習するコンピュータプログラムなどのことをいう。

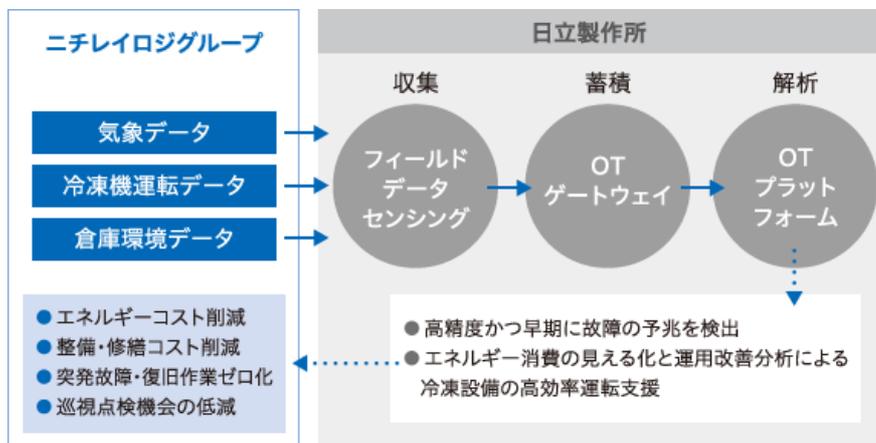
※2 夾雑物（きょうざつぶつ）とは、食材由来の通常食用としない部位で、鶏肉であれば骨、羽根などを指す。

### ■ IoT技術の活用により省エネルギー化と熟練技能者のノウハウ継承化を実現

#### 冷凍設備故障予兆診断と省エネルギー化に向けた共同実証化

<https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2018/20180829.html>

2018年9月、ニチレイロジグループでは（株）日立製作所と共同でIoTを活用した冷凍設備の故障の予兆診断と設備運転を効率化するためのシステムを導入しました。これにより、今後は運転やメンテナンスの効率化を実現するとともに、熟練技術者不足の課題解決や省エネルギー化を目指します。



## TOPICS

### あなたに合った「おいしさ」を見える化する技術

<https://www.nichirei.co.jp/newbiz/biz002/>

ニチレイグループが持つ独自技術の「MS Nose<sup>®</sup>」（エムエスノーズ）というおいしさの重要な要素である香り（レトロネーザルアロマ<sup>※1</sup>）の測定技術と、「Psychometrics<sup>※2</sup>（サイコメトリクス=心理統計学）」という「心」を見える化する分析技術を使うことにより、さまざまなおいしさのレコメンデーションで一人一人の食を楽しく彩るプログラムの開発に着手しています。自分にあったおいしさが見える事で、今まで体験したことのない食の楽しさや新たな価値の提供につなげていきます。（2020年にサービス開始予定）

※1 口から鼻腔に抜ける香気成分

※2 中央大学理工学部と共同研究した「心」を見える化する分析技術



※ 画面は開発中のデザインのため、表示結果などは変わる可能性があります。

## 食物アレルギーへの対応

現在日本では、食物アレルギーを引き起こす食品は27種類設定されており、その内の7種類（えび、かに、小麦、そば、卵、乳、落花生）は発症事例数の多さや発症時の重篤度から消費者庁より表示するように義務化がされています。

当社グループでは、使用する原材料を調査し、製造工程中でのコンタミネーション（混入）の可能性も調査したうえで、食品表示法令に従い食物アレルギー物質の表示をしています。特にニチレイフーズが扱っている家庭用調理冷凍食品では、含有する食物アレルギー物質を一覧で確認できるような工夫をしています。

製品責任



## 安全な商品とサービスの提供

---

ニチレイグループではグループ企業経営理念にもとづき、当社グループが提供する食品に関する商品・サービスの品質および安全性を確保することで、生活者の健康被害を防止し、当社グループ全体の品質管理・品質保証水準および顧客満足の維持・向上を図ることを目的として、品質保証に関する基本方針を定めています。



## 製品責任

### 基本的な考え方

ニチレイグループではグループ企業経営理念にもとづき、当社グループが提供する食品に関する商品・サービスの品質および安全性を確保することで、生活者の健康被害を防止し、当社グループ全体の品質管理・品質保証水準および顧客満足の維持・向上を図ることを目的として、品質保証に関する基本方針を定めています。

#### 品質保証に関する基本方針

- 1.食品関連法令等により要求される事項を遵守すること。
- 2.食品の安全・安心に対する生活者・取引先の要求事項を確実に把握し、グループ全体の品質管理・品質保証力を継続的に高めること
- 3.生活者の健康被害を防止するために、食品安全（Food Safety）、危機管理（Food Crisis Management）のみならず食品防御（Food Defense）の考え方を取り入れること。

#### 品質保証に関する基本方針

#### ■ ニチレイグループのパッケージ表示を通じた品質保証の考え方

お客様に適切な情報を提供することは、お客様の声に真摯に耳を傾けることと同様に、お客様に安心を提供する上で重要であると考えています。

食品表示関連法令を満たすだけでは、当社グループとして最も伝えたい『美味しさのイメージ』が伝わりません。『美味しさのイメージ』を伝えつつ、お客様に必要な情報を分かりやすく、正しくお伝えすることを心掛けています。

ニチレイフーズでは、数多くある冷凍食品から選んでいただくためにパッケージにさまざまな工夫を施しています。基本的にはすべてのNマークを付与する商品パッケージに以下の考え方を適用しています。

#### Nマークを付与するためのパッケージの考え方

##### 1.安全情報を漏れなく記載すること

表示に関係する各種の法令で定められている基準に従い、アレルギー情報や栄養成分などを表示しています。また、調理上の注意点などを分かりやすく図や絵などを用いて表示しています。

##### 2.商品選択情報を記載すること

お客様にはそれぞれ商品を選択する際にこだわりがあります。その商品の生産場所や原料原産地や調理の便利さなど、お客様のニーズの高い情報を分かりやすく図、絵、二次元バーコードなどを用いて表示しています。

##### 3.その商品の美味しさが伝えられるようにすること

デザイナーと何度も打合せを行い、その商品の美味しさを伝えられるようなパッケージに仕上げています。

##### 4.お客様からのご相談窓口を示すこと

お客様から色々な情報を得られるようにお問い合わせ先を表示しています

##### 5.業界基準にもとづくこと

認定マークや分別収集の注意喚起などを表示しています。

## ■ ニチレイグループの品質保証体制について

ニチレイグループの品質保証体制図

### ニチレイグループの品質保証体制図

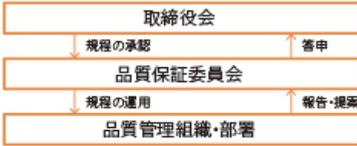
(株)ニチレイ



**ニチレイグループ品質管理規程に則った品質保証**

- ・ニチレイグループの品質管理規定の制定
- ・グループの品質保証に関する政策、方針を審議し、取締役会に答申。  
委員長 代表取締役社長  
委員 関係役員、関係部署長
- ・事業会社の商品・サービスについて、ニチレイグループ品質管理規程に従い、マネジメントの仕組みの有効性を確認する内部監査・モニタリング検査を実施。
- ・グループ品質保証に関する政策、方針を企画・立案しグループ品質保証委員会に提案

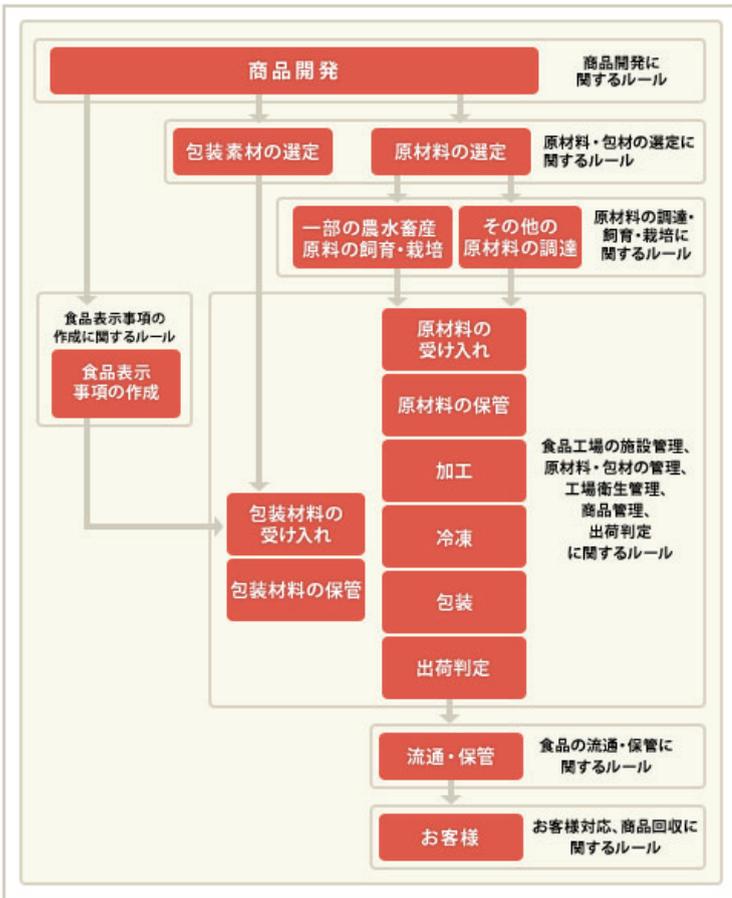
各事業会社



**各事業会社の品質管理規程に則った品質保証**

- ・各事業会社の品質管理規定の制定
- ・各事業会社の品質保証に関する方針、施策などを審議し、取締役会に答申。  
委員長 事業会社の代表取締役社長  
委員 事業会社の関係役員、関係部署長
- ・商品・サービスについて、事業会社の品質管理規程に従い、品質管理を実施。
- ・各事業会社の品質保証に関する方針・政策を企画・立案し、品質保証委員会に提案。

## ● 商品に関する品質保証



当社グループではさまざまな特性を持った商品・サービスを扱っています。各事業会社にて、取り扱っている商品・サービスの特性に応じた基準やルールを制定しています。

基準やルールの制定に当たっては、食品衛生上の危害要因と言われている生物学的危害、化学的危険、物理的危険の予防活動に重点を置いたHACCPシステムの考え方とマネジメントシステムを融合させることを基本としています。これが当社グループの考える食品安全の取組みです。この考え方は基本的にはすべての食品に適用され、ルールに則って取組みが進められています。

食品安全の取組みで予防することのできない『人間による意図的な異物混入』から食品を守ることを目的とした食品防御の取組みと、健康被害をもたらす事件・事故が発生した際に迅速に的確な情報を発信するための危機管理の取組みを付加することで、食品の安全性確保の精度を向上させ、リスクコミュニケーションの充実を図っています。

## ■ 国際規格の積極的導入による品質管理体制の構築

[https://www.nichirei.co.jp/sites/default/files/inline-images/csr/esg/pdf/esg\\_13.pdf](https://www.nichirei.co.jp/sites/default/files/inline-images/csr/esg/pdf/esg_13.pdf)

ニチレイグループでは、さまざまな特性を持った商品・サービスを取り扱っています。その特性にあった社内ルールでの運営とともに国際規格の認証取得を積極的に進め、品質保証体制の強化を図るとともに、安全な商品とサービスの提供に取り組んでいます。

## ■ 認証取得状況

認証規格	事業会社	2017年度		2018年度	
		認証取得事業所数/国内の連結対象子会社の事業所数	認証取得率	認証取得事業所数/国内の連結対象子会社の事業所数	認証取得率
HACCP※1 (食品衛生管理システム)	ニチレイフーズ	13/15	86.7%	14/15	93.3%
	ニチレイフレッシュ	6/7※6	85.7%	7/7※6	100.0%
ISO9001(品質マネジメントシステム)	ニチレイフーズ	13/15	86.7%	3/15※7	20.0%
	ニチレイフレッシュ	8/8	100.0%	8/9	88.9%
	ニチレイロジグループ	105/112	93.8%	104/115	90.4%
FSSC22000※2、 ISO22000※3、SQF※4 (食品安全マネジメントシステム)	ニチレイフーズ	13/15	86.7%	14/15	93.3%
	ニチレイフレッシュ	6/8	75.0%	7/9	77.8%
	ニチレイロジグループ	2/112	1.8%	2/115	1.7%
ISO14001(環境マネジメントシステム)	ニチレイフーズ	11/15	73.3%	11/15	73.3%
ISO13485(医療機器・体外診断用医薬品)	ニチレイバイオサイエンス	2/2	100.0%	2/2	100.0%

※1 HACCP:1960年代に米国において宇宙食生産のために開発された方法で、危害を分析し重要管理点を設定することにより、製造工程において危害の発生を予防することを目的とした食品生産における国際的な衛生管理手法

※2 FSSC22000:ISO22000を基盤とする食品安全に関する国際的なマネジメントシステム

※3 ISO22000:HACCPの食品衛生管理手法をもとに食品安全のリスクを低減する食品安全マネジメントシステムに関する国際規格

※4 SQF (Safe Quality Food) 認証:購入する製品が、HACCPなどの食品安全と品質における厳格な国際基準に合格していることを保証するもの。ヨーロッパ以外の国で、世界食品安全イニシアティブ (GFSI) によって認められているプログラム

※5 認証取得率:取得事業所数/国内の連結対象子会社の事業所数(食品工場、物流センター等)

※6 対象事業所はニチレイフレッシュファームを除く

※7 FSSC22000へ移行

## ■ 対象事業所

環境データ 2018年度実績集計対象事業所 下記各社の食品工場、物流センターなどを集計対象としている。事業所数が複数ある場合は( )内に数を記載。

### ニチレイフーズ

(株)ニチレイフーズ(9)、(株)ニチレイ・アイス(3)、(株)中冷、(株)キューレイ、(株)ニチレイウエルダイニング

### ニチレイフレッシュ

(株)フレッシュまるいち(3)、(株)ニチレイフレッシュプロセス(2)、(株)ニチレイフレッシュファーム(2)、(株)フレッシュチキン軽米、(株)フレッシュミート佐久平

### ニチレイロジグループ

(株)ロジスティクス・ネットワーク(35)、(株)NKトランス(4)、(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道(7)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東北(4)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関東(11)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東海(10)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関西(13)、(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国(14)、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州(13)、(株)キョクレイ(4)

### ニチレイバイオサイエンス

開発センター

### その他

(株)ニューハウジング

■ フードディフェンスの取り組み

<https://www.nichirei.co.jp/safety/system.html>

ニチレイグループでは、食品を守るため、人の管理に重点を置いています。許可された者しか食品を扱うエリアに入場することが出来ない様にしたり、いつ・誰が・どこに、を特定できる様にしています。訪問者用・作業委託者対応用・セルフチェック用等についての社内運用ルールを設け、定期的に工場監査を実施して安全を確認しています。また、従業員満足度調査や面談に基づいた職場環境改善にも取り組んでいます。さらに、自社食品工場内においては、国内海外とも、全工場へカメラや顔認証システムを導入しています。商品特性に応じて食品を守る仕組みを講じ、問題が発生した際に追跡調査を実施出来る体制を構築しています。問題が発生した時には、食品危機管理の仕組みと連動し、迅速に適正な情報を発信し対応してまいります。



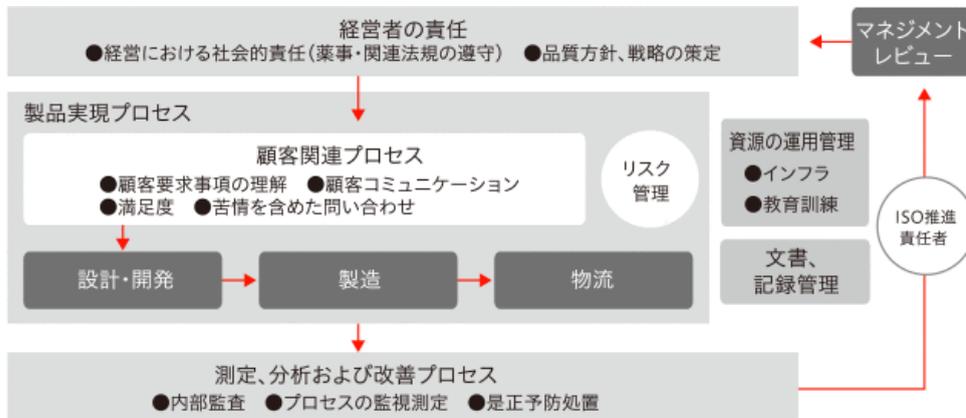
■ ISO13485に準じた診断薬の品質保証体制

[https://www.nichirei.co.jp/sites/default/files/inline-images/csr/report/2017/pdf/pdf\\_2017\\_007.pdf](https://www.nichirei.co.jp/sites/default/files/inline-images/csr/report/2017/pdf/pdf_2017_007.pdf)

ニチレイバイオサイエンスでは、医療機器における品質マネジメントシステムの国際規格であるISO13485<sup>※</sup>を取得し、徹底した品質保証体制を構築しています。

※安全で有用な医療機器・体外診断用医薬品の継続的な製造・供給を目的とした医療分野における品質マネジメントシステムの国際規格

● ISO13485の概要



■ 安全安心な職場環境とサービス品質向上に向けた活動

<https://www.nichirei-logi.co.jp/company/csr.html>

ニチレイロジグループでは、倉庫内や配送車での事故撲滅と商品事故ゼロを目指し、安全品質研修センターでの定期的な研修とともに、フォークリフトの運転技術の向上や配送ドライバーの運転技術と商品知識向上に向け、全国大会を開催しています。



ロジネット協会ドライバーコンテスト全国大会（年1回：6年目）



全国フォークリフト運転競技大会（年1回：3年目）



点検技能審査



競技の様子

#### ■ サービスに関する品質保証

ニチレイロジグループの新設の物流センターでは、高度なセキュリティ機能と免震構造など、最新鋭の設備を備えています。また、品質面においてはグループのノウハウ・技術を集結した温度管理に加え、トレーサビリティ機能、在庫管理機能など高度な物流品質を実現しています。低温物流網においては、自社保有を含め、毎日約4,000台のトラックによる輸配送が全国への物流網を支えており、運送会社との連携が欠かせません。そのため、運送会社とは協力会組織を設け、ドライバーコンテストや研修・表彰制度など安全・品質向上に向けた取り組みを行うことで密接な協力関係を築いています。

#### ■ 食品防御に関する取組み

当社グループは、食品を守るためには「人間を制御」するのが最善の手段と考え、人の管理に重点を置いています。人と人とのコミュニケーションを大切に、許可された者しか食品を扱うエリアに入場することができないようにしたうえで、『いつ、誰が、どこに居た』のかを特定できるようにしています。商品特性に応じて食品を守る仕組みを講じ、問題が発生した際に追跡調査を実施できる体制を構築しています。物流施設においても顔認証システムなどセキュリティを強化しています。

#### ■ 食品危機管理に関する取組み

当社グループでは、提供する食品等で健康被害に直結するような事件・事故が発生した際の対応手順を定めています。この手順は、健康被害に直結するような事件・事故が発生した際には速やかに事実確認を行い、社内外関係者や報道機関への対応方法を決め、迅速に情報を公開しつつ、原因究明と再発防止に努めることを目的としています。

#### ■ 品質管理規程の制定

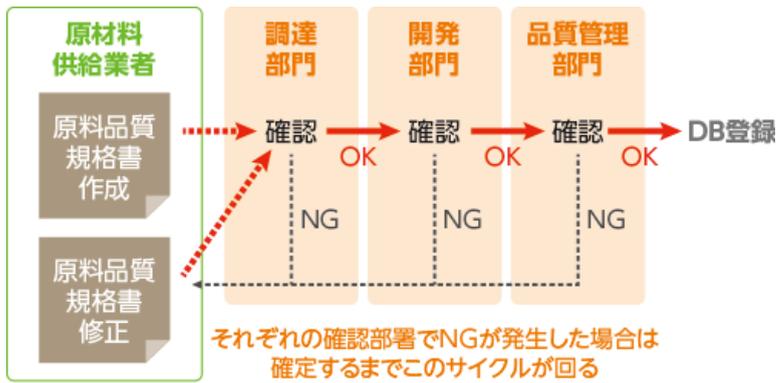
当社の品質保証部は、品質管理・品質保証に関する規程や基準を制定し、品質マネジメント基準に基づく内部監査とモニタリング検査を行い、グループの品質マネジメントの仕組みが有効に機能しているかを確認しています。

各事業会社の品質保証部門は、自社の商品・サービスに対する品質監査を行い、取組み状況を「品質保証委員会」および「グループ品質保証委員会」で報告・共有し、品質保証体制のさらなる改善・強化を図っています。

#### ■ 原材料の管理

ニチレイフーズは原材料のもとになる素材を3段階まで遡って調査し、配合割合、品質・微生物規格、製造工程、含有アレルギーなどを管理しています。原材料供給業者には、それらの内容を一覧化した「原料品質規格書」を原材料ごとに提出してもらいます。「原料品質規格書」に記載されている内容はデータベースに保管し、食品表示の作成やお客様からの問い合わせ対応に活用しています。新規の原材料を使用する際には、事前に行う生産工場の工場診断や工場指導、「原料品質規格書」の内容確認、事前サンプルチェックなどを総合判断して取り引きの可否を決めています。取り引き開始後も工場診断や工場監査を行い、工場改善を継続的に実施させることで原材料の品質をさらに向上させるようにしています。また原材料受入時に品質をチェックすることにより、工場診断・工場監査の効果検証を実施しています。

「原料品質規格書」の精査フロー



■ トレーサビリティの構築

[https://www.nichirei.co.jp/sites/default/files/inline-images/csr/esg/pdf/esg\\_13.pdf](https://www.nichirei.co.jp/sites/default/files/inline-images/csr/esg/pdf/esg_13.pdf)

ニチレイグループでは、常に安全・安心で高品質な食品を提供するため、原材料から製品まで徹底した品質管理と検査を実施するとともに、それぞれの商品特性にあったトレーサビリティシステムを構築しています。トレーサビリティの充実により、万が一の事故の時などは被害の拡大を防ぎ、迅速に原因究明することが可能です。また、生活者の不安を払拭するための正確かつ迅速な情報提供も行っています。

トレーサビリティの構築にはサプライチェーンにおいて原材料供給側・製造メーカー側・流通側までの連携・協働が必要です。ニチレイグループでは、品質情報について共通認識を深めるため、定期的に勉強会を開いています。また、情報をデジタル化して繋げるために、一元管理できる自社独自のシステム活用を進めています。

● 冷凍枝豆の場合のトレーサビリティ（イメージ図）



トレースコードでわかること

トレースコードにより栽培農地まで追跡することができます。ニチレイフーズの冷凍枝豆は、栽培管理・生産管理の追跡のためにトレースコードを印字しています。このトレースコードが分かれば、畑での栽培管理状況から工場での生産状況までの履歴を追跡することができます。トレースコードを有効に機能させるために、ニチレイフーズでは現地生産者と相談しながら継続的な改善を行い、お客様のさまざまなご要望にお応えできるように、進化し続けています。

【栽培管理】

ニチレイフーズが中国やタイなどで生産する冷凍野菜は、畑の環境（土壌、水質など）、農薬の管理状況などのニチレイフーズ基準をクリアした農場を選定しており、これらの農場には定期的に冷凍野菜生産工場の農場指導員が巡回して栽培状況を調査し、適正に管理されていることを確認しています。ニチレイフーズはこの仕組みが確実に実行されていることを現地におもむいて確認しています。

【生産管理】

ニチレイフーズが冷凍野菜の生産を委託している契約工場には品質管理のノウハウを指導しており、適正に栽培管理された野菜を入荷・選別・洗浄・加工・凍結・包装・検品・出荷と徹底した品質管理のもと製品化し、生産記録を残しています。残留農薬については、下処理時に現地の検査機関で問題がないことを確認し、出荷時にもニチレイが技術指導を実施している生産工場検査部門で問題がないことを検証しています。さらに、日本国内においてもニチレイ食品安全センターで残留農薬、衛生状態などを計画的に検査し、安全性を検証すると共に、現地での仕組みが適正に機能しているかを確認しています。

# お客様とのコミュニケーションにおける取り組み

## ■ お客様とのコミュニケーションにおける取り組み

お客様に確かな品質の商品をお届けすることはもちろん、お客様に適切な情報を提供することが第一の努めです。ニチレイフーズでは、パッケージにおける過剰なアピールを廃し、適切な情報提供を行っています。

また、お客様相談センターの活動を通じて、お客様の声を品質向上のため現場にフィードバックしています。

## Nマークを付与するパッケージ表示

パッケージ表示には、多くの情報を集約して記載しています。一括表示と言われる裏面や側面に枠で囲って記載している情報は各種法令で定められている事項であり、ミスがあってはけません。ミスを防ぐために一括表示はダブルチェック体制で確認しています。配合レシピにもとづいて、使用しているすべての原材料に関する規格書を原材料供給業者から提出してもらい、内容を精査し、原材料名・原料原産地を表示しています。さらに賞味期限とロット番号を表示することで、その商品がいつ、どんな原材料を使って生産したものなのかを調べることができるようにしています。ニチレイフーズでは、お客様とのコミュニケーションが大切だと考えており、お問い合わせ用フリーダイヤル番号を見やすい場所に表示するように工夫しています。

文字はどなたにも見やすい書体(ユニバーサルフォント)を採用。配色や表現はカラーユニバーサルデザイン(CUD)対応。アイコンやイラストにより、分かりやすい表示を心がけています。

**アイコン** イラストで直観的に理解できるように記載

一般社団法人 日本冷凍食品協会認定マーク

**うら**

調理方法 栄養成分表示 容器の包装材質および識別表示

**保存方法の注意** いったん解けたものを再凍らせると品質が変わることがありますのでご注意ください。-18℃以下で保存。

**栄養成分表示** 1個当たり(22g)  
エネルギー: 42kcal たんぱく質: 2.6g 脂質: 2.4g 炭水化物: 2.5g ナトリウム: 118mg

**調理方法** 1 凍ったままトレイを切りはなします。 2 ラップをかけず温めてください。  
調理時間: 1個 2個 4個  
500w 40秒 1分 1分30秒  
600w 40秒 50秒 1分20秒

**アレルギー物質 (27品目中)** 小麦 卵 乳成分 牛肉 大豆 豚肉

**お問い合わせ用フリーダイヤル** 0120-69-2101

**「お弁当にGood!」の売り上げの一部で森の保全活動を支援しています。**

**一括表示とは** 商品選択に必要な情報(原材料・内容量など)をまとめて表示したもの。

**アレルギー表示は** イラストで直観的に理解できるように記載

**生産工場名** (株)ニチレイフーズ 船橋第二工場 (千葉県 船橋市) でつくっています。

## ■ 表示に関する主な法令

一括表示	食品表示法、計量法
アレルギー表示	食品表示法
栄養成分表示	食品表示法
容器の包装材質および識別表示	容器リサイクル法、資源の有効な利用の促進に関する法律
商品アピール表示	景品表示法、都道府県条例

安全情報や商品選択情報を漏れなく記載するために、表示の作成から商品が出荷されるまでに、さまざまなチェックを実施しています。遵法性はもちろんのこと、お客様に誤解を与える表現がないように細心の注意を払っています。ブランド審査の中でも、この2点を意識した表示チェックを実施しており、合格した商品だけが生産可能となります。

### Nマークを付与する商品パッケージを印刷する前の確認

栄養成分表示 1個当たり(22g)					
エネルギー	たん白質	脂 質	炭水化物	ナトリウム	
42kcal	2.6g	2.4g	2.5g	118mg	
(食塩相当量 0.3g)					

#### 作成

- ・まず、取得した原材料に関する規格書とレシピにもとづいて配合明細表、配合割合表を作成します。
- ・次に、配合明細表、配合割合表を元に、チェックリストに沿ってパッケージに記載する内容を作成していきます。
- ・このチェックリストの中には、法律や食品業界のガイドラインで定められている内容はもちろんのこと、自主的に定めている内容（商品特性・調理方法）も含まれています。
- ・また、栄養成分を表示する場合（家庭用商品）には、実際に分析した値を記載しています。



#### 確認

- ・配合割合表をもとに、表示内容が正確に記載されているかどうかを細かく確認しています。
- ・また、記載された表示内容が、法律や条例、社内基準に合致しているか、徹底した確認を実施しています。
- ・特に健康危害に直結するアレルギーの表示については、抜け漏れや誤記入のないように十分な注意を払っています。
- ・家庭用商品については、日頃からお客様の要望を受けているお客様相談センターでもパッケージを確認し、表示内容の改善に役立てています。



表示確認

#### 審査

- ・Nマークを付した商品パッケージについては、表示内容のチェックを実施しています。アレルギー表示など健康危害に直結する内容を含め、法律に規定されている表示を重点的にチェックしています。
- ・また、お客様視点で表示内容を全体的に確認し、誤解を生むような表現や分かりづらい部分がないか確認しています。特にセールストークなど商品購買に影響する重要な表示については、誇大表示や虚偽表示にならないか、十分注意するようにしています。





印字チェック

### 工場

- ・まず、工場に納入されたパッケージフィルムや段ボールが、事前に確認した表示内容と一致しているかどうかを確認します。
- ・次に、工場で印字した賞味期限やロット番号、トレースバックコードについて、正確な内容となっているか、かすれやしみなどの印字不良がないかなどをチェックしています。
- ・出荷前の最終チェックとなりますので、工場内でも2重3重のチェックを実施しています。

### 正確な商品情報を伝えるために

商品情報を正確に伝えるためには原材料に関する情報が正確でなければなりません。当社グループでは原材料情報を得るために原材料に関する規格書を原材料供給業者に提出してもらっています。受け取った規格書は内容について、何度もやり取りを重ねて精査し、商品パッケージの作成材料として活用します。加工度の高い原材料では精査に数カ月要することもあります。お客様が求める情報を正確に得られるまでやり取りを重ねています。また、食品表示に関する法令変更には順次対応しています。

商品における原料・原産地情報、アレルギー表示の事例



食品安全センターの取組み



お客様とのコミュニケーション



商品パッケージをより見やすく、より理解しやすいものになるようさまざまな取組みも行っています。高齢者の方や色弱者の方も含めて誰にとっても視認性が高まるようなパッケージ作りもその取組みの一つです。

ユニバーサルデザインの取組み



## 広告・宣伝、ラベリングに関する報告

製品およびサービスに関する広告・宣伝、ラベリングにおける法規の違反はありませんでした。

## 食品安全センターの取組み

(株)ニチレイ品質保証部 食品安全センターは、グループの検査・分析部門として、各事業会社の品質保証活動が、適正に機能しているかを検証しています。冷凍野菜については残留農薬を、水産・畜産品とその加工品については抗生物質、合成抗菌剤などの動物用医薬品を重点的に検査しています。

分析結果は法令の基準値内であっても対象の物質が検出された際に、事業会社にフィードバックを行い、現地での農薬管理、投薬管理の適切性などを調査し、原因究明、基準超過の未然防止を図っています。

また、農薬・動物用医薬品においては400を超える項目数を検査し、放射性物質に関しては、当社グループが扱う製品およびその原材料を対象に、Na (I TI) シンチレーションスペクトロメータによるモニタリングを実施しています。

## 品質保証における監査の実施

ニチレイフーズでは、2017年度、31事業所にて品質監査を行いました。管理・運営面は8項目218チェックポイント、施設・衛生面は9項目307チェックポイントを設定し、不具合があった場合は改善指示を行います。

また、2018年4月よりグループ全体の品質保証体制を変更しました。ニチレイの品質保証部は、品質管理・品質保証に関する規程や基準を整備し、事業会社の品質マネジメントの妥当性を確認するための品質マネジメントレビューを行います。各事業会社は自社の規程に則り、工場監査、商品監査の実務を担うよう役割を変更し、より効率的な品質保証業務を行ってまいります。

## 健康への取組み

食に関わる事業を行うニチレイグループは、よりよい栄養へのアクセスは人の健康において非常に重要であると考えています。ニチレイフーズでは健康をサポートするウェルネス製品の開発・販売を行っています。また、ニチレイバイオサイエンスでは、免疫染色に関連する学術・技術情報を一般に公開し、医療従事者向けの情報サイトを通じて提供することで、事業を通じた健康な社会づくりに貢献しています。

食品の安全性を脅かすさまざまな問題について



ニチレイフーズでの「ウェルネス食品」の開発・販売



医療従事者向けに情報サイトの提供（ニチレイバイオサイエンス）



## 業界団体等との協働

ニチレイグループは、業界団体での活動にも積極的に参加し、提言・提案・働きかけを通じて社会的問題の改善・解決に貢献しています。

ニチレイおよびニチレイフーズは一般社団法人日本冷凍食品協会の正会員であり、ニチレイロジグループ本社およびニチレイロジグループの主要子会社は一般社団法人日本冷蔵倉庫協会の会員、ニチレイが一般財団法人食品産業センターの会員になっています。

業界団体などへの参画



## ニチレイフーズ お客様相談センターの取組み

### 品質向上へ向けての取組み

ニチレイフーズお客様相談センターでは、お客様からいただくご意見やご指摘に迅速・適切に対応することで、お客様満足と企業価値の向上を目指しています。また、正確な商品情報の提供や安全で信頼感のあるブランド認知を目指しています。

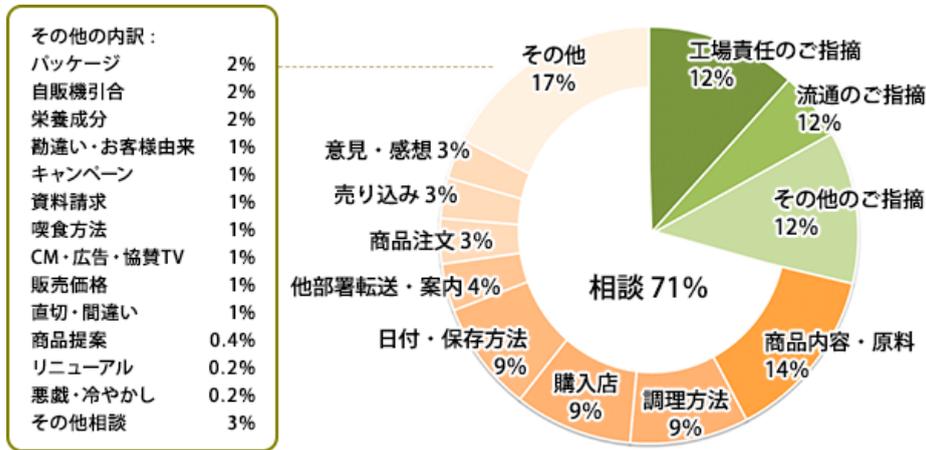
### CSアンケート調査

お客様相談センターでは、お客様対応の品質向上を目指し、お客様満足度（CS）アンケート調査を実施しています。

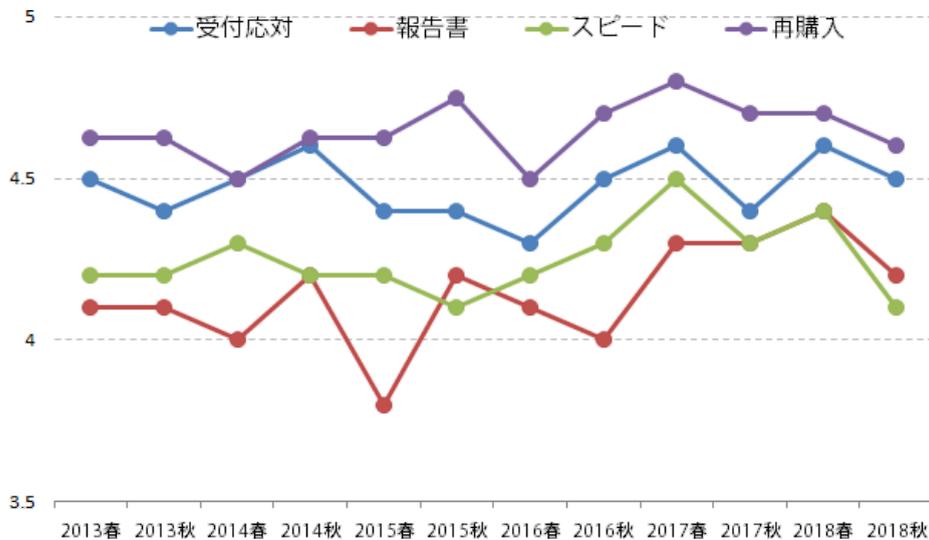
商品についてご指摘をいただいたお客様へ、報告書とともにアンケート葉書を同封し、返信していただく形をとっています。

アンケートには「電話応対時の印象（受付対応）」・「調査報告書の内容（報告書）」・「受付から報告までのスピード（対応速度）」・「今後のご購入意欲（再購入）」という4項目の5段階評価と、ご意見を自由に書き込めるフリーコメント欄を設けています。集計結果は応対品質の向上に活用しており、今後もCSアンケート調査を継続することで、お客様相談センターの業務改善を推進します。

● 2018年お客様の声内訳



● お客様満足度の評価



## 製品リコールの状況について

過去5年の製品リコールの状況です。

日付	対象
2014年7月27日	レトルトカレー「新宿カレー ビーフ」
2016年5月11日	アメリカ産冷凍野菜

## 個人情報の保護

2018年度までに、個人情報保護漏えい等に関する問題の発生はありません。

## 品質向上に向けた社員教育

2017年度は以下の研修を実施しました。

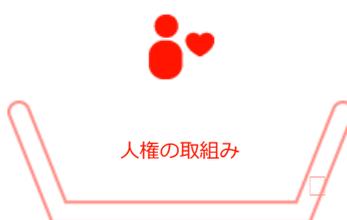
研修	内容	人数	時間
技能職3年次研修	円滑なコミュニケーション、生産ラインの衛生状態の管理	34人	14時間
リーダー候補研修	若手の育成や業務遂行に関するマネジメントの実演	22人	28時間
M1リーダー研修	マネジメントスキルの自己課題の発見と解決の方法、目標管理の評価に関するフィードバック演習	139人	14.5時間
FSSC22000認証取得に向けた研修	FSSC22000の規格事項の解釈、内部監査員の養成、HACCP関連文書の作成方法	140人	46時間

2018年度は上記の研修に加え、技能職研修を2年次にも広げるとともに、ラインリーダー候補者や生産工場リーダー向けの研修を実施します。また、FSSC22000についてはシステム定着のための研修を行っていきます。

製品への表示については、国内の全従業員が食品衛生と表示等について学ぶ、年に1回のeラーニングを通して啓発しています。

## 持続可能なサプライチェーンの構築

ニチレイグループの「ニチレイの約束」では、私たちが取り組むべきCSR活動の考え方を定義しています。しかし、私たちだけが取り組むだけでは、本来の考え方を実現することはできません。当社グループは、企業が事業活動のライフサイクルを通じて社会への適切な対応を行うには、ステークホルダーとの適切な関係の構築が必要かつ重要であると考えています。特に、当社グループの事業は自然生態系から原材料を採取しているため、産地の地域社会に影響が及ぶ可能性があることを認識しています。そのため、長期的な視点にたち、調達における取引先やパートナー企業と適切な関係を構築し、事業を通じて地域社会の活性化と発展に貢献することを目指しています。当社グループは、持続可能なサプライチェーンの構築に取り組むため、「ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針」を制定し、以下の基本方針にのっとり商品やサービスの調達を行うとともに、この方針の理解と実践への協力を取引先へ働きかけていきます。



# サプライチェーンマネジメント

## 基本的な考え方

ニチレイグループの「ニチレイの約束」では、私たちが取り組むべきCSR活動の考え方を定義しています。しかし、私たちだけが取り組むだけでは、本来の考え方を実現することはできません。

当社グループは、企業が事業活動のライフサイクルを通じて社会への適切な対応を行うには、ステークホルダーとの適切な関係の構築が必要かつ重要であると考えています。特に、当社グループの事業は自然生態系から原材料を採取しているため、産地の地域社会に影響が及ぶ可能性があることを認識しています。そのため、長期的な視点にたち、調達における取引先やパートナー企業と適切な関係を構築し、事業を通じて地域社会の活性化と発展に貢献することを目指しています。

当社グループは、持続可能なサプライチェーンの構築に取り組むため、「ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針」を制定し、以下の基本方針ののっとり商品やサービスの調達を行うとともに、この方針の理解と実践への協力を取引先へ働きかけていきます。

### ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針

ニチレイグループは、持続可能なサプライチェーンの構築に取り組むため、以下の基本方針に則って商品やサービスの調達を行うとともに、この方針の理解と実践をお取引先へ働きかけてまいります。

法令遵守：事業を営む国・地域の法令・社会規範を遵守する。

公正な取引：公平、透明かつ公正な取引を行う。

人権：基本的人権を尊重し、安全で衛生的な労働環境の確保に努める。

環境：地球環境に配慮し、環境負荷の低減に努める。

品質・安全：商品・サービスの品質や安全性の確保に努める。

情報管理：情報を適切に管理するとともに、事業活動に関わる情報の適時・適切な開示に努める。

地域社会：企業市民として地域社会との共生を目指す。

[英語](#) [中国語](#) [タイ語](#) [ベトナム語](#) [ポルトガル語](#) [スペイン語](#)

[ニチレイグループ 人権方針](#)

## マネジメント体制

当社グループは、国内外での事業活動を通じて、サプライチェーンも含めて社会と環境にさまざまな影響を与える可能性があることを認識し、社会・環境の面からも、ステークホルダーとの適切な関係を築いていきたいと考えています。2017年4月に、CSR基本方針「ニチレイの約束」に「持続可能なサプライチェーンの構築」を明記し、その推進のよりどころとして、「ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針」を制定しました。サプライヤーの皆さまとも連携し、本基本方針に則った取組みを進めていきます。

事業会社のニチレイフーズでは、CSRに配慮した事業活動を行うにあたり、取引先パートナー企業に対して、調達に関する社会的責任について重点項目のチェックシートによる工場のセルフチェックを行い、工場品質監査時にチェックシートの内容について意見交換を行っています。品質監査は、2018年度は国内17工場、海外20工場で実施しました。この中で「ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針」について国内外のサプライヤーに共有し、理解と協力を得る取組みをしています。

### CSR経営推進会議

当社グループでは、「社会に貢献する事業活動」「グループコミュニケーションのあり方」「社会との信頼性の構築」などを主に議論する場として、2016年度より「CSR経営推進会議」を開催しています。同会議は持株会社のCSR経営推進プロジェクトメンバーと、グループ基幹4社の経営企画部や管理部門の担当者が

主な構成メンバーです。2017年度は12回、2018年度は5回開催し、「持続可能なサプライチェーンの構築」に関する取組みについての討議やグループ各社の「環境や社会に関する課題の整理」などを行いました。今後も同会議を継続してCSR経営を推進していきます。

## 取組みの状況

### ■ 人権プログラムへの参加

人権に対する対外的活動として、経済人コー円卓会議日本委員会（CRT日本委員会）が事務局を務めるニッポンCSRコンソーシアムが実施するステークホルダー・エンゲージメントプログラムに参加しています。このプログラムでは、NPO/NGOと他の企業と共に、業界に特有の人権課題について議論しています。その結果は当社の人権の取組みに活かしています。プログラムの報告書はCRT日本委員会のWebサイトからダウンロードできます。

[http://crt-japan.jp/human-rights/she-program\\_archive/](http://crt-japan.jp/human-rights/she-program_archive/)

また、国内外のNPO/NGOや人権の専門家が参加する「ビジネスと人権に関する国際会議」（CRT日本委員会主催）に参加しています。

サプライチェーンにおける人権の尊重

### ■ RSPOへの加盟

アブラヤシの果実から採れるパーム油は、食用油、石鹸や洗剤などさまざまな製品の原料に使われています。近年アブラヤシ農園の大規模開発が進み、熱帯雨林の伐採や泥炭地帯のCO<sub>2</sub>排出などの環境問題、農園で働く人々の強制労働・児童労働などが世界的な問題となっています。

当社グループは、2018年8月に持続可能なパーム油の生産と利用を促進する非営利組織、RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil：持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟しました。製品に使用するパーム油を持続可能なパーム油にする取組みを進め、2019年度は、ニチレイフーズの食品工場（国内外の連結対象子会社）において揚げ油に使用するパーム油の全量を集計し、該当量のRSPO認証油クレジット（ブック&クレーム方式）を購入しました。サプライチェーンで持続可能な調達を推進するため、RSPOの取組みを支援していきます。



4-1055-18-100-00

### ■ 主要な調達先へのアンケート調査と進捗

<https://www.nichirei.co.jp/csr/supplychain>

ニチレイグループは、持続可能なサプライチェーンの構築に取り組むため、基本方針に則って商品やサービスの調達を行うとともに、この方針の理解と実践をお取引先へ働きかけています。

	2017年	2018年	
ニチレイフーズ	国内外の重要サプライヤーに「ニチレイグループ持続可能なサプライチェーン基本方針」を共有し、アンケート形式の調査を実施	アンケートを全て回収	アンケート内容の分析実施
ニチレイフレッシュ			一部のサプライヤーに訪問し意見交換を実施

## ASC/MSC認証商品

ニチレイフレッシュでは、2019年6月現在ASC認証※1の水産物を3種類、MSC認証※2の水産物を17種類取り扱っています。2017年度にはCoC認証※3を保有する取引先とともに、MSC認証のニシン（魚卵）を使った「数の子松前漬け」と「数の子わさび漬け」を開発しました。持続可能な水産物の取扱いに向け、引き続き、ASCおよびMSC認証水産物の商品を増やしていきます。

※1 ASC認証：ASC（Aquaculture Stewardship Council：水産養殖管理協議会）による持続可能な養殖水産物の認証

※2 MSC認証：MSC（Marine Stewardship Council：海洋管理協議会）による持続可能な天然水産物の認証

※3 CoC認証：加工・流通過程の管理認証

#### ■ニチレイフレッシュのASC/MSC認証取得製品（2019年6月現在）

認証	認証取得数
ASC 【認証登録番号】 ASC-C-01632	3種類（ブラックタイガー、バナメイエビ、マガキ※）
MSC 【認証登録番号】 MSC-C-52165	17種類 サケ類（カラフトマス、キングサーモン、ギンザケ、シロザケ、ベニザケ） スケトウダラ、マダラ、カレイ類（アブラカレイ、黄金カレイ、浅羽カレイ、白カレイ） ホタテガイ、ニシン、カラフトシシャモ、 ズワイガニ、カナダホッキ貝、タラバガニ※

※ 2019年度新規認証水産物

## サプライヤーの育成

ニチレイブラジル農産有限会社では、契約農家に対してアセロラの苗と栽培技術を提供し、その成果物である果実は同社が全量買い取るというスキームで、農家の指導と地域の雇用、収入に貢献しています。

## 人権への取組み

### 基本的な考え方

ニチレイグループは、当社グループの従業員はもちろんのこと、サプライチェーンを含めた事業に関わるステークホルダーの人権を尊重することが不可欠かつ重要と考えています。

当社グループは、持続可能なサプライチェーンの構築に取り組むため、2017年4月「ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針」を制定し、以下の基本方針にのっとり商品やサービスの調達を行うとともに、この方針の理解と実践への協力を取引先へ働きかけていきます。そのうち「基本的人権を尊重し、安全で衛生的な労働環境の確保に努める。」の項目において、セクシャルハラスメント、児童労働、女性・障がい者への差別などを禁止しています。

行動規範



ニチレイグループ持続可能なサプライチェーン基本方針



### 人権方針

<https://www.nichirei.co.jp/corpo/humanrightspolicy.html>

ニチレイグループは「地球の恵みを活かしたものづくりと、卓越した物流サービスを通じて、豊かな食生活と健康を支えつづけます。」というビジョンのもと、新たな顧客価値を創造し、社会課題の解決に貢献することで、社会から必要とされる存在であることを目指しています。

ニチレイグループは、事業を行う過程で直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、私たちのビジネスに関わる全ての人々の人権を尊重する責任を果たすために、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく「ニチレイグループ人権方針」（以下、本方針）を制定し、これを指針として人権尊重に取り組めます。

<b>1. 適用範囲</b>	本方針は、ニチレイグループのすべての従業員と役員に適用します。また、ニチレイグループのビジネスパートナーに対しても、本方針を支持し、人権の尊重に努めていただくよう求めます。
<b>2. 基本的な考え方</b>	ニチレイグループは、国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に基づく人権尊重の取り組みを推進するとともに、次の国際的な規範を支持し、尊重します。 <ul style="list-style-type: none"><li>- 国連「国際人権章典」（世界人権宣言と国際人権規約）</li><li>- 国際労働機関「労働における基本的原則及び権利に関する宣言」</li><li>- 国連総会決議「先住民族の権利に関する国際連合宣言」</li></ul>
<b>3. 人権課題の特定・対処・開示</b>	ニチレイグループは、人権デューデリジェンスの仕組みを構築し、自らが社会に与える人権への負の影響を特定し、その防止及び軽減を図ります。 <ul style="list-style-type: none"><li>- ニチレイグループの事業活動が人権への負の影響を引き起こした場合、あるいは取引関係等を通じた負の影響への関与が明らかになった場合には、国際基準に基づいた手続きを通じて救済に取り組めます。</li><li>- ニチレイグループは本方針の一連の取り組みにおいて、独立した外部の人権に関する専門知識を活用するとともに、自らの事業により影響を受けるステークホルダーとの対話と協議を真摯に行います。</li><li>- 本方針の実行に責任を持つ担当役員を明確にし、実施状況を監督します。</li><li>- 本方針がグループ全体の事業活動を通して効果的に実行されるよう、適切な研修・教育を行います。</li><li>- 本方針に基づく人権尊重の取り組みの進捗ならびに結果を継続的に開示します。</li><li>- 事業活動を行う国・地域における法及び規制を遵守します。もし各国の法令が国際的に認められた人権と矛盾する場合には、国際的な人権原則を最大限に尊重するための方法を追求します。</li></ul>

ニチレイグループ 人権方針



## マネジメント体制

事業活動における人権の配慮に取り組むにあたり、当社グループでは、国内外での事業活動を通じて、サプライチェーンも含めて社会と環境にさまざまな影響を与える可能性があることを認識し、社会・環境の面からも、ステークホルダーとの適切な関係を築いていきたいと考えています。2018年、人権デューデリジェンスに着手し、2019年4月に人権方針を制定しました。

## 社外とのコミュニケーション

2019年6月～7月に開催されたコーポラ卓会議のステークホルダー・エンゲージメント・プログラムに参加し、NGO等からの問題提議、および企業間の意見交換を実施し、業界別に人権課題を掘り下げた議論も行いました。

また2019年10月に「ビジネスと人権に関する指導原則」を提言する、国内外の主要NGOや人権の専門家が参加する国際会議（CRT日本委員会主催）に参加しています。

## 環境負荷の低減

ニチレイグループでは、「地球温暖化防止」「持続可能な資源循環の推進」「自然との共生」を3つの重点課題とし、環境保全活動に取り組んできました。グループの基本的な考え方は、「ニチレイグループ環境方針」「ニチレイグループ生物多様性方針」に集約されています。



環境マネジメント



持続可能な原材料  
への取組み



エネルギー・気候変動  
への取組み



水資源保全への  
取組み



生物多様性保全  
への取組み



大気への排出



排水・廃棄物および  
化学物質管理



製品・サービスに  
おける取組み



環境に関する苦情処理  
について

## 基本的な考え方

ニチレイグループでは、グループ環境方針を定め、地球温暖化防止、持続可能な資源循環の推進、自然との共生を3つの重点課題としています。

当社グループが行う事業活動は、サプライチェーン上の様々な関係者により成り立っており、食品工場や低温物流センターなど、自らの事業所だけでなく、お客さまやお取引先の活動も含めた環境影響に広く関わっていく必要があります。

また、食のインフラを支える当社グループの事業活動は、原材料の調達において自然生態系に依存しており、気候変動の影響を大きく受けます。そこで当社グループは、お取引先と連携しながら以下の活動に取り組んでいます。

- ・食品製造におけるエネルギーの効率的な利用
- ・低温保管・輸送における効率性の向上を通じた温室効果ガス排出量の削減
- ・再生可能エネルギーの利用促進を通じた、サプライチェーン全体が与える気候変動への影響の低減

## ニチレイグループ環境方針（2008年12月1日改定）

### 基本方針

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える企業集団として、「食」と「健康」の源である地球の恵みを次世代に引き継ぎ、「おいしさ」と「新鮮」を継続してお届けするため、事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組むとともに、ステークホルダーとのコミュニケーションを通じて持続可能な社会の実現に貢献していきます。

### 地球温暖化防止

ニチレイグループは、気候変動の影響を大きく受ける「食」に関わる調達、生産、保管、物流などの事業活動に伴う温暖化ガス排出量の削減に加え、ビジネススタイルやライフスタイルの変革を支援する活動を実施し、地球温暖化防止に貢献します。

### 持続可能な資源循環の推進

ニチレイグループは、有限な地球資源を効率的に利用していくとともに、事業活動を通じて廃棄物発生抑制、資源の再利用、リサイクルを推進します。また、循環資源の購入や仕組みづくりに取り組み循環型社会システムの構築に貢献します。

### 自然との共生

ニチレイグループは、自然界の多様な生態系や生物種などによって豊かな地球があることを認識し、自然との共生に配慮します。

### 行動指針

ニチレイグループは、環境問題を経営の重要課題のひとつと捉え、基本方針に基づき、全ての事業活動において、環境への配慮を徹底し行動します。

#### 1. マネジメントシステムの構築・運用

持続可能な社会の実現に向けた環境課題を確実に把握し、関連規程の整備、環境目標の設定などに基づき課題対応活動の推進・徹底を図るとともに、その評価・見直しによりマネジメントシステムの維持・向上に努めます。

#### 2. 法令等遵守

関連法令はもとより、社会からの要請を的確に把握し、自ら基準を定め遵守します。

#### 3. 環境に配慮した製品・サービスの提供

製品・サービスの企画や設計・開発の段階から調達、生産、物流、販売、使用、廃棄などの各段階における環境負荷の最小化を意識したモノづくり、サービス提案を推進します。

#### 4.意識を高め、行動へ

環境教育や啓発活動を通じて一人ひとりが意識を高め、企業人および市民として主体的に環境保全活動に取り組みます。

#### 5.社会との協調

積極的な情報開示を行うとともに、地域社会の環境活動へ参画するなど、社会とのコミュニケーションを図りながら環境改善に貢献していきます。

### ニチレイグループ生物多様性方針

生物多様性は、生きものが存続していくための基盤であり、未来に引き継いでいかなければならない大切な財産です。

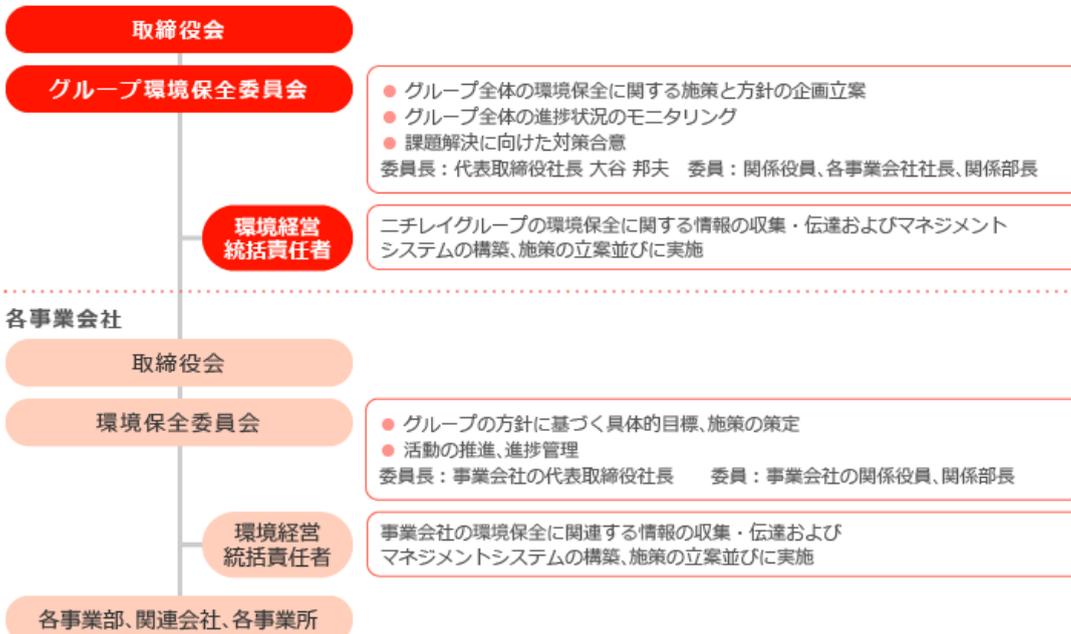
私たちの事業は、生物多様性から生み出される多くの恩恵で成り立っていますが、一方でさまざまな影響を与えています。この認識のもと、事業活動による生物多様性への影響を把握し、ステークホルダーの皆さまと連携・協働しながら、保全及び持続可能な利用に継続的に取り組んでいきます。

- 1.原材料調達においては、お取引先と連携・協働し、持続可能な利用に配慮して生産、漁獲等された素材やその加工品の調達に積極的に努めます。
- 2.事業活動に関わる生物資源は、できる限り商品として皆さまに提供するとともに、肥料、飼料、エネルギー等への資源循環に心がけ、社会のために最大限活かすよう努めます。
- 3.省エネルギー、省資源、3R (Reduce, Reuse, Recycle)、グリーン調達、有害化学物質対策等により持続的な発展が可能な社会づくりを推進し、生物多様性に影響を与える環境負荷の低減に努めます。
- 4.自社施設、所有地及びその周辺、原材料調達先の周辺において、生物多様性保全や復元に寄与する活動に努めます。
- 5.環境啓発活動、情報発信などを通じて、生物多様性を育む社会づくりに貢献します。

## マネジメント体制

多岐にわたる分野の事業会社で構成される当社グループは、各社の事業活動により環境負荷の特性が異なることから、事業会社ごとに「環境保全委員会」を設置し、各社の事業特性に応じた環境対策の立案、実効性の高い環境活動を推進しています。各社の取組みは、年に3回開催される「グループ環境保全委員会」において報告され、取組みの内容・進捗に応じてグループ全体の環境保全に関する政策・方針の策定や、環境に関する社会動向の共有をしています。環境保全委員会の委員長は代表取締役社長が担い、事業会社の社長や、関係役員らが委員として参加しています。

### ニチレイ



## 2020年度に向けた目標と重点課題

### ■ 2011～2020年度の長期目標（2010年度策定）

地球温暖化防止	自社のCO <sub>2</sub> 削減	2009年度よりCO <sub>2</sub> を10%（2.3万トン）削減（国内全事業所、所有車両）
	社会全体のCO <sub>2</sub> 削減	グループ目標は未設定。 主な活動項目は以下のとおり 1. 容器包装の削減を通じたCO <sub>2</sub> 削減 2. 共同配送やモーダルシフトなど物流効率化提案によるCO <sub>2</sub> 削減 3. 植林など森林保全活動を通じたCO <sub>2</sub> 削減 4. 取引先や従業員家庭での活動を通じたCO <sub>2</sub> 削減支援 5. グリーン電力や排出権購入によるCO <sub>2</sub> 削減
持続可能な資源循環の推進	自社排出廃棄物の削減	リサイクル率99%達成及びその維持（国内工場、国内物流センター）
	社会全体の排出廃棄物の削減	取引先や地域との協働により、循環型システムを構築し資源を活かしきる
自然との共生	事業活動を軸とした展開	持続可能な利用に配慮して生産、漁獲等された素材やその加工品の積極調達
		取引先や地域との協働により、循環型システムを構築し資源を活かしきる
	社会貢献を軸とした展開	事業所および原材料調達先の周辺における生物多様性保全や復元に寄与する活動の推進
		環境啓発活動、情報発信などを通じて生物多様性を育む社会づくりに貢献

## 中期目標と実績

### ■ グループ環境中期目標

2019～2021年度グループ 環境目標		対象事務所
CO <sub>2</sub>	2021年度の総CO <sub>2</sub> 排出量を、2013年度実績「維持」 電力係数：2013年度の係数で固定	グループ国内の全事業所
廃棄物	リサイクル率 99%以上を維持	グループ国内の全事業所
	動植物性残さの削減に取り組む	ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュの国内食品工場
水	各地域の水を取り巻く環境事情を考慮し、持続可能な水利用に向け、効率的な水利用を通じて水資源の保全に取り組む	ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュの国内食品工場

海外データ…海外事業所における環境データの収集に取り組む

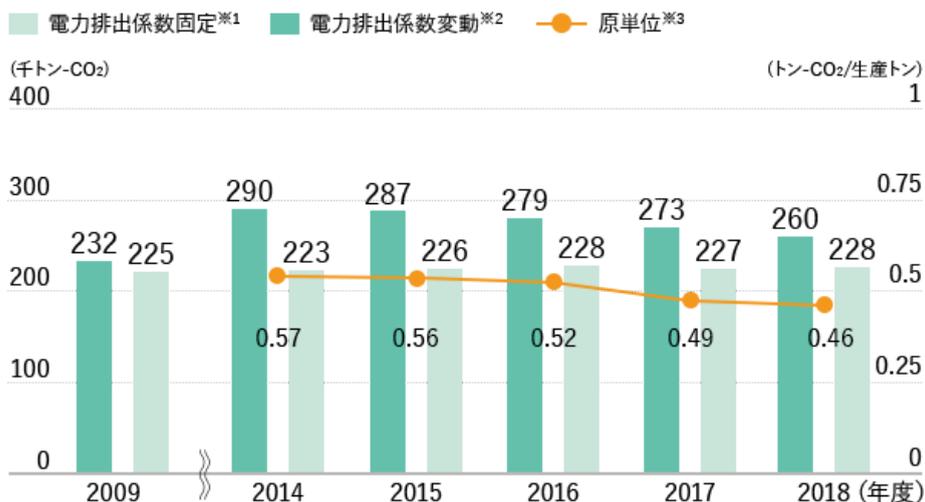
CO<sub>2</sub>排出量の削減は総排出量削減目標とし、対象範囲は国内の事業所および所有車両で使用する全てのエネルギーとしています。廃棄物リサイクル率については、99%以上の維持に継続して取り組み、国内の食品工場では動植物性残さの削減にも取り組んでいます。水資源の保全については、“食”に関わる企業グループとして地球の恵みを次世代に引き継ぐために効率的な水利用のための行動目標を策定し、取り組みを進めています。また、「海外事業所における環境に関するデータの収集」についてもグループ全体で取り組んでいます。

## 地球温暖化防止

当社グループは工場や物流センターなどの事業所から直接排出されるCO<sub>2</sub>の削減に取り組むとともに、各事業会社が重点課題を設定しCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。2018年度のグループCO<sub>2</sub>排出量は、生産量の増加、事業所の新設などにより2009年度比で1.1%<sup>\*1</sup>増加しました。また、電力によるCO<sub>2</sub>排出係数を変動係

数で比較した場合は、12.1%<sup>\*2</sup>の増加となりました。今後も、食品工場・物流センターにおける効率運転や省エネ設備への更新、および再生可能エネルギーの導入などに加えて、サプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいきます。

●ニチレイグループCO<sub>2</sub>排出量の推移



※1 電力排出係数固定：電気事業連合会公表2009年度使用端CO<sub>2</sub>排出原単位0.412[t-CO<sub>2</sub>/MWh]を全国で共通使用

※2 電力排出係数変動：各事業所で使用する年度における電力事業者の電力換算係数を使用

※3 電力排出原単位の対象範囲はニチレイフーズ（国内自営工場および関連工場）および、ニチレイフレッシュ（国内関連工場）

そのうち以下工場を除く

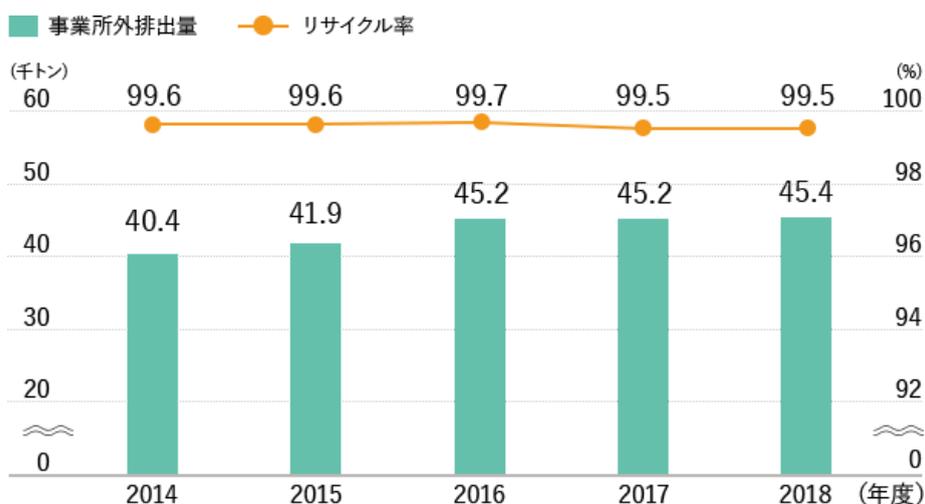
ニチレイフーズ：（株）ニチレイ・アイス

ニチレイフレッシュ：（株）ニチレイフレッシュファーム、（株）フレッシュチキン軽米、（株）フレッシュミート佐久平

## 持続可能な資源循環の推進

2018年度の事業所外排出量は45.4千トンとなり、リサイクル率は99.5%となりました。工場の動植物性残渣については食品工場を持つ事業会社ごとに目標を設けて原単位を削減しています。最終処分されている廃棄物には種類や量によりリサイクル先が見つからない場合などもありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

●ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



## 水資源の保全

食品安全や環境保全の各種法令を遵守し、水使用量と排水の水質について定期的にモニタリングを行い、把握・管理しています。国内事業所については、積極的な節水活動を行っています。また、各地域の拠点で必要な水資源の入手の可能性やリスクについてどのように影響評価を行っていくかについて、今後検討していきます。

# INPUT

			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
<b>原材料</b>		<b>千トン</b>	<b>161</b>	<b>167</b>	<b>185</b>	<b>188</b>	<b>195</b>
	原料	千トン	145	149	167	170	177
	包装資材	千トン	16	18	18	18	18
<b>エネルギー</b>		<b>千GJ</b>	<b>4,983</b>	<b>5,063</b>	<b>5,109</b>	<b>5,078</b>	<b>5,107</b>
	購入電力	千kWh	438,673	444,843	447,574	443,480	447,277
	重油	kl	3,314	3,329	3,335	3,319	2,609
	灯油	kl	189	198	200	191	173
	都市ガス	千m <sup>3</sup>	5,951	6,385	6,705	6,923	7,142
	LPG	トン	4,487	4,623	4,620	4,650	4,814
	ガソリン（社有車）	kl	588	524	467	461	402
	軽油（社有車）	kl	1,144	1,270	1,340	1,378	1,556
	太陽光発電	千kWh	243	186	211	400	1,444
エネルギー（千GJ）の各事業会社の内訳							
	ニチレイフーズ		1,569	1,649	1,716	1,726	1,761
	ニチレイフレッシュ		171	173	179	169	173
	ニチレイロジグループ		3,161	3,159	3,129	3,098	3,089
	ニチレイバイオサイエンス		10	10	8	11	12
	その他		73	72	73	74	72
<b>水</b>		<b>千m<sup>3</sup></b>	<b>3,781</b>	<b>4,033</b>	<b>3,931</b>	<b>3,997</b>	<b>4,117</b>
	上水	千m <sup>3</sup>	1,276	1,336	1,284	1,293	1,267
	工業用水	千m <sup>3</sup>	638	853	877	797	907
	地下水（井水）	千m <sup>3</sup>	1,867	1,845	1,770	1,906	1,943
水(千m <sup>3</sup> )の各事業会社の内訳							
	ニチレイフーズ		2,372	2,595	2,581	2,652	2,812
	ニチレイフレッシュ		352	352	353	331	322
	ニチレイロジグループ		1,043	1,070	977	998	963
	ニチレイバイオサイエンス		6	5	8	6	6
	その他		8	12	12	11	13

# OUTPUT

			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
<b>廃棄物</b>	<b>事業所外排出量</b>	<b>千トン</b>	<b>40.4</b>	<b>41.9</b>	<b>45.2</b>	<b>45.2</b>	<b>45.4</b>
	リサイクル量	千トン	40.3	41.7	45.0	45.0	45.2
	最終処分廃棄物量※1	千トン	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2
事業所外排出量（トン）の各事業会社の内訳							
	ニチレイフーズ		17,806	18,469	21,227	20,965	18,155
	ニチレイフレッシュ		9,474	11,029	11,453	11,426	13,973
	ニチレイロジグループ		12,795	12,330	12,436	12,733	13,236
	ニチレイバイオサイエンス		45	43	20	46	44
	その他		-	-	-	-	-
<b>大気系</b>	<b>CO<sub>2</sub> ※ 2</b>		<b>289,396</b>	<b>286,382</b>	<b>279,465</b>	<b>273,348</b>	<b>259,980</b>
	SOx ※ 3		7	5	4	4	3
CO <sub>2</sub> 排出量（トン）の各事業会社の内訳							
	ニチレイフーズ		90,775	92,894	93,613	93,076	90,717
	ニチレイフレッシュ		9,956	9,830	9,914	9,281	9,376
	ニチレイロジグループ		184,258	179,529	171,652	166,509	155,815
	ニチレイバイオサイエンス		510	406	538	574	568
	その他		3,897	3,724	3,747	3,909	3,503
<b>水系</b>	<b>排水</b>	<b>千m<sup>3</sup></b>	<b>2,295</b>	<b>2,444</b>	<b>2,525</b>	<b>2,458</b>	<b>2,421</b>
	下水道	千m <sup>3</sup>	1,453	1,530	1,577	1,514	1,464
	公共水域（河川等）	千m <sup>3</sup>	841	913	948	945	957
	排水負荷量BOD ※4	トン	52	26	46	48	48
	COD ※4	トン	16	19	24	22	24
排水（千m <sup>3</sup> ）の各事業会社の内訳							
	ニチレイフーズ		1,731	1,902	1,922	1,758	1,751
	ニチレイフレッシュ		168	165	234	328	308
	ニチレイロジグループ		382	360	349	355	343
	ニチレイバイオサイエンス		6	5	8	6	6
	その他		8	12	12	11	14

※1 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

※2 地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出

※3 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

※4 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

## ■ 対象事業所

環境データ 2018年度実績集計対象事業所 下記各社の食品工場、物流センターなどを集計対象としている。事業所数が複数ある場合は（ ）内に数を記載。

### ニチレイフーズ

(株)ニチレイフーズ(9)、(株)ニチレイ・アイス(3)、(株)中冷、(株)キューレイ、(株)ニチレイウエルダイニング

### ニチレイフレッシュ

(株)フレッシュまるいち(3)、(株)ニチレイフレッシュプロセス(2)、(株)ニチレイフレッシュファーム(2)、(株)フレッシュチキン軽米、(株)フレッシュミート佐久平

### ニチレイロジグループ

(株)ロジスティクス・ネットワーク(35)、(株)NKトランス(4)、(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道(7)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東北(4)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関東(11)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東海(10)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関西(13)、(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国(14)、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州(13)、(株)キョクレイ(4)

### ニチレイバイオサイエンス

開発センター

### その他

(株)ニューハウジング

※ エネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量については、上記以外の本社や支店などのオフィスの活動、自社所有トラックによるものを含む。

※ 海外事業所は含まない。

※ 上記と対象範囲が異なる場合、その旨を記載しています。

※ 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。

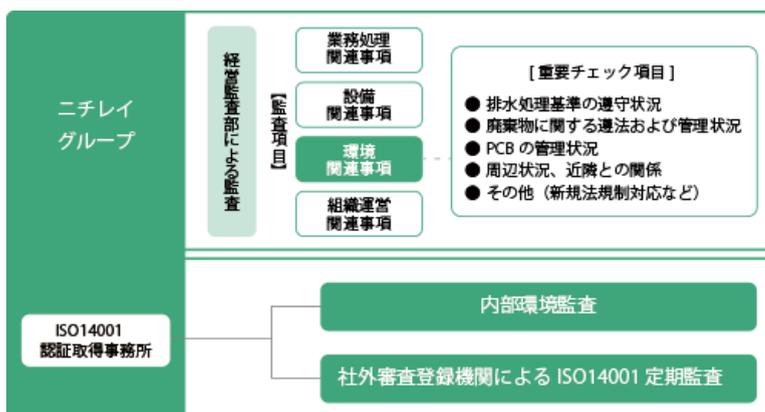
## ISO14001などの認証取得

当社グループは、食品工場におけるISO14001認証の取得を優先しています。ニチレイフーズでは直営・子会社11工場で認証を取得しています。ニチレイロジグループでは、(株)キョクレイ、(株)NKトランスでグリーン経営認証を取得しています。国内食品工場では生産量ベースで76%の工場がISO14001の認証を取得しています。

グリーン経営認証を積極的に取得

## 環境監査

当社グループでは、ニチレイ経営監査部が行う監査において、組織運営、業務処理などの事項とともに、環境法令の遵守や環境保全上の重要事項に対するグループ経営監査を実施しています。また、ISO14001認証取得事業所では、これに加えて内部環境監査および社外審査登録機関による年1回の外部審査を実施しています。



## ■社内環境教育

教育名	実施内容
環境e-ラーニング	全従業員を対象として2009年度より実施。 毎年、地球温暖化防止や資源循環、生物多様性などの身近な問題を中心に実施。
従業員の家庭における節電キャンペーン	従業員の環境意識向上のために、家庭での節電キャンペーンを2011年度より実施。 参加者の節電工夫策を共有するなど、参加者一人ひとりの電力使用量削減目標達成を目指している。
新入社員研修	当社の環境方針や目標、事業と環境のつながりについて研修を実施。
裏磐梯の社有地における体験型研修	社有地のある福島県裏磐梯地域で、従業員を対象とした体験型環境研修を2013年度～2016年度に実施。特定外来種ウチダザリガニの駆除や、社有地周辺の森林での散策などを実施。
長野県富士見町における絶滅危惧種アツモリソウの保護支援の体験型研修	当社は、絶滅危惧種であるホテイアツモリを再生させるための活動―長野県富士見町の「アツモリソウ再生会議」に、設立当初から参画。同町で、従業員を対象としたアツモリソウ保護活動を含む体験型環境研修を実施。アツモリソウの保護活動を実際に行うことで、一度バランスを崩してしまった自然を回復させることの難しさを体験。
支援林における体験型研修	豊かな自然をはぐくむ森を守り育てる「お弁当にGood! 森にGood!」プログラムの活動の一環として、支援林で、従業員を対象とした自然体験研修を実施。 ☑ ニチレイフーズ「お弁当にGood! 森にGood!」プログラム

## 環境会計

当社グループは、環境保全活動に要したコストおよび環境保全上の効果を定量的に把握するために、2000年度より環境会計を導入しています。

## ■環境保全コスト

コスト区分	主な取り組み内容	食品工場		物流センター	
		投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内コスト		1,466,247	1,232,664	302,382	317,754
内訳	公害防止コスト	1,396,235	899,803	50,510	60,352
	地球環境保全コスト	69,751	50,678	251,872	109,091
	資源循環コスト	261	282,183	0	148,311
上下流コスト	● 環境物品などの調達、購入（グリーン購入） ※発生した通常購入との差額	0	0	12,756	5,447
管理活動コスト	● 環境マネジメントシステム構築、維持管理 ● 従業員の環境教育 ● 事業所周辺の美化活動	0	18,197	0	29,751
社会活動コスト	● 事業所周辺以外の自然保護や美化、緑化活動 ● 環境保全事業、団体への寄付	0	0	0	813
<b>合計</b>		<b>1,466,247</b>	<b>1,250,862</b>	<b>315,139</b>	<b>353,765</b>

## ■ 2018年度投資額の主な内容

(食品工場)

- 廃水処理設備の維持、管理、負荷低減
- 自然冷媒冷凍機等の設備の更新
- 焼成機の高効率化

(物流センター)

- フロンの適正管理に関わる費用
- 廃水処理設備の維持、管理、負荷低減
- 省エネ型の照明器具の導入
- 冷凍機器の効率運転に関する設備導入費用

集計範囲

国内の主な食品工場および物流センター

集計の考え方・方法

- ① 減価償却費は経理システムの「固定資産一覧」を基に、廃水処理設備などの環境負荷に関わる設備を対象とし、法定耐用年数を用いて計算します。
- ② 人件費は環境保全活動ごとに必要となる作業工数を割り出し、作業工数に作業人員数および事務所の平均賃率を乗じて算出しています。

## ■ 2018年度環境保全対策に伴う経済効果 (単位：千円)

効果の内容		効果金額
収益	リサイクルによる売却益	27,652
費用削減	廃棄物削減による原材料、資材購入費 および廃棄物処理費の削減	2,832
	省エネルギーによるエネルギー費の削減 (電気)	12,263
	省エネルギーによるエネルギー費の削減 (熱)	9,319
	省資源 (節水、容器包装減量など)	7,969
合計		60,034

集計範囲

ISO14001認証取得済みの国内自営工場・8拠点

集計の考え方・方法

- ① 測定結果などに基づき集計可能な実質的効果 (リサイクル推進活動により生じた売却益、電力削減などにより生じた費用削減) についてのみ集計しています。
- ② 2017年度および2018年度に新たに実施した環境保全活動 (年度の途中から実施したものも含む) によるもので、2018年度に発生した利益貢献金額に相当します。

## 環境事故、法令違反の状況

2018年度は、環境に重大な影響を与える環境事故、法令違反、環境関連の罰金及び違約金はありませんでした。

## 「エコロジー委員会」で従業員全員参加の環境保全をマネジメント

ニチレイバイオサイエンスで消費されるエネルギーのほとんどが開発センターで使用されることから、環境保全に関する意思決定機関として「エコロジー委員会」を組織し、さまざまな提言をしたり、全社的な決定事項をフィードバックするなど、従業員と会社とのパイプライン的な役割を担っています。これらの取組みの結果は定期的に発行される掲示物「エコたん通信」として従業員へフィードバックし、全員参加の環境保全に取り組んでいます。2017年度は、前年度に導入した空調機の省エネ運転を目的に、冷暖房効率を上げる空調ネットの効果検証を実施しました。また2019年1月から生産拠点の一部を移転するプロジェクトでは、環境に配慮した新たな研究開発・生産拠点にするため、太陽光発電や電力の見える化のほか、先進的な環境設備機器の導入を進めました。また、外付けブラインドや高度なライティングシステムの導入を提案し、省エネ効果に加え、職場環境の快適性にも配慮しました。



空調ネット



委員会の様子

## 持続可能な原材料への取組み

### 基本的な考え方

ニチレイグループが社会に価値を提供し、自らが存続し続けるために、持続可能な食料資源の確保は極めて重要です。また、グループの事業は自然生態系から原材料を採取しており、サプライチェーンにおける環境面での対応、具体的にはエネルギー使用や気候変動課題への取組み、水使用や生物多様性への配慮、汚染・廃棄物・資源の効率的利用などに取り組むことは非常に重要であると認識しています。

当社はCSR基本方針「ニチレイの約束」の中から「持続可能なサプライチェーンの構築」を優先すべき重要な事項のひとつに選定し、2017年4月1日付で当社グループ共通の方針である「持続可能なサプライチェーン基本方針」を制定しました。

自らの事業活動のみならず、サプライチェーン上の社会課題や環境課題に取り組む、安全で高品質な商品・サービスを安定的にお届けできるよう、取引先やパートナー企業と適切に協業しながら、持続可能なサプライチェーンの構築に努めます。

### マネジメント体制

当社グループ全体での持続可能なサプライチェーンの構築推進のため、2016年度に「CSR経営推進会議」を設置しました。同会議でグループ共通の基本方針の検討や、各事業会社の課題や施策の共有などを行っています。年間6回以上開催し、議論した内容を取締役会や経営会議に報告して、各事業会社の持続可能なサプライチェーンの構築に向けた取組みを後押ししています。また、CSR経営推進会議を通じて、「ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針」を制定しました。以下の基本方針にのっとり、商品やサービスの調達を行うとともに、この方針の理解と実践への協力を取引先へ働きかけています。

#### ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針

##### 法令遵守：

事業を営む国・地域の法令・社会規範を遵守する。

##### 公正な取引：

公平、透明かつ公正な取引を行う。

##### 人権：

基本的人権を尊重し、安全で衛生的な労働環境の確保に努める。

##### 環境：

地球環境に配慮し、環境負荷の低減に努める。

##### 品質・安全：

商品・サービスの品質や安全性の確保に努める。

##### 情報管理：

情報を適切に管理するとともに、事業活動に関わる情報の適時・適切な開示に努める。

##### 地域社会：

企業市民として地域社会との共生を目指す。



ニチレイフーズでは、製造委託先の各工場に対しては、工場実査の形で品質保証監査をおおむね2年に一度行っており、この中で持続可能なサプライチェーン基本方針の実施状況を確認しています。

また、社内環境教育では「新任役職者研修」の中で、持続可能な原材料について、国内外の最新動向や当社グループの課題について従業員が学んでいます。くわえて、グループの取り組みとして、以下の目標を設定しています。

## 2020年度へ向けた重点課題（事業活動を軸にした展開）

- ・ 持続可能な利用に配慮して生産、漁獲等された素材やその加工品の積極調達
- ・ 取引先や地域との協働により、循環型システムを構築し資源を活かす

## 自然や地域と共生した持続可能な調達

ニチレイフレッシュの「こだわり素材」である「モーリタニア産壺たこ」では、漁場を荒らしたり、小さなたこを獲るなどの乱獲につながるものが少ない「壺漁」を地元の方とともに約40年以上一緒に取組み、品質の高いたこ原料を提供しています。また、「ブラジル産天然えび」「メキシコ産天然えび」では、政府の定めた禁漁期間や禁漁基準を遵守し、持続可能な漁業に努めています。

ニチレイフレッシュは常に安全で安心な食を安定的にお届けするとともに、資源や環境や社会の持続可能性を念頭に、今後も「こだわり素材」の開発や調達に取り組んでいきます。

## MSC/ASC認証素材への取り組み

ニチレイフレッシュは2006年よりインドネシアで調達先のPT. Mustika Minanusa Aurora（MMA）社、北カリマンタン州タラカン市と続けてきた「生命の森プロジェクト」を発展させ、WWFジャパン、WWFインドネシアとの協業でインドネシアの養殖業改善活動に取り組んできました。その結果、2017年8月にブラックタイガーえびとしてインドネシアで初めてのMSC認証※1を取得しました。

ニチレイフレッシュでは、2018年6月現在MSC認証の水産物を16種類取り扱っています。2017年度にはCoC認証※2を保有する取引先とともに、MSC認証のニシン（魚卵）を使った「数の子松前漬け」と「数の子わさび漬け」を開発しました。持続可能な水産物の販売拡大に向けて、引き続き、ASC※3認証やMSC認証の水産物の取扱いを増やしていきます。

※1 MSC認証：MSC（Marine Stewardship Council 海洋管理協議会）による持続可能な天然水産物の認証

※2 CoC認証：加工・流通過程の管理認証

※3 ASC認証：ASC（Aquaculture Stewardship Council 水産養殖管理協議会）による持続可能な養殖水産物の認証



## FA素材への取組み

ニチレイフレッシュでは、国際的に課題となっている抗菌薬（抗生物質）が効かない「薬剤耐性菌」への消費者の不安の解決にむけ、10年以上、FA（Free from Antibiotics）チキンの飼育に取り組んでいます。

一般ブロイラー養鶏では、病気の治療のほか、密飼いによる病気リスクの予防や成長促進効果を期待して、抗生物質や合成抗菌剤などの薬剤が使用されています。

「FAチキン」はワクチンは使用しますが、全育成期間を通じ、これらの薬剤を投与していません。飼育環境のこだわりや、鶏の健康に役立つ乳酸菌などの生菌剤、植物性の生薬（漢方など）、いずれも動物本来の免疫力を高め、病気への抵抗力をつけるといった独自の手法で飼育しています。人にも鶏にも環境にもやさしい畜産物です。

FAチキン（Free from Antibiotics）



## 牛のメタンガス排出抑制

牛のメタンガス排出抑制



## エネルギー・気候変動への取り組み

### 基本的な考え方

ニチレイグループでは、環境への取り組みとしてグループ環境方針を定めており、「地球温暖化防止」をテーマに掲げています。企業の事業活動と世界の気候変動は相互に大きな関わりがあります。特に、「食」に関わるグループの事業活動では、原材料の調達では自然生態系に大きく依存しており、気候変動の影響を大きく受けるといえます。また、当社グループの事業活動上、冷蔵倉庫の使用は必要不可欠であるため、エネルギー価格の増大や環境規制への対応は大きなリスクであると認識しています。以上の認識のもと、当社グループは、取引先、パートナー企業などと連携しながら以下に取り組みます。

- 食品製造におけるエネルギーの効率的な利用
- 低温輸送における効率性の向上を通じた温室効果ガス排出量の削減
- 再生可能エネルギーの利用促進を通じた、調達～生産～保管～物流～販売に至る事業活動が与える気候変動への影響の低減

### ■ 温室効果ガス排出に関するリスクとチャンス

当社グループでは、気候変動に伴ってさまざまなリスクや機会が生ずると考えており、その対応に取り組んでいます。例えば、再生可能エネルギーの固定価格買い取り制度が変更になることで、これまで当社グループの遊休地で実施してきた太陽光発電事業による収益が増加するという、制度面での機会の可能性が考えられます。低温物流事業に関しては、外気温の上昇やエネルギー価格の増大、代替フロン規制への対応、食品保存に代替方法が現れることなどがリスクと考えられます。外気温の上昇は暑い日の高温調理を避けるため、レンジ調理の食品や調理済み食品の売上が上がり、暑さに対する体温を下げたい欲求から氷製品が売れるため、加工食品事業にとってはプラスに働く側面もあります。

また、気温や降水量の変化により、局所的な農作物の不作が起こるといった物理的な影響の可能性が考えられますが、当社グループではこれに対応した原材料供給のリスクヘッジを行っているため、むしろ事業における機会となると捉えています。また、降水パターンの変化が引き起こす洪水等の天災に対しては、BCP（事業継続計画）の観点から事業操業停止に対する事前予測および対応を行っています。その他、消費者選考の変化の可能性に対しては、地球温暖化の原因物質の発生を低減した畜産物の提供や製品開発に取り組んでいます。

### マネジメント体制

#### 環境マネジメント体制

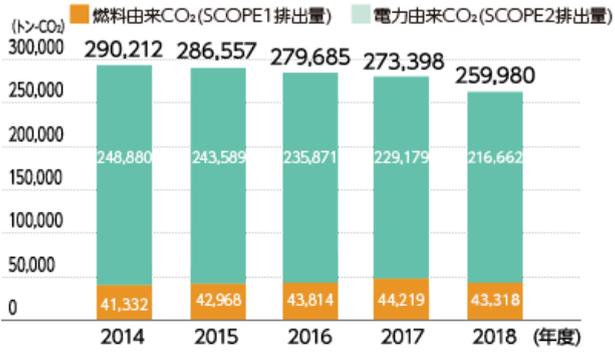
グループの目標に対する実績値に対して(株)ニチレイ・ロジスティクス関東 東京物流センターおよび株式会社ロジスティクス・ネットワーク品川物流センターでは、東京都の総量削減義務と排出量取引制度のなかで、温室効果ガスの排出実績に対する第三者検証を受けるとともに、2019年度までの削減計画を提出しています。

#### 東京都環境局HP（平日9時～18時）でのCO<sub>2</sub>排出量データの公開

#### ● エネルギー使用量



● SCOPE1とSCOPE2のCO<sub>2</sub>排出量



※ 地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出

■ 自社外の温室効果ガス排出量

地球温暖化を防止するためには、自社グループだけでなくバリューチェーンでの温室効果ガスを削減することが重要です。

当社グループのバリューチェーンのGHG排出量（Scope3）は、予備調査の範囲では排出量（Scope1+Scope2）よりも多く、特に商品の原材料調達や、自社以外の委託物流のカテゴリーで多いことがわかっています。取引先と協力してモーダルシフトを推進するなど、バリューチェーンでの温室効果ガス排出削減に取り組んでいきます。

## 取組みの状況

ニチレイグループの環境保全への考え方

■ 輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減

モーダルシフト<sup>※1</sup>の推進

ニチレイロジグループは、2003年から輸送手段をトラック輸送から鉄道、船舶に替えて環境負荷を低減するモーダルシフトに取り組んでいます。

北海道から九州までのフェリー輸送について、2009年からルートを変更したことにより、CO<sub>2</sub>排出量を30%削減<sup>※2</sup>しました。また、ニチレイフーズは、エコシップマーク<sup>※3</sup>の認定企業です。

また、ニチレイロジグループの海外子会社であるオランダのヒワ・ロッテルダム・ポート・コールド・ストアーズ社では、CO<sub>2</sub>削減のため、バージ船<sup>※4</sup>を活用しています。同社の倉庫は岸壁に隣接しているため、コンテナヤードから倉庫までの輸送にバージ船を活用し、トラック利用を極限まで少なくしています。

※1 モーダルシフト（modal shift）：トラックや航空機による輸送を鉄道や船舶による輸送に転換すること

※2 国内でのモーダルシフトにおけるCO<sub>2</sub>排出量30%削減は一運行あたりの計測によるものです

※3 エコシップマーク：海上輸送を一定以上の割合で利用して認定された荷主企業や物流企業が、環境対策に貢献する企業としてわかるマーク

※4 河川を航行できる運搬船

● 総輸送距離の比較



## ■ フロンへの対応

### 自然冷媒の活用と冷媒漏れ防止による効率運転

ニチレイロジグループでは、冷蔵倉庫の新設・増設には基本的に自然冷媒を選択しており、既存設備についてもフロン冷凍設備から自然冷媒冷凍設備への更新を推進しています。また、冷凍機の冷媒漏洩削減のため、2013年度から、従来の10倍以上の精度を持つ高感度の検知器を導入する等、全国の物流センターで冷媒漏洩点検の強化を行っています。

2018年9月からは(株)日立製作所と共同で、船橋物流センターにおいて、先端IoT技術を活用し、冷凍設備の故障予兆診断と、設備運転・メンテナンスの効率化に向けた共同実証を行っています。エネルギー消費を可視化し、運用改善の分析をすることで、冷蔵設備の高効率運転を行います。

## ■ 容器包装におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減

### プラスチックの削減

パッケージや容器の見直しによりプラスチックの使用量を減らすことでCO<sub>2</sub>削減に努めています。

- ・「焼おにぎり 10個入」や「今川焼」のトレーの廃止
- ・「本格炒め炒飯®」のパッケージを小型化
- ・「えびとチーズのグラタン」、「えびとチーズのドリア」の容器の厚みを薄肉化



## ■ 産地での取組み

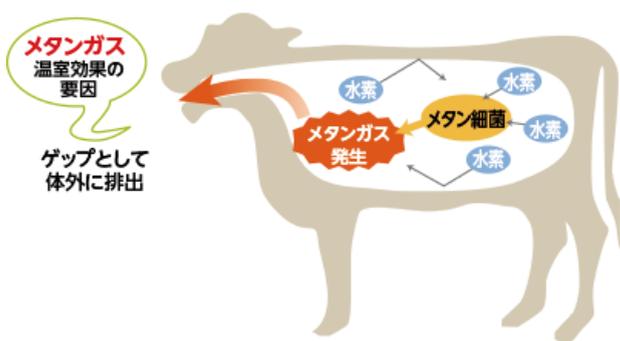
### 牛のメタンガス排出量抑制のための取組み（ニチレイフレッシュ）

牛、羊などの反芻動物は、エサを分解・消化する際、CO<sub>2</sub>の21倍もの温室効果があるメタンガスを胃の中で発生させ、体外に排出することが知られています。地球温暖化防止が世界的な課題となる中、ニチレイフレッシュは、牛が排出するメタンガスの抑制に取り組んでいます。

消化の過程でルーメン（1番目の胃）内の微生物の働きにより生成される水素は、メタン細菌によりメタンガスを生成しゲップとして体外に排出されます。牛にアマニ油脂肪酸カルシウム<sup>※1</sup>を与えると、ルーメン内の水素は、アマニ油脂肪酸カルシウム中の不飽和脂肪酸と結合して飽和脂肪酸となり、その結果メタンガスの発生が抑制される、という研究成果に着目し、2009年度より国内の農場で交雑種（オスの和牛とメスの乳牛の掛け合わせ）による動物試験を重ねてきました。

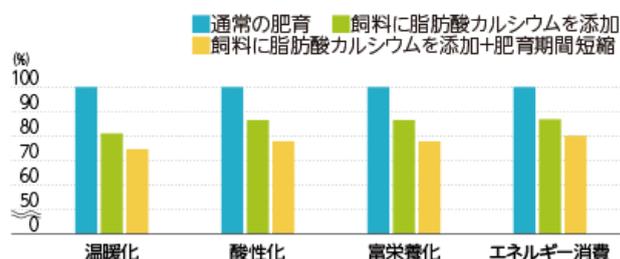
これにより、通常の肥育方法に比べて10%以上の環境負荷低減効果があること（2010年京都大学によるライフサイクルアセスメントLCA<sup>※2</sup>手法による評価）、「オメガバランス」<sup>※3</sup>が改善されること、増体効果で肥育期間が短くなり飼料コストが抑えられること等が確認され<sup>※4</sup>、全国各地でアマニ油脂肪酸カルシウムを用いた飼育プログラムで生産した牛肉の販売を展開しています。また交雑種に加え、和牛やホルスタイン種（オス）にも拡大して生産に取り組んでいます。

### ● メタンガス発生仕組み



**アマニ油脂肪酸カルシウムの給与により、メタンガスの発生を抑制します。**

### ● 地球環境に与えるインパクト評価



※京都大学による評価  
※3 掲載図

- ※1 アマニ油脂肪酸カルシウム：α-リノレン酸（オメガ3系脂肪酸）を豊富に含むアマニの種子から抽出した油とカルシウムを結合させたもの。
- ※2 LCA(Life Cycle Assessment)は原料から製造・物流・廃棄までの製品のライフサイクル全体で発生する環境負荷を総合的に分析・評価する手法。
- ※3 オメガバランス：人の体に必要な必須脂肪酸のなかでも特に重要な「オメガ6系（n6）脂肪酸」と「オメガ3（n3）系脂肪酸」のバランスのこと。
- ※4 「環境負荷低減型でn6/n3比に優れた低コスト牛肉生産技術の開発」茨城県常陸大宮地域農業研究・普及協議会（2011年発行）

### ■ 食品工場での取組み

ニチレイフーズの食品工場には冷凍、冷蔵設備が設置されています。これまでも運転管理の徹底を図り、高効率な設備の導入などを行ってきましたが、2014年度には全工場でのデータの分析などを実施し、適正運転のための課題抽出を行い、その改善のための取組みを実施しました。いくつかの工場で検証した結果を、他工場に展開しています。2017年度は食品工場のラインの移設によるエネルギー使用量の削減や、製造工程の集約・見直し、ボイラー関連の運転調整をはじめとした省エネ活動、洗浄水使用量の調整、空調の更新などを行いました。工場でのさまざまな取組みを通じて、CO<sub>2</sub>排出量の原単位を削減しています。

### ■ 冷蔵倉庫・物流センターでの取組み

冷媒漏れ防止による効率運転

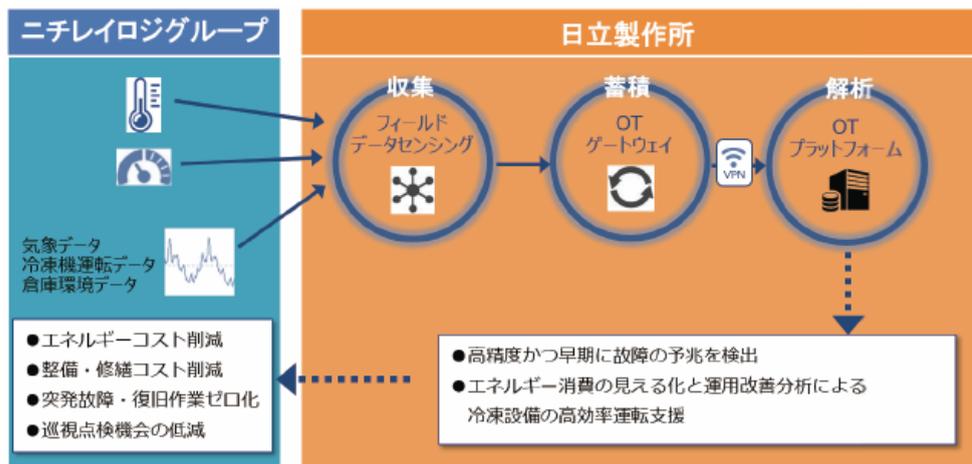
ニチレイロジグループでは冷凍機の冷媒漏洩削減のため、全国のセンターで冷媒漏洩点検の強化を行っています。

2013年度からは、従来の10倍以上の精度を持つ高感度の検知器を導入し、微細な漏れも逃さず見つけられるようになりました。冷媒を漏らさず適正量に管理することで、冷凍機の運転効率を最大に近づけ、無駄な電力を使わないように努めています。さらに非常駐者による点検を加えることで、常駐者だけでは気づきにくい省エネポイントも浮き彫りになり、電力削減につながっています。また、センター全体を省エネの観点で点検する「省エネ点検」も並行して行っており、冷媒以外にもCO<sub>2</sub>削減・地球温暖化防止に寄与しています。

2018年9月からは日立製作所と共同で、船橋物流センターにおいて、先端IoT技術を活用し、冷凍設備の故障予兆診断と、設備運転・メンテナンスの効率化に向けた共同実証を行っています。エネルギー消費を可視化し、運用改善の分析をすることで、冷蔵設備の高効率運転の支援を可能とし、CO<sub>2</sub>を削減していきます。



### ● 共同実証の概念図



## 自然冷媒の活用

ニチレイロジグループでは、冷蔵倉庫の新設・増設には基本的に自然冷媒を選択しており、既存設備についてもフロン冷凍設備から自然冷媒冷凍設備への更新を推進しています。

### ■ 自然冷媒冷凍設備への更新事例

年度	事業所	活用した補助金事業
2013年度	(株) ロジスティクス・ネットワーク 杉戸物流センター	「エネルギー使用合理化等事業者支援補助金」
2014年度	・ (株) ニチレイ・ロジスティクス関西 咲洲(さきしま) 物流センター ・ SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd. (タイ)	—
2015年度	・ (株) ロジスティクス・ネットワーク 船橋物流センター8期増設棟 ・ (株) ニチレイ・ロジスティクス東海 白鳥物流センター8号館	「先進技術を利用した省エネ型自然冷媒機器普及促進事業」
2016年度	・ (株) ニチレイ・ロジスティクス中四国 高松西物流センター2号棟 ・ (株) ニチレイ・ロジスティクス東海 春日物流センター2号棟 ・ (株) ロジスティクス・ネットワーク 船橋物流センター4期棟および9期棟	「先進技術を利用した省エネ型自然冷媒機器普及促進事業」
2017年度	・ (株)ニチレイ・ロジスティクス東北 仙台物流センター1号棟 ・ (株)ニチレイ・ロジスティクス東北 盛岡物流センター2号棟 ・ (株)ニチレイ・ロジスティクス関東 水戸物流センター1号棟	「脱フロン社会構築に向けた業務用冷凍空調機器省エネ化推進事業」

## エネルギー使用量効率化のための積極的な企業間連携

ニチレイロジグループは物流・生産・在庫に関わるサプライチェーンを、全体最適の視点で効率化することで、商品保管時の電力使用量の削減や、輸送、生産における燃料およびCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。

ニチレイフーズと生産委託先の一つである(株)北海道フーズ様のケースでは、品切れを防ぐために両社がそれぞれ安全在庫を確保しており、情報共有も部分的でした。また販売に連動した生産や輸送の繁閑の差は、両社のサプライチェーン全体に負荷を与えていました。

ニチレイロジグループは、2009年度より北海道フーズ様の物流業務を包括受託して、さまざまな改善を進めてきました。当初からの継続的な課題であった物流の繁閑の差について検討した結果、物流の平準化を実現するために、3社が協力して、営業情報、販売計画、補充・在庫計画、生産計画、輸送計画までを連動管理することを提案し、2011年度からはニチレイフーズを加えた3社共同による改善プロジェクトがスタート。2012年10月より本格運営に移行し、現在も改善活動が継続されています。

### ■ 取組み内容

1.3社に関連する必要情報をグループウェアを利用して「見える化」し、日々の情報共有を図ることで生産・販売・在庫・輸送計画を連動させて総合的に管理する体制に変更した。

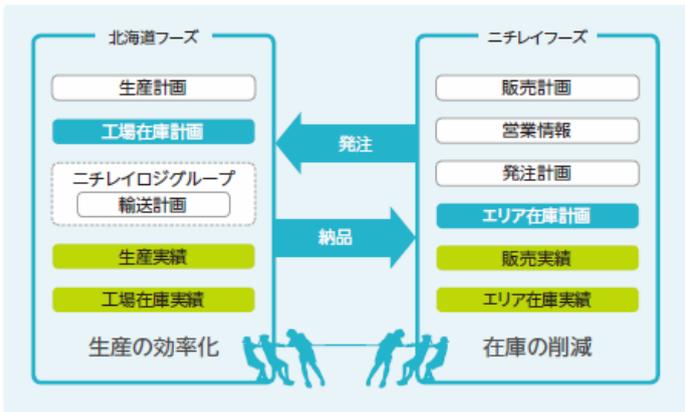
2.ニチレイフーズの物流センター在庫の削減を優先する補充計画から、一元管理のもと輸送・生産効率も考慮した補充計画に変更した。

### ■ 成果

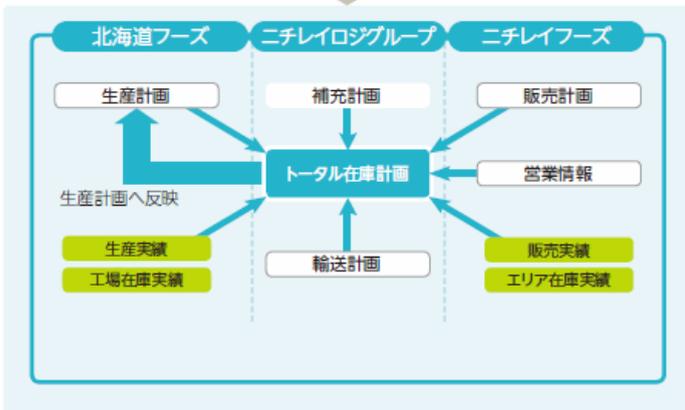
- ・ トータル在庫の削減(▲25.7%)
- ・ 物流の平準化
- ・ 積載率の向上
- ・ 輸送(補充)の多頻度、小ロット化解消
- ・ 冷蔵倉庫、食品工場における電力使用量の削減
- ・ 生産効率の向上
- ・ 事務作業の軽減 等

● 3社連携によるトータルコスト削減と物流品質向上の取組み

〈取組み前〉



〈取組み後〉



液体燃料（重油・灯油）から都市ガス、LPGへの燃料転換

重油や灯油に比べ、CO<sub>2</sub>の排出量が少ない都市ガスやLPGへの転換を実施しています。

2012年度にニチレイフーズ長崎工場にてボイラー燃料として使用していた重油を都市ガスに転換し、その後船橋工場、山形工場でも実施しました。燃料転換と併せて、高効率の設備に更新し、さらに省エネ活動推進の結果、大幅にCO<sub>2</sub>排出量を削減しました。

排熱の利用

ニチレイフーズ船橋第二工場に導入したフライヤーは、高温高圧の蒸気を使用して油を加熱しています。この蒸気から発生するドレンを回収する際、大気開放時に発生する蒸気（フラッシュ蒸気）については利用せず、そのまま捨てていました。そこで、このフラッシュ蒸気を回収する装置を導入し、回収した蒸気を前工程のスチーマーで再利用することを考えました。高温高圧のドレンをフラッシュタンク（回収装置）に開放し、高温ドレンはポンプで既存ルートに戻し、フラッシュ蒸気は前工程のスチーマーの蒸気配管へ送り、優先的に使用します。この結果、スチーマーの蒸気使用量を減らし、CO<sub>2</sub>排出量を年間21トン削減することができました。

太陽光の利用

ニチレイフーズ船橋工場と（株）ニチレイ・アイスでは、太陽光発電設備を設置しています。また、ニチレイロジグループでは2017年には松江物流センター、釧路物流センターに、2018年には咲洲物流センターへの太陽光パネル設置を行いました。物流センター3カ所における太陽光発電の電力量は年間約108万kWhを見込み、CO<sub>2</sub>は年間約448.3tを削減できる予定です。



咲洲物流センター



松江物流センター



釧路物流センター

## 緑化の取組み

CO<sub>2</sub>削減の取組みとして、排出量を減らすとともに、その吸収源を育てていく活動にも取り組んでいます。敷地内の緑地を管理するほか、近隣の方々とともに植林や花植え・草取りなどの活動にも参加しています。



関西工場の緑化



## 輸配送での取組み

### 最適な物流システムの導入によりCO<sub>2</sub>削減を目指す

当社グループは各事業会社で物流におけるCO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでいます。

商品輸配送時のCO<sub>2</sub>排出削減を重点課題のひとつに掲げているニチレイフーズは、海上輸送を一定以上の割合で利用して認定された荷主企業や物流企業が使うことが可能な、環境対策に貢献する企業の証である「エコシップマーク」の認定企業です。

2017年度は、北海道の工場から関東への輸送の一部、関東から広島への輸送の一部をトラックから鉄道に置き換えモーダルシフトを推進しましたが、販売量の増加によりCO<sub>2</sub>排出量は前年度比で増加しました。2018年度は海外輸入品の揚げ地港の変更による国内輸送距離の削減と物流拠点見直しによる鉄道利用を推進します。

ニチレイロジグループは、食品物流を通じた生活者の暮らしへの貢献を最も重要な責務と捉え、TC（トランスファーセンター）機能や共同配送など、最適な物流ソリューションの提案を通じて、お客さまにとって最適な物流効率化を実現するとともにCO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでいます。ほかにも、積載率の向上による車両台数の削減や、納品時間・納品先などの軒先条件の緩和による待機時間の短縮や車両回転率の向上など、運送効率を上げる取組みを推進し、CO<sub>2</sub>排出削減につなげています。

### ● ニチレイフーズ商品輸送時のCO<sub>2</sub>排出量と原単位



※ エネルギー使用量の算定方法を一部トンキロ法から燃料法に変更しました。

冷蔵倉庫・物流センターでの取組み



## 欧州の物流事業における活動

ニチレイロジグループの海外事業は、1988年のオランダ進出から始まり、ニチレイ・ホールディング・オランダB.V.の傘下に、冷蔵倉庫、低温輸送事業を含め8社を保有（2018年3月現在）し、ロッテルダムを中心にそのサービス圏を拡大しています。欧州域内の物流は、インフラが整備され、トラック輸送が中心となっています。近年、環境配慮への取組みとしてモーダルシフト（Modal Shift）が推進され、トラックによる幹線貨物輸送から大量輸送が可能な海運や鉄道輸送への移行が進んでいます。一般的に、コンテナ船がロッテルダム港に入港すると、コンテナヤードでコンテナを一つひとつ船から降ろし、トラックで倉庫へ運びます。コンテナ船は年々大型化しており、大きい船では40フィート※コンテナを9,000本超積むことができます。これをトラック輸送すると車両9,000台を使用することになり、相当量のCO<sub>2</sub>を発生させます。

そこでオランダのヒワ・ロッテルダム・ポート・コールド・ストアーズ社では、CO<sub>2</sub>削減のため、バージ船を活用しています。バージ船とは、河川を航行できる運搬船です。同社の倉庫は岸壁に隣接しているため、コンテナヤードから倉庫までの輸送にバージ船を活用し、トラック利用を極限まで少なくしています。バージ船1隻でコンテナ25本を積むことができ、トラック25台で運ぶ場合と比較すると、バージ船1運航当たり約3.5トンのCO<sub>2</sub>削減が可能です。現在、ロッテルダム港湾局の専用バージ船2隻にて運営されています。

また、フランスにあるゴドフロア社の運送部門では、環境への取組みとしてドライバーへのエコドライブ教習を2011年度より導入しました。倉庫部門においては、社会貢献活動として、保管商品で期限切れに近いものを荷主様の了解を得て慈善団体に寄付しています。

※ 40フィート：12.192m



ヒワ・ロッテルダム・ポート・コールド・ストアーズ社



バージ船

## ドライバーコンテスト全国大会やエコドライブ講習会の実施でドライバーの意識を向上

ニチレイロジグループでは、輸送の協力運送会社を全国で組織し、グリーン経営認証取得を推奨しています。2017年4月1日現在、会員102社のうち75社（営業所単位）がグリーン経営認証を取得しています。

また、物流品質の向上を目的としたドライバーコンテストやエコラン講習会を毎年実施しています。ドライバーコンテストでは、お客様にご提供する輸送サービスにおける安全と品質に関する基本的ルールなどの学科試験と、日常点検についての実務試験の総合得点で競い合います。

コンテストを通じて、出場者の安全かつ高品質な輸送サービス提供の維持・向上、点検技術、安全運転意識の向上を図るとともに、一人ひとりの仕事への誇りや社会的責務の自覚へつなげていきます。2017年度は、さらなる物流品質向上を目指し、第5回全国大会を実施しました。

また、幹線輸送のパレット化、定時発着運行を2014年度から本格的に開始しました。拠点での待機時間、積み込み時間が大きく短縮され、長距離ドライバーの労働環境改善につながりました。



ドライバーコンテストの様子

## 「グリーン経営認証」を積極的に取得

（株）NKトランスは、輸送事業者として社会と共存するため、環境保全を企業の社会的責任と捉え、事業活動における環境負荷の削減を図っています。

公害防止条例などの環境法令・規制への対応に加え、アイドリング・ストップ運動やエコドライブを推進しています。計画的に低公害車の導入を進めるほか、法令を遵守した適切な廃棄物処理を行っています。

こうした活動を受け、2012年1月、沼津物流センターにてグリーン経営認証※を取得し、2014年3月には新座営業所（運送事業）においても取得しました。

（株）キョクレイでは、本社・山下、大黒、厚木、中井、キョクレイオペレーションの全物流センターで、グリーン経営認証を取得しています。

※ 「グリーン経営認証」：交通エコロジー・モビリティ財団が認証機関となり、グリーン経営推進マニュアルにもとづいて一定のレベル以上の取組みを行っている事業者に対して、審査のうえ、認証・登録を行うもの。

## モーダルシフトの取組み

ニチレイロジグループの(株)ロジスティクス・ネットワークは、冷凍食品輸送におけるモーダルシフト拡大の実績を評価され、2016年に「第14回モーダルシフト取組み優良事業者公表・表彰制度」でモーダルシフト最優良事業者賞(大賞)を受賞、2017年には「グリーン物流パートナーシップ物流審議官表彰<sup>※1</sup>」を受賞しました。ロジスティクス・ネットワークは、調達・在庫管理、配送に至るまで、荷主である顧客企業の全物流を改善・運営する3PL<sup>※2</sup>事業者として、10年以上にわたってモーダルシフトを推進しています。単に鉄道やフェリーを利用するだけでなく、複数の荷主を組み合わせた幹線輸送の共同化、需要予測システムを活用した輸送の効率化・平準化など、さまざまな先進的な取組みを導入してきました。2009年からはコンテナリレー便で太平洋側のフェリーで運送距離を増やすことにより、従来の日本海側航路と陸送を組み合わせたルート比で30%のCO<sub>2</sub>を削減しています。2017年の受賞は、荷主であるニチレイフーズ、パートナー企業のオーシャントランス(株)、日本通運(株)と共同での受賞となりました。今後も環境負荷低減や労働力不足に対応した持続可能な事業運営を推進していきます。

※1 国土交通省などが実施する、物流分野におけるCO<sub>2</sub>削減を促進するための優れた取組みを表彰する制度

※2 3PL : Third Party Logistics

## トラックの予約システム

物流センターでは、トラックの入庫が一定時間に集中したり、トラックの積み荷がわからないことによりスムーズな荷下ろし・積み込みができず、ドライバーが長時間待機せざるを得ないことが社会的な課題になっています。

このトラック待機問題の緩和・解消を図るため、ニチレイロジグループでは2017年10月より「トラック事前予約システム」を運用開始しました。システムを利用することにより、物流センターごとに設定された時間帯別の出入庫可能枠に対して、トラック側(荷主や運送会社)が入出庫の希望時間の予約が可能になります。また、トラック側から積荷明細を物流センター側に事前送付することで、これまでトラック到着後に行っていた運送会社の照合やオーダーの事前の照合を行うことができます。出入庫作業がスムーズになることで、トラックの稼働時間を短縮し、結果的にCO<sub>2</sub>の削減にもつながります。(株)ロジスティクス・ネットワークの杉戸物流センターと大阪埠頭物流センターへの導入を皮切りに、順次導入センターを増やしていきます。

## 本社・オフィスでの取組み

ニチレイグループでは、所有ビルでの省エネ設備の導入や、事務所における節電活動、環境配慮型車両の導入などを行っています。本社ビルでは、室温・照度の変更、消灯の徹底などに取り組んでいます。また、営業支社では営業車両にハイブリッド車を導入したり、食品工場や低温物流センターでは電気自動車を試験的に導入し、お客さまの送迎等に活用しています。

技術開発センターでは、電力使用量をリアルタイムに監視する「デマンドコントローラー」を2011年6月より導入しています。これにより、電力需要期において使用量の上限値を抑える管理が可能となりました。また、夏期には、原材料や試作品などを保管する冷凍庫・冷蔵庫や保存試験を行う貯蔵試験庫の運転の見直しや、空調利用を抑える目的で設置しています。

通年の取組みとして、食品の加熱機器で使用している蒸気を作るボイラーの運転管理を徹底しています。

## 販売店舗・お客様に関わる領域での取組み

ニチレイフーズ「お弁当にGood!森にGood!」プログラム



## 業界団体における活動

気候変動を回避する活動の一環として、業界団体の会員となることで業界団体が主導する低炭素社会づくりに向けた施策に協働して取り組んでいます。ニチレイおよびニチレイフーズは一般社団法人日本冷凍食品協会の正会員であり、ニチレイロジグループ本社およびニチレイロジグループの主要子会社は一般社団法人日本冷蔵倉庫協会の会員となっています。

# 水資源保全への取組み

## 基本的な考え方

ニチレイグループでは、環境への取組みとしてグループ環境方針を定めており、「持続可能な資源循環の推進」、「自然との共生」をテーマに掲げています。水利用は、これらのテーマと密接に関わる重要な要素です。

加工食品事業においては、農産品や畜産品の生育、調理冷凍食品の製造、製造時の衛生維持管理の面で、水資源は非常に重要です。また、低温物流事業においても、水冷式の冷凍機の稼働などに水は必要です。

環境中期目標（2016年度～2018年度）として、国内の食品工場を中心に「各地域の水を取り巻く環境事情を考慮し、持続可能な水利用に向け、効率的な水利用を通じて、水資源の保全に取り組む」という行動目標を策定しました。適切な水利用と排水の管理を行い、事業活動による生物多様性の影響を把握しながら、持続可能な水利用と保全、水使用の削減に継続的に取り組んでいきます。

## マネジメント体制

事業で使用した水資源については、国内事業所での水の使用量・排水量の年間実績を、CSRレポートに掲載し社外に公表しています。これらを含めたCSRレポートの内容については、5月に開催される当該年度一回目のグループ環境保全委員会にて、経営層をはじめとする委員が承認しています。

水源保全につながる森林保護活動については、ホームページや、社内イントラネットにて社内外に周知をしています。また、従業員の環境意識向上を目的として、支援先の森において体験型環境教育を行っています。2019年度は水リスクアセスメントの取組みを開始しました。

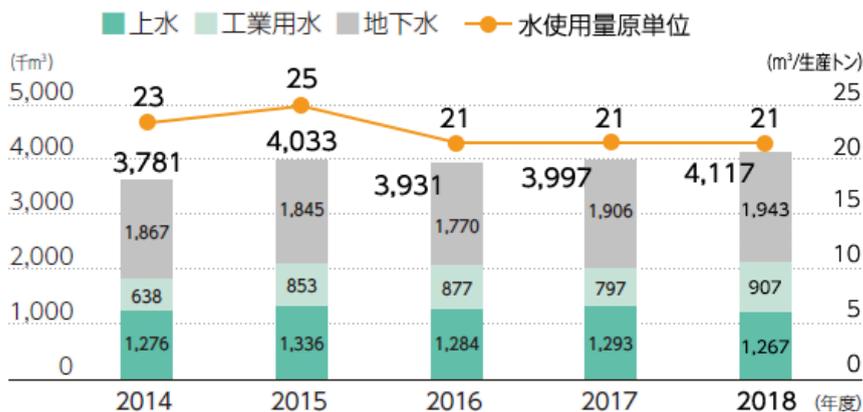
環境保全委員会 グループ環境保全委員会

## 取組みの状況

事業活動に関わる水への取組みとして、食品工場や低温物流倉庫では節水に取り組むとともに、ポスター掲示等を通じて従業員に対する啓発を行っています。国内事業所では各種法令を遵守し、水の使用量と排水の水質について定期的にモニタリングを行い、把握・管理しています。拠点ごとに削減目標を設定し、グループ全体で水の削減に努めています。また、水をはぐくみ、生物多様性の保全につながる森林の保護活動も行っています。

主な取組みは以下をご参照ください。

### ● 水使用量（取水源別）



ニチレイフーズ「お弁当にGood！森にGood！」プログラム



環境マネジメント > 環境マネジメント体制 > 中期目標と実績 > グループ中期目標



# 生物多様性保全への取組み

## 基本的な考え方

生物多様性方針

## マネジメント体制

ニチレイグループでは、「自然との共生」をグループ環境方針の3つの重点課題の柱の一つとして、環境保全活動に取り組んでいます。事業活動において、持続可能な素材や加工品の積極調達、取引先や地域と協力して行う循環型システムの構築、事業所や調達先での生物多様性保全や環境啓発活動、情報発信などを行っています。

取組みは事業会社ごとの「環境保全委員会」と年三回行われる「グループ環境保全委員会」において報告され、内容・進捗に応じてグループ全体の環境保全に関する方針・政策を策定しています。生物多様性の取組みは、策定された計画に基づき行っています。

## 取組みの状況

### ■ <wwfインドネシア・wwfジャパンとの連携> 10年超にわたる「生命(いのち)の森プロジェクト」を通じて、北カリマンタンの生物多様性保全を推進

インドネシアのカリマンタン島にある北カリマンタン州は、農園や植林地、えびの養殖池の開発などで深刻な自然破壊に直面しています。沿岸地域はえびの養殖池が急増して、森林やマングローブが次々に伐採され、環境の急激な変化により、貴重な野生生物が絶滅の危機にさらされています。

ニチレイフレッシュは、マングローブの減少を危惧して、調達先のPT. Mustika Minanusa Aurora (MMA) 社および北カリマンタン州タラカン市と共同で2006年に「生命の森プロジェクト」を開始しました。配合飼料や電気を使わない粗放養殖えびを販売し、収益の一部をMMA社の「マングローブ基金」に寄付して植樹活動や地域の生態系保全に役立てられています。現在はWWFインドネシア、WWFジャパンと協力し「WWF北カリマンタン海と森の保全プロジェクト」の一環として養殖改善活動を推進しています。10年間で302ヘクタールに達する面積に植樹を実施し、マングローブ林が回復することで、小鳥やカニ、小魚などの動物が増え、テングザルも外部からの連れてきたものが自然繁殖しました。この活動により、MMA社の一部の粗放養殖池において、2017年8月にブラックタイガーえびとしてはインドネシア初のASC認証を取得しました。



半世紀で約50%の森が失われています  
詳細は以下をご参照ください。



北カリマンタン州



大きく育ったえび



マングローブの再生

ニチレイフレッシュ「生命(いのち)の森」プロジェクト



### ■ 売り上げの一部で森林保全活動を支援

【ニチレイフーズ「お弁当にGood!森にGood!」プログラム】

ニチレイは、CSR活動の一環として、森林クレジットの購入を通じ、同協会が実施する森林保全活動を支援しています。

ニチレイフーズは、商品の原料となる地球の恵みに感謝し、森を守り育てるプログラム「お弁当にGood!森にGood!」を実施し、2014年3月より「お弁当に

Good!」シリーズの売り上げの一部をクレジット購入にあてています。2018年7月1日現在、森林保全活動の支援面積の累計は6,058,000㎡（東京ドーム約130個分）になっています。

## ニチレイフーズ「お弁当にGood!森にGood!」プログラム



### ■ 福島県裏磐梯の自然環境調査・環境および生物多様性の保全活動を支援

ニチレイは福島県裏磐梯の松原湖周辺に土地を所有しており、周辺の自然環境の調査と、それにもとづく環境や生物多様性の保全活動の支援を行っています。裏磐梯の所有地周辺は1888年の磐梯山の噴火によって植生が消失しましたが、125年ほど経過したことにより、アカマツ林、シロヤナギ、ヨシの湿地、湖沼の水生植物群落など、遷移途中の植生を見ることができます。一方、裏磐梯高原には、この地に緑を蘇らせようとした人々によって植林されたアカマツの林が広がっていますが、当社所有地には植林地がなく、ほとんど手つかずの自然の遷移の様子を観察できる、学術的に貴重な土地となっています。

ニチレイでは2011年度より、福島大学大学院共生システム理工学研究科実践教育推進センターの自然共生・再生プロジェクト部が実施する裏磐梯の自然に関する調査への支援を行ってきました。2013年度からは福島大学大学院共生システム理工学研究科のプロジェクト「遷移途中にある自然環境を自然遺産として良好に保全するための研究モデルの策定-磐梯朝日国立公園の人間と自然環境系（生物多様性の保全）に関する研究-」を支援しています。当社所有地に限らず、裏磐梯地域のさまざまな場所での湖沼群の植物や昆虫の調査、そして猪苗代地域では猪苗代湖の湖底堆積物の分析など、幅広い研究を実施した結果、複数の絶滅危惧種が確認されたり、猪苗代湖の形成史の一部が分かったり、さらには、既知のものとは大きく異なる特徴をもつ新種の可能性が高いカゲロウの一種も発見されるなど、これらの地域の自然の希少性が科学的に明らかになってきています。

2017年度は今後の取組みを検討するため、福島大学の教授の同行のもと、社有地内の状態を確認しました。特にトンボの多様性に富み、水環境も良好であることがわかりました。また、猪苗代湖や裏磐梯湖沼流域における、水環境保全を推進する「きらめく水のふるさと磐梯」湖美来（みずみらい）基金（猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会）にも寄付を行っています。同基金は活動内容を情報発信し、広く理解と支援の輪を広げることで、猪苗代湖と裏磐梯湖沼群を美しいまま未来の世代に引き継いでいくことを目的としています。



裏磐梯地域の湖沼における水質調査



新種の可能性の高いヒメシロカゲロウ属

### ■ 絶滅危惧種アツモリソウの保護支援

かつて長野県富士見町内の山中に自生したアツモリソウは、乱獲、鹿などの野生生物による食害、地球レベルで問題となっている気候変動が影響し、自生地で激減し、絶滅危惧種に指定されています。これに危機感を持った富士見町の皆さまが「富士見町アツモリソウ再生会議」を立ち上げ、何とか元の姿に戻したいと活動を続けてきました。

当社グループはこの活動に立ち上げ当初から参画し、バイオ技術を駆使して2011年度には累計約3万本の苗を増やすことに成功しました。そして、再生会議と当社グループが苦心を重ねて発芽させ、育てた株が、種撒きから6年という歳月を経た2014年5月中旬に、遂に開花しました。以降2018年度まで連続して開花しています。

この成果は、アツモリソウ再生を目指す取組みとして初めて“開花”という難しい関門を乗り越え次の段階への進展の可能性を示すもので、今後の保護活動への大きなはずみになります。また、「自治体との共同」として当社は長野県、富士見町、富士見町アツモリソウ再生会議と、「生物多様性保全パートナーシップ協定」を2019年2月4日に締結しました。今後も、ニチレイグループは再生会議の主要メンバーとしてアツモリソウの保護に取り組んでいきます。



開花したアツモリソウ

## 絶滅危惧種アツモリソウの保護支援と生物多様性保全パートナーシップ協定

<https://www.nichirei.co.jp/csr/environment/action/office>

ニチレイグループは、長野県富士見町でランをはじめとする園芸植物の研究・育種を行っていたことなどから、2003年度よりカマナシホテイアツモリソウをはじめとするアツモリソウ類の保全再生活動に参加しました。2014年度には人工増殖によるカマナシホテイアツモリソウの開花に成功し、2018年度には103輪が開花するという成果をあげています。2019年2月、長野県、富士見町、富士見町アツモリソウ再生会議と当社は、「生物多様性保全パートナーシップ協定」を締結しました。

協定期間は2019年4月1日から2022年3月31日までの3年間で、ニチレイグループはアツモリソウ類の保全再生に必要な技術提供や、活動に必要な経費の一部を支援していきます。



## 大気への排出

### マネジメント体制

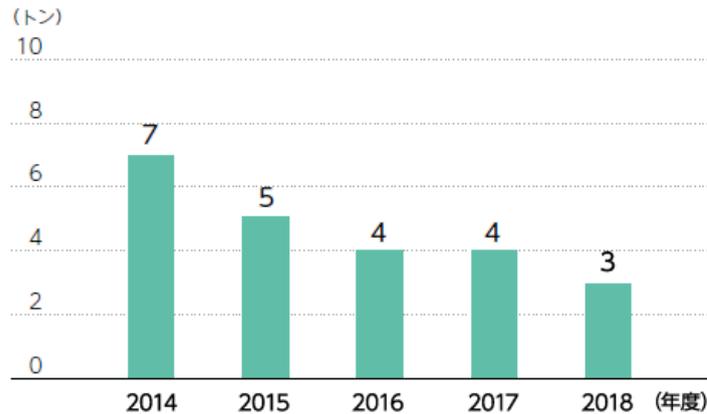
化学物質管理に関しては、PRTR法対象物質やPCB（ポリ塩化ビフェニール）について、法令に定められた基準にのっとった管理・保管を行っています。また、環境事故・法令違反の状況について、2018年度は、環境に重大な影響を与える環境事故、法令違反はありませんでした。

### 取組みの状況

#### NOx、SOx、PMの排出を低減

食品工場では、ボイラーなどで重油やガスを燃焼する際にNOx（窒素酸化物）やSOx（硫黄酸化物）が発生します。工場では、適正な設備管理により、法令で定められた排出基準を遵守し、総排出量削減を図っています。ニチレイロジグループでは、輸配送については、鉄道やフェリーを活用したモーダルシフトや共同配送などの物流効率化を推進。使用する車両については、排ガス規制適合車両への切り替え、適正な車両整備、エコドライブの推進などを行うことで、NOxやPM（粒子状物質）の排出低減を進めています。また、ニチレイグループの事業上、VOCの排出基準に相当する排出はありません。

#### ● SOx排出量



※ 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

#### ■ フロンの使用・管理

フロンは、オゾン層破壊の原因物質といわれ、オゾン層破壊係数の高いフロンから順次、生産全廃や管理の規制が行われてきました。

ニチレイグループでは、食品工場や物流センターの冷却設備の冷媒としてフロンを使用しています。冷媒は密閉された冷却設備の中で循環していますが、設備管理を適切に行うことで、漏れの発生を防ぐとともに、設備の大規模修繕時には法に従った回収などを行っています。

一方、フロンが地球温暖化効果ガスのひとつであることも課題となってきました。地球温暖化には冷却設備の使用エネルギー起源のCO<sub>2</sub>も関係するため、省エネルギー性能にも配慮し、新規設備の冷媒選定を進めています。

2016年度はニチレイフーズ白石工場で自然冷媒冷凍機を導入しています。この冷凍機の設置費用の一部は、環境省「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金」の交付を受けています。また、ニチレイロジグループでは、冷蔵倉庫の新設・増設には基本的に自然冷媒を選択しており、既存設備についてもフロン冷凍設備から自然冷媒冷凍設備への更新を推進しています。

自然冷媒の活用

# 排水・廃棄物および化学物質管理

## 基本的な考え方

ニチレイグループでは、環境への取組みとしてグループ環境方針を定めており、「持続可能な資源循環の推進」をテーマに掲げています。当社グループでは、企業の事業活動が自然環境に及ぼす影響は大きいことを認識しています。事業活動を通じた汚染物質の排出や化学物質の使用が大気や土壌に影響を与えたり、事業活動の拡大により、廃棄物の発生も増加し、有限な資源に影響を及ぼします。特に、グループの事業は原材料調達において自然生態系に大きく依存しており、それらが損なわれることは事業上大きなリスクになるとともに、食品廃棄物の発生は大きな課題です。

上記の課題認識にもとづき、当社グループは、取引先やパートナー企業、さらには消費者の皆さまの協力を得ながら、有限な地球資源を効率的に利用していくとともに、事業活動を通じて廃棄物や汚染物質の軽減、資源の再利用、リサイクルを推進します。また、再生資源の購入や仕組みづくりに取り組み、循環型社会システムの構築に貢献します。

グループ環境中期目標として、食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率99%以上を維持するとともに、国内食品工場では動植物性残渣の削減を目標としています。

ニチレイグループの環境保全への考え方

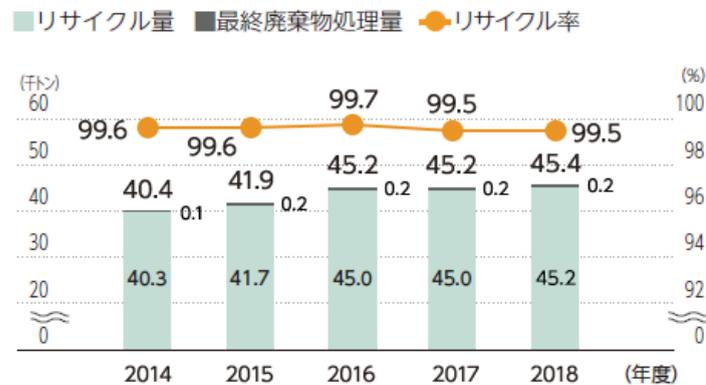
## マネジメント体制

環境マネジメント体制

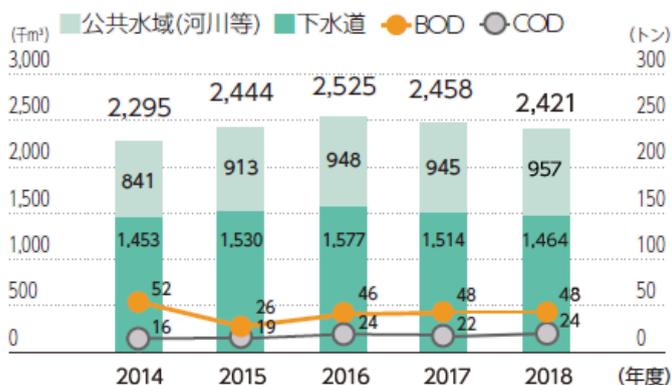
## 取組みの状況

2017年度の事業所外排出量は45.2千トンとなり、リサイクル率は99.5%となりました。現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいます。2017年度の特別管理産業廃棄物（危険性や有害性などで産業廃棄物と区分けされる「燃えやすい廃油」や「強酸・強アルカリ」等）の排出量は9kgです。

● ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



● ニチレイグループ排水量と排水負荷量



■ 飼料・肥料を積極的に再生し、「循環型農畜産業」を推進

工場や食品素材の生産現場で排出される食品残さや鶏ふんなどを、飼料や肥料に再生すれば、廃棄物を削減し、資源として有効活用できます。しかし、そのためには、再資源化された飼料・肥料が実際に使われることが必要です。

当社グループは、食物から再資源化した飼料・肥料を使って食物を生産し、これを人間や家畜が食べる循環サイクルの確立を目指しています。純国産鶏種「純和鶏」の養鶏場として設立した(株)ニチレイフレッシュファームでは、地域の方と連携を図りながら、鶏ふんを活用した地域循環型の生産体制の構築に取り組んでいます。

■ 『純和鶏』を通じた循環型生産プロジェクト

(株)ニチレイフレッシュファーム洋野農場では、『純和鶏』の鶏ふんを有機質肥料に加工し、『純和鶏』の飼料となる飼料米の田んぼに活用しています。JA新いわてや、岩手県軽米町と洋野町、そして協力農家の方が飼料米を生産。水田の多くは、米の生産調整により生まれた休耕田を活用したものです。『純和鶏』から始まる循環型の生産サイクルは、地域農業の再生に持続的に貢献します。



■ 工程残さ(残りカス)を利用して作る肥料・飼料

ニチレイフーズは、生産工程における廃棄物排出削減を目指し、さまざまな取組みを行っています。生産工場における徹底した生産管理や、各工程で起こるトラブルを未然に防ぐ取組みを推進するとともに、それでも製品にならなかった原材料など工程残さのリサイクルを行っています。

船橋工場、白石工場では、工程残さを工場内に設置した処理機で処理し、肥料や飼料にリサイクルしています。その他の工場でも、リサイクル業者に委託して肥料や飼料として工程残さを有効に活用しています。今後も数値目標を設けて積極的に廃棄物排出削減に取り組むと同時に、やむを得ず発生する工程残さについては、最大限の有効活用を目指していきます。

■ 工場排水は専用設備で浄化後に排出

食品工場で使用した水は、食品系の有機物や洗剤、殺菌剤などを含んだ排水となります。当社グループでは、工場排水を処理設備で浄化し、法令で定められた排出基準を遵守した上で工場外に排出しています。

■ PRTR対象物質の管理

2018年度は、1事業所で冷媒に使用しているクロロジフルオロメタン(R-22)を、1t排出したため、PRTR法※の届出対象(取扱量1t以上)となりました。今後も化学物質の適正管理を継続します。

※ PRTR法：人の健康や動植物の生態、生育に支障を及ぼす可能性のある化学物質が、どのような発生源から、どれくらい環境中に排出されたかなどのデータを集計し、公表する仕組みについて定めた法律。

■ PCBの管理

PCB(ポリ塩化ビフェニール)は、変圧器の絶縁油などに使用されてきましたが、1970年代に毒性が明確になったことで使用が禁止されました。PCB含有を確認した機器については、法に定められた基準に則り、適切に保管しています。現在、国が管理する全国5カ所のPCB処理施設の操業計画にもとづき、順次処理が行われています。2018年度は、当社グループ全体で63基が収集・運搬・処理されました。

#### ■ アスベストへの対応

2005年度の調査において、屋根裏への吹付けなど飛散の可能性がある状態で発見されたアスベストは、除去などの処置を実施しました。また、事業所の閉鎖などにより施設の解体を行う際には、再調査の上、アスベストを含む建材がある場合は、法令を遵守し適切な処置を実施しています。

#### ■ 土壌汚染への対応

土地の売却・購入や賃貸時には適切な情報開示を実施するとともに、必要に応じて土壌汚染状況の調査および適切な対応を実施しています。

## 製品・サービスにおける取組み

### 基本的な考え方

ニチレイグループはサプライチェーン全体での環境負荷の最小化を意識したモノづくり・サービス提案に取り組み、社会全体の環境負荷の低減に貢献していきます。

当社グループは気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして製品におけるCO<sub>2</sub>排出削減に取り組んでいます。

また、限られた地球上の資源をできるだけ継続的に利用していくため、廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化にも取り組んでいます。地球からの恵みである生物資源を無駄なく効率的に使うことや、使い切ることができなかったものは飼料や肥料などに再利用し循環させていくことに注力しています。

### マネジメント体制

環境マネジメント体制

### 2017年度の実績

#### ■ 牛のメタンガス排出量抑制のための取組み（ニチレイフレッシュ）

牛のメタンガス排出量抑制のための取組み（ニチレイフレッシュ）

#### ■ パッケージや容器を見直す

ニチレイフーズでは、パッケージや容器包装を見直すことで、廃棄物の削減につなげています。一部の商品では、トレイを廃止することで、結果的に商品が収納しやすくなりました。これにより、石油由来のプラスチック原材料の削減や製品製造時のCO<sub>2</sub>の削減にもつながりました。

また、強度を確保したままパッケージの両サイドを短くすることでプラスチック原材料の削減につなげたり、パッケージ内側のアルミ蒸着をやめることでリサイクルしやすくするなど、商品においてもさまざまな工夫を行っています。



フィルム包装に超音波シールを採用

売り上げの一部で森林保全活動を支援

容器・包装の見直しなどで社会全体の廃棄物削減に貢献

「生命（いのち）の森」プロジェクト

## 環境に関する苦情処理について

### 基本的な考え方

ニチレイグループ各社は、以下に掲げる企業経営理念にもとづき、事業地に関連するステークホルダーとのコミュニケーションを行い、自社に起因する環境に関する苦情があった場合には適切に対処するよう努めています。

#### 企業経営理念：“社会に”より

地域社会に企業市民として参加し、事業活動を通じて社会の発展に貢献するとともに、ハンディキャップをもつ人々への支援や文化活動などへの参加と支援を継続的に行います。

### マネジメント体制

当社グループでは、さまざまなお問い合わせを、電話・手紙・インターネットでのお問い合わせ窓口で受け付けています。

お問い合わせ



また、当社グループでは、ニチレイ経営監査部が行う監査において、組織運営、業務処理などの事項とともに、環境法令の遵守や環境保全上の重要事項に対するグループ経営監査を実施しています。監査の中では、事業所の周辺状況や近隣との関係についてもチェックしています。各事業所にいただいた苦情・ご意見・お問い合わせおよびその対応内容については、各事業会社内で共有し、レビューしています。

## 社会との共生

---

ニチレイグループでは、事業を遂行するには地域や社会との良好な関係を構築すること、事業を通じて地域や社会の発展に貢献することが重要であると認識しています。当社グループでは、社会貢献に対する考え方を以下の方針として定め、事業活動・事業活動以外の双方について、社会との共存共栄を目指した社会貢献に努めます。



## 基本的な考え方・方針

ニチレイグループでは、事業を遂行するには地域や社会との良好な関係を構築すること、事業を通じて地域や社会の発展に貢献することが重要であると認識しています。当社グループでは、社会貢献に対する考え方を以下の方針として定め、事業活動・事業活動以外の双方について、社会との共存共栄を目指した社会貢献に努めます。

### ニチレイグループ社会貢献基本方針

わたしたちニチレイグループは、企業市民として広く社会から信頼される企業でありたいと考えます。わたしたちは、素材を見きわめ、おいしさと健康を創り出し、安全で効率的な物流を通じて社会に貢献します。さらに、事業活動以外の分野においても自らの誠意と共感と使命感に基づき、社会貢献活動を行います。わたしたちは、この考え方に基づき、食や物流に関する教育、地域貢献、環境保護、災害支援、スポーツ支援を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組めます。

事業との関連性が高い社会的課題を検討し、当社グループの強みを活かせる分野に取り組んでいます。例えば、食や物流に関する教育を周辺地域の児童や学生に提供することや、フードバンクでのニチレイフーズの食品とニチレイロジグループの低温輸送力を生かした貢献等を行っています。

## マネジメント体制

当社グループでは「グループ社会貢献委員会」を設置しており、委員会を年1回開催するほか、必要に応じて委員長が招集する形で、取組みのチェックや見直しを行っています。また、北海道茅部郡の森工場では、地域自治体と協定を結び、町有地の森林整備を行っています。

[グループ社会貢献委員会](#)

## 社有資産の活用による貢献

### 小笠原諸島父島

小笠原諸島の父島にニチレイの源流となる製氷会社のひとつである日東製氷株式会社が製氷工場を設置していました。敗戦後の米国による小笠原接収をくぐり抜け、昭和43年の日本への返還とともに、この土地と建物はニチレイの所有地として登記されました。父島ではタコノキの葉を使ったタコノキの葉細工やフラダンスサークル等の地域活動が盛んです。その活動場所として利用していただこうと考え、残存していた建物を解体の上、工場跡地に芝を張り、きれいに整備しました。



#### 裏磐梯

社有資産の活用による貢献 > 裏磐梯



## 事業特性を活かした「食や物流に関する教育」

### ニチレイフーズの食育活動

ニチレイフーズでは、子どもたちの健やかな未来のために、さまざまな食育活動を進めています。毎日の生活の中で、「食」はいのちと深く関わる大切な存在。豊かな食生活は、カラダだけではなく心も健やかに育みます。子どもたちが健やかに育つには、「食」の大切さの気づきや、「食」についてのさまざまな知識、そして「食」を選ぶ力が欠かせません。ニチレイフーズでは、子どもたちと一緒に「食」について学び、考え、実践するさまざまな取組みを行っています。

### 「食品開発センター」キッズニア東京、キッズニア甲子園

キッズニア東京、キッズニア甲子園にパビリオンを提供



### 出張工場見学

コンセプトは、見る！学ぶ！楽しく！ニチレイフーズの社員が講師となり、小学生を対象に、リアルな動画とパワーポイントを使って、冷凍食品（本格炒め炒飯®や今川焼など）ができるまでの製造工程を分かりやすく紹介します。実際の工場見学でも見られないような映像や冷凍食品クイズを盛り込みながら楽しく学べるプログラムです。ニチレイフーズのていねいなものづくりへの想いと冷凍食品の良さを子どもたちに伝えたいと考えています。2017年度は20回の出張工場見学を実施し、900名の児童が参加し、ときに笑顔で、ときに真剣な眼差しで動画に見入っていました。



### 五味の識別テスト

甘味・酸味・塩味・苦味・旨味の「味」を感じる五味テスト体験と題して、味はどのように感じるか？冷凍食品とは？というテーマで講義をし、五味の識別テストを体験して頂く、食育プログラムです。2017年度は9回実施し、300名に参加いただきました。

※公募はしていません

### FamilyApps

親子で楽しめるスマートフォン向けアプリケーション「FamilyApps」に、ニチレイフーズの冷凍食品を活用したお弁当づくりができる「ニチレイの美味しいお弁当をつくらう！」を配信しています。子どもたちが楽しくお弁当づくりを体験し、食品に対する興味や関心を深めることができるようなコンテンツになっています。2017年度は14回イベントを開催し、1,700名に体験していただきました。

### おいしさことば

事業特性を活かした「食や物流に関する教育」 > おいしさことば



### ニチレイフレッシュの食育活動

(株)フレッシュチキン軽米では、軽米町の小学校や幼稚園で食育授業を行っています。授業では、岩手県は宮崎県、鹿児島県に次いで全国で3番目に鶏肉の生産量が多いことや、当社製品の「純和鶏」は軽米町で生産する飼料米を食べて育っていること、そして「純和鶏」の鶏ふんが飼料米の有機質肥料として活用されていることなどを分かりやすく紹介。地域で行われている循環型の生産サイクルを学んでもらうとともに、当日の給食には「純和鶏」のメニューを食べていただいています。今後もこのような地域の方とのふれあいを大切にしながら、魅力ある事業展開を進めていきます。



## 物流に関する教育

### 大学への寄付講座

事業特性を活かした「食や物流に関する教育」 > 大学への寄付講座

### 物流業界インターンシップへの参加

ニチレイロジグループでは、2014年から毎年行われている日本物流団体連合会主催の「物流業界インターンシップ」に受入企業として参加しています。この取り組みは大学生を対象に物流業を横断的に見学・体験してもらうためのものです。受入当日は、ニチレイロジグループの事業紹介や食品物流についての講義と物流センター見学のプログラムを提供し、参加した学生さんからは「食品物流の重要性が理解できた」「物流に興味が出た」との声を多く頂きました。これからも物流業界を幅広くアピールするために積極的に参加していきます。

## 事業所見学・職場体験の受け入れ

### 物流センターでの社会科見学・インターンシップの受け入れ

ニチレイロジグループは、各地の物流センターで、周辺地域の小中学生を中心とした事業所見学を継続的に受け入れています。2017年度は大井物流センターにて中学生を、都築物流センターで保育園児を対象に見学会を行いました。従業員の説明を受けたのち、冷蔵倉庫内の温度（マイナス20度以下）を体感してもらいました。また、盛岡西物流センターでは市の依頼により、3名の高校生を対象にインターンシップを実施しました。物流センターの業務を実際に体験し、食品物流への理解を深めてもらいました。

## 食の有効活用・フードバンクへの協力

ニチレイフーズでは、2005年7月よりNPO法人セカンドハーベスト・ジャパン※のフードバンク活動に賛同しています。アメリカでの駐在経験のある社員が、アメリカで普及しているフードバンク活動に共感し、ニチレイとしてもこうした活動への協力をやりたいと考え、提携先を模索していたところ、セカンドハーベスト・ジャパンの存在を知り、提携に至ったものです。輸入時に外箱が変形した商品など、品質に問題はないものの一般市場では販売できない冷凍食品を無償で提供しています。ニチレイロジグループの協力により、低温輸送でセカンドハーベスト・ジャパンの認定する養護施設などに直接お届けしています。

※ 「セカンドハーベスト・ジャパン」：日本初のフードバンク。2002年7月に法人格を取得。安全性が保証された食料を、生活困窮者に供給する支援活動を行っている。



有効利用が難しい

「ブロークン・カートン」の一例

## 事業活動を通じた支援

### ニチレイ育みの森

北海道にあるニチレイフーズ森工場は、北海道茅部郡森町と協定を結び、森町の町有地を森林整備する「ニチレイ 育みの森」活動を始めました。この取組みは、「森にGood!」活動の一環として、森町の1.2ヘクタールの町有地に植林し、10年間に森町の花である桜（ソメイヨシノ）400本を植樹し、育てていく計画です。森工場の従業員とその家族、地域の皆様にも参加いただき、地域に根付いた活動として取り組んでいます。

「森にGood!」森林保全活動は各工場に拡大しており、（株）キューレイでは福岡県宗像市のさつき松原の再生、ニチレイフーズ白石工場では蔵王のぶなの森づくりを支援しています。

### 石巻仮設住宅での料理講習会（ニチレイフーズ）

ニチレイフーズは、東日本大震災の被災地支援として仮設住宅で料理教室を開催してきました。住民の方の多数が転居された後は、小学校での「出張工場見学」を通じて支援を継続しています。出張工場見学とは、従業員が小学校に出向いて工場見学を体験してもらうプログラムです。このプログラムを通じて、生産現場のリアルな映像や音声で冷凍食品ができるまでの過程とともに、ニチレイフーズの安全・安心への取組みと、ものづくりへのこだわりについても、小学生に分かりやすく伝えていきます。2017年度は宮城県の石巻市立二俣小学校と湊小学校で実施し、合計43名の児童が授業を受けました。

### 生命（いのち）の森プロジェクト（ニチレイフレッシュ）

生命（いのち）の森プロジェクト



### ミャンマーの病院への検査薬提供（ニチレイバイオサイエンス）

ニチレイバイオサイエンスでは、2006年度から、新潟大学医学部病理学教室を通じ、病理検査に使われる当社製品をミャンマーの医療機関へ無償提供しています。免疫染色用の42種類の抗体は、現地では入手困難です。それらの抗体と検査に必要な試薬は、第一、第二医科大学およびヤンゴン小児病院に贈られ、各施設での研究や病理診断など実地の医療に活用されています。2018年2月には、新潟大学の内藤眞先生らがミャンマー第二医科大学を訪れ、当社からの検査薬のほか、病理の教材をつくるための病理染色例集などを提供しました。今後も継続してミャンマーでの病理研究・診断、医学教育の向上に貢献していきたいと考えています。



## 「ホスピタリティ・ゲストハウス ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」への施設サポート

原因不明の子どもの難病は500種類以上あり、20万人もの子どもが病氣と闘っています。ご家族の精神的苦痛や経済的負担も計り知れません。難病児とご家族の支援団体「ア・ドリーム ア・デイ IN TOKYO」は、難病児が生きる勇気を持ち、ご家族が苦悩を軽減するよう、東京旅行で楽しい思い出を作ってもらう活動を実施しています。ニチレイグループはこれに賛同し、ニチレイ研修センター・スコレ雪ヶ谷を宿泊先として提供しているほか、ニチレイフーズもキッズニア見学などの支援を行っています。



ニチレイ研修センターを宿舎として提供



## 健康な生活のためのスポーツ支援

ニチレイは、「食」とともに健康を支えるもうひとつの柱である「スポーツ」を応援していきます。

健康な生活のためのスポーツ支援

## 寄付・その他支援

### 被災地への義援金の拠出

ニチレイは東日本大震災で甚大な被害を受けた3地方自治体（岩手県、宮城県、福島県）に対して、2011年度より5年間にそれぞれ毎年1千万円ずつ、合計1億5千万円の義援金を寄付いたしました。2011年6月に開催した日本女子プロゴルフ公認トーナメント・ニチレイレディスでは入場料収入全額などを千葉県、千葉市へ寄付しました。

また、2016年の熊本地震では、熊本県に対して1千万円の義援金を寄付するとともに、熊本県の要請を受けて宇城市役所に「レストランビーフカレー」9,000食を提供しました。

2018年度の「平成30年7月豪雨」では、甚大な被害を被った被災地の早期復興を支援するため、日本赤十字社を通じ1,000万円の義援金を寄付しました。また、有志従業員の賛同金と会社からの拠出によるマッチングギフト制度である「ニチレイふれあい基金」より、同じく日本赤十字社へ100万円を寄付しました。

### ふれあい基金からの拠出

当社グループでは、寄付・募金活動を通じて社会に貢献することを目的に1993年に「ニチレイふれあい基金」を設立し、従業員と会社からの賛同金を募り、社会福祉支援、災害・医療支援や災害等に見舞われた国内外の被災地に対して、義援金や救援金という形で支援を行っています。

主な寄付先としては、「中央共同募金会」「東京善意銀行」を通じて、社会的養護からの自立支援を目的とした「卒業祝い金」および、生活困難やいじめなどからの救済を目的とした「子ども食堂」への支援を行っているほか、「日本赤十字社」には、災害対応の事前準備費用を支援しています。2017年度は総額2億6,200万円の寄付金を拠出しました。

### 公益信託経団連自然保護基金への協力

ニチレイは、公益信託経団連自然保護基金の趣旨に賛同し、1994年から寄付を続けています。同基金は、アジア太平洋地域を主とする開発途上地域における自然保護活動、日本の優れた自然環境保全のために行う保護活動、および持続可能な活用を支援しています。

### エコキャップ

当社グループ各事業所では、ペットボトルのキャップを集めて開発途上国の子どものためのワクチンに替えるNPO法人の運動に協力しています。回収したキャップはNPO法人に送付し、プラスチック原材料として売却されリサイクルされます。キャップ800個（20円に相当）でポリオワクチン1人分の購入が可能です。また、ゴミとして焼却処分されると、キャップ400個で3,150gのCO<sub>2</sub>が発生しますが、リサイクルすることによりCO<sub>2</sub>排出削減につながります。

#### TABLE FOR TWO への参加

当社グループは「社員食堂から始める社員参加型社会貢献活動」として「TABLE FOR TWO」に参加しています。これは、開発途上国の子どもたちの学校給食1回分にあたる20円を、社員食堂のメニュー代金に加算し、食料支援への寄付にあてる活動です。また、寄付対象メニューは低カロリーのヘルシーメニューに限定されており、社員の健康増進にも役立っています。現在、ニチレイ東銀座ビルおよび技術開発センターの2事業所の食堂にて実施しています。

#### 絶滅危惧種アツモリソウの再生

絶滅危惧種アツモリソウの再生



## 働きがいの向上

ニチレイグループでは、従業員をかけがえの無い存在と考え、「人材」ではなく「人財」と表記しています。グループ各社が、それぞれの事業に合わせた取組みを行っていますが、グループ人財委員会とダイバーシティ推進協議会を組織し、各社が推進している「働きがいの向上」施策について情報共有、進捗確認を行っています。グループ各社は、以下に掲げる基本方針にもとづき、活力あふれる職場づくりを目指しています。



人財に関する  
基本方針



健康と安全衛生



労働慣行



人権



人財育成と  
多様性

# 人財に関する基本方針

## 人財に関する基本方針

ニチレイグループでは、従業員をかけがえの無い存在と考え、「人材」ではなく「人財」と表記しています。グループ各社が、それぞれの事業に合わせた取り組みを行っていますが、グループ人財委員会とダイバーシティ推進協議会を組織し、各社が推進している「働きがいの向上」施策について情報共有、進捗確認を行っています。グループ各社は、以下に掲げる基本方針にもとづき、活力あふれる職場づくりを目指しています。

### 企業理念：“従業員に”より

- (1) 能力開発と能力発揮の機会の提供
- (2) 能力と努力と成果に見合った処遇制の実施
- (3) 安全で風通し良く活性化された職場環境づくり
- (4) 性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関する差別的な行為を防止し、待遇の機会均等を実現

### 働きがい向上基本方針

#### 『社員重視の職場づくり』

「顧客満足度（CS）と従業員満足度（ES）向上は、車の両輪である」との基本理念に基づき、ニチレイグループで働くすべての従業員が自分の職場や仕事に誇りを持ち、上司との信頼関係の下、意欲を持って働き、持てる能力を最大限に発揮できる職場環境を整備する。

#### 『ダイバーシティの推進』

ダイバーシティ（異なる属性〔性別、年齢、国籍等〕や異なる発想・価値を認め、従来と異なる新しい考え方や価値意識を受け入れるだけの許容力を、企業革新の一つの原動力に変えること）の推進を通じて労働力（人財）の確保、従業員の働きがい・生きがいの向上、さらには新たな発想や価値の創造の実現を目指す。

### ニチレイグループ 働き方改革方針

「企業経営理念」および「ニチレイの約束」に描かれている職場づくりや働きがい向上を推進するために、「ニチレイグループ 働き方改革方針」を定め、2021年度までの実現を目指して取り組みます。当社グループの事業特性に適した「働き方改革」を推進することにより、多様な価値観や発想を受け入れ、活かし、組織を活性化し、生産性の向上を目指します。

多様な働き方の実現	就業における選択肢の拡充	働く場所や時間といった就業環境に自由度を持たせた制度を導入し、状況に合わせて選択できるようにする
	キャリア継続の仕組みを構築	出産や育児、介護、配偶者の転勤、健康不安・罹患など、従業員が置かれている様々な状況に関わらず、キャリア分断が起こらない仕組みを構築する
長時間労働の是正		労使協働で働き方改革に取り組み、従業員一人ひとりが健康で働きがいを持ち、能力がより発揮できる適切な労働時間を実現する
公平な機会の提供	女性活躍の推進	公平に機会・教育の場を提供し、ニチレイグループの貴重な戦力となるよう支援する
	障がい者が生き生きと働く場を提供	『障がい者と健常者が分け隔てなく共存する社会（共生社会）の実現』という理念のもと、障がいのある方の働く場や機会を創出し、いきいきと働き、生活していく事を支援する
	シニア雇用の創出	健康寿命が延びる中、シニアならではの経験を活かし、一人ひとりの価値観、働き方に応じた活躍の場を創出する

## 基本的な考え方

企業の活動がグローバルに展開されるようになる一方、国内では、高齢化の進展、雇用や働き方における大きな変化など、社会の構造は大きく変化しています。こうした変化の中で、従業員一人ひとりが満足をもって能力や可能性を最大限発揮するためには、従業員の心身の健康を保てるような、安全で快適な職場環境をつくる必要があります。当社グループでは従業員をかけがえのない存在と考えており、「ニチレイの約束」でも「働きがいの向上」を挙げています。このような考え方のもと、当社グループは、安全で風通しよく活性化された職場環境づくりに従業員とともに取り組みます。

ニチレイグループ健康宣言



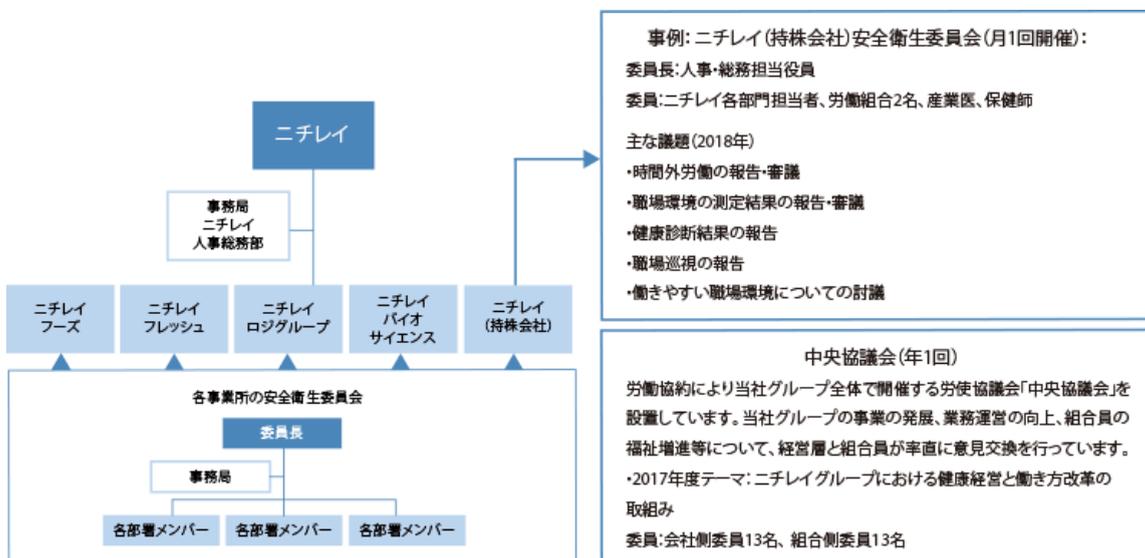
## マネジメント体制

当社グループでは、労働安全衛生法にもとづいて安全衛生委員会を設置し、労働災害の防止や従業員の健康管理を目的とした安全衛生管理の推進に努めています。また、各支社においては、長時間労働およびノー残業デーなどの労働時間管理を、食品工場、冷蔵倉庫においては労災事故削減を主な課題として、各職場の状況に応じて職場環境の改善などに取り組んでいます。また、「顧客満足度（CS）と従業員満足度（ES）の向上は車の両輪である」との考えのもと、各社で定期的にES調査を実施しています。調査の実施⇒調査結果のフィードバック⇒課題抽出・優先順位付け⇒施策の企画・実行というPDCAサイクルを回すことにより、「働きがいの向上」と「従業員重視の職場づくり」を目指しています。また、健康および安全衛生リスクに関しては、グループ健康推進連絡会を通して議論し取り組みを進めており、その状況は、取締役により構成されるグループ人財委員会がモニタリングしています。施策の企画・実行については各社の社長、人事担当責任者が一堂に会するグループ人財委員会（年2回開催）で進捗を共有し、有効な施策についてはグループ各社に展開するなどの工夫を行っています。また、2015年度に健康経営の専任部署として人事総務部内に「健康推進グループ」を新設し、2016年度には、「ニチレイグループ健康宣言」および「グループ健康管理基準」を制定しました。この宣言を社内外に発信するとともに、持株会社に最高健康推進責任者、グループ内の各事業会社に健康推進責任者・担当者を任命し、健康管理を進めています。

健康と安全衛生に関するリスク評価として、健康診断の結果分析を重視しています。分析内容は「健康白書」に記載して社内で公開し、従業員の健康状態の傾向に合わせた健康に関する教育や取り組みを行なう他、社員食堂で提供するメニューをより健康的にするための参考としても活用しています。

なお、従来より目指してきた、健康診断受診率100%の目標を、2016年度に99.3%、2017年度に99.8%とし、2018年度に100%を達成しました。（対象範囲：ニチレイ健康保険組合被保険者）

### ● 安全衛生委員会体制図



## ■ 食品工場の労働災害件数

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
休業災害件数（件）	18	21	17	34	34
不休災害件数（件）	25	23	18	12	11

※ 対象範囲：ニチレイフーズ自営工場およびニチレイフレッシュ国内子会社の従業員

※ 契約社員、嘱託社員、パート・アルバイトなどを含む

ニチレイグループ健康宣言



## 取組みの状況

当社グループでは、「働きがいの向上」と「従業員重視の職場づくり」を目指し、従業員の満足度の高い職場づくりに努めています。主な取組みは以下をご参照ください。

ニチレイフーズ白石工場は、2005年3月に当社グループとして初めて、また全国で49番目の事業所として「JISHA方式適格OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）認定」を取得し、安全水準の向上を目指して労働安全衛生の取組みを進めています。

ニチレイフーズ白石工場「JISHA方式適格OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）認定」



労働安全衛生に関する国際規格であるOHSAS18001<sup>※</sup>を海外1拠点で取得しています。

2018年度取得拠点：タイGFPT Nichirei (Thailand) Co., Ltd.。認証事業所比率0.6%。

※OHSAS18001 (Occupational Health and Safety Assessment Series)

ニチレイロジグループでは、講習会や技能大会の実施を通じて、運行車両の安全性や意識の向上に向けた取組みを行っています。また、新入社員研修や品質キーマン研修等において労働安全衛生に関連する研修を実施し、2018年度は55名が受講しています。また品質安全センターの研修を随時行い、従業員の意識向上に努めています。

フォークリフト技能大会（ニチレイロジグループによる実施）



ドライバーの安全研修（ロジスティクス・ネットワーク）



## ■ 従業員の健康増進

「持続的成長を目指す会社にとって、従業員の健康は重要な経営課題である」との認識のもと、2015年度に健康経営の専任部署として人事総務部内に「健康推進グループ」を新設しました。2016年度には、「ニチレイグループ健康宣言」および「グループ健康管理基準」を制定しました。この宣言を社内外に発信するとともに、持株会社に最高健康推進責任者、グループ内の各事業会社に健康推進責任者・担当者を任命し、健康管理を進めています。

定期健康診断では、結核の早期発見のためのレントゲン検診のほか、各種がん検診を追加するとともに、産業保健スタッフ主導による事後措置の徹底をしています。また、健康診断時の健康啓発活動やストレスチェックの実施、ニチレイフーズの冷凍健康管理食「気くばり御膳<sup>®</sup>」を活用した従業員向けの体験型健康支援プログラム「ニチレイ健康塾」などのさまざまな健康増進施策を展開しています。小規模事業所や海外勤務者については、ICT活用による遠隔面談や禁煙サポートプログラムを実施しています。

こうした取組みが評価され、当社グループは経済産業省より、「健康経営優良法人2019～大規模法人部門（ホワイト500）～」の認定を受けました。（3年連続認定）



### ニチレイグループ健康宣言

**「おいしい瞬間を届けたい」、  
その想いを大切に、  
ニチレイグループで働く一人ひとりの  
健康づくりに取り組みます**

#### 基本方針

1. 「働きがい」のベースには心と身体の健康があるという考えのもと、労使協働で活力ある職場づくりを推進します。
2. 従業員一人ひとりが健康意識を高め、主体的に健康増進に取り組む環境づくりに努めます。
3. 健康保持増進・メンタルヘルス対策・安全衛生管理を3つの柱とし「健康マネジメント」に取り組みます。

「健康経営優良法人2019～ホワイト500～」3年連続認定



「DBJ健康経営格付」の最高ランクの格付け獲得



## ニチレイ健康塾

従業員の健康保持・増進活動のため、当社グループは、体験型健康支援プログラム「ニチレイ健康塾」を2016年度より開催しています。生活習慣病予備軍の従業員へ、具体的な健康づくりの場を提供する機会としています。また特別セミナーと称し体組成や血管年齢の測定等を行い、2018年度までに約900名が参加しました。

### ■ 主な内容

#### テーマ：生活習慣病予防

- ・病態生理の講義（保健師）
- ・食事改善（身近なメニューの選び方など）（管理栄養士）
- ・運動（姿勢、歩き方改善、椅子利用の運動）（運動指導士）



## 安全活動

ニチレイフーズは、食品工場における安全活動の重点施策として「安全パトロール」、「ヒヤリハット活動」、「安全ルールを守る」の3点を『安全活動の3本柱』として掲げ、2017年は以下のような取組みを行っています。

「安全パトロール」においては、パトロール項目を工場ごとにカスタマイズし、現場の声をもとに、実効性のある項目を絞り込みました。また、管理者が手薄となる早朝・深夜を中心にパトロールを実施し、従業員から問題点や意見の吸い上げを行いました。

「ヒヤリハット活動」においては、ヒヤリハット報告の啓発を図りながら、全員に共有することで従業員の意識を上げるとともに、拳がったヒヤリハットの評価方法にバラつきがないよう、評価基準を再設定し、確実に防止策を実行できる仕組みに変えました。

また、「安全ルールを守る」においては、ルールを正しく確実に周知・理解させること、ルールを常に意識させること、ルール逸脱の徹底防止に努めました。

### ■ ニチレイサービス安全品質研修センター

ニチレイロジグループは「品質・環境・安全」を重要課題とし、全国に安全品質研修センターを開設しています。物流センターの現場スタッフが安全と品質に関する知識や技能、マインドを習得するための施設です。研修内容は「座学による基礎知識の再確認」「危険体感」「フォークリフト基本操作の再確認」を主な構成とし、受講者が直感的に理解しやすいよう映像やイラストを多用しています。研修プログラムや教材はすべてオリジナルで、講師には豊富な知識と経験を持つベテラン社員が体系的なカリキュラムに実体験を交えながら講義を行っています。物流センターではフォークリフトで重い荷物を運搬したり、高所での荷崩し等の作業もあるため、「墜落制止用器具」の有効性の確認実習をカリキュラムに組入れる等、労働安全と品質の向上に努めています。

またニチレイロジグループでは、新入社員研修で安全体感研修を実施し2018年度は27名が参加しています。品質キーマン研修においても2018年度は28名が労働安全衛生について学んでいます。



宙吊りになった状態で  
「墜落制止用器具」の有効性を確認する様子



専用コースでのフォークリフト技能研修  
「指さし呼称」で安全を確認しながら運転する様子

### ■ 外国人技能実習生とのコミュニケーションを通じた労働安全衛生への取り組み

ニチレイグループでは、国内で働いていただいている外国人技能実習生の方とのコミュニケーションに取り組んでいます。労働安全衛生等の研修を実施するとともに、不慣れな日本での生活や日本語上達に向けてのサポートを進め労働災害の防止や健康管理を目的とした安全衛生管理への理解促進に努めています。ニチレイグループで働いていただく方全員が、安全安心に健康で働きがいを持って働ける職場づくりに努めています。

#### 各事業所の取り組み事例

- ・ 各種言語による構内の注意喚起や手順説明のポスター設置
- ・ 日本語教室の開催 等



ベトナム語のポスター



日本語スピーチ大会の開催

## 衛生管理者

当社グループには、第一種衛生管理者が89名、第二種衛生管理者が11名、合計100名の衛生管理者の資格保持者が在籍しており、作業環境の管理や労働者の健康管理に携わっています。

## 基本的な考え方

ニチレイグループでは、従業員をかけがえない存在と考え、「人材」ではなく「人財」と表記し、従業員満足を顧客満足と同様に重要であると考えています。国内外の各事業地域における労働法規を遵守し、適切な労働条件を確保することは前提ですが、これに加え、従業員を個人として尊重すること、あらゆる従業員が自分の職場や仕事に誇りを持てるような職場環境をつくること、個人の能力を開発し発揮することを手助けし、待遇や評価における差別をせず機会均等に努めることが大切であると考えます。また、個人の多様な価値観や属性を尊重し、意欲や能力を引き出すために多様な働き方を実現することもまた、従業員自らがキャリアアップや専門性の向上を追求する上で大切な役割を果たすと考えています。

これらを通じて組合員、従業員の心身の健康や安全、働きがいの維持・向上や、能力向上に寄与することは、企業にとっては競争力の強化にもつながることを認識しています。こうした考え方を基本方針として定め、グループ各社は、活力あふれる職場づくりを目指し、従業員との共存共栄を図ります。

働きがい向上基本方針

行動規範

### ニチレイグループ働き方改革方針

多様な働き方の実現	▶ 就業における選択肢の拡充	働く場所や時間といった就業環境に自由度を持たせた制度を導入し、状況に合わせて選択できるようにする
	▶ キャリア継続の仕組みを構築	出産や育児、介護、配偶者の転勤、健康不安・罹患など、従業員が置かれている様々な状況に係わらず、キャリア分断が起こらない仕組みを構築する
長時間労働の是正		労使協働で働き方改革に取り組み、従業員一人ひとりが健康で働きがいを持ち、能力がより発揮できる適切な労働時間を実現する
公平な機会の提供	▶ 女性活躍の推進	公平に機会・教育の場を提供し、ニチレイグループの貴重な戦力となるよう支援する
	▶ 障がい者が生き生きと働く場を提供	『障がい者と健常者が分け隔てなく共存する社会（共生社会）の実現』という理念のもと、障がいのある方の働く場や機会を創出し、いきいきと働き、生活していく事を支援する
	▶ シニア雇用の創出	健康寿命が延びる中、シニアならではの経験を活かし、一人ひとりの価値観、働き方に応じた活躍の場を創出する

#### 人財委員会

「ニチレイの約束」の1つである「働きがいの向上」を進めていく委員会としてグループ人財委員会を年2回開催しています。グループ人財委員会の下部組織であるダイバーシティ推進協議会は、労使協働で年2回開催し、女性の活躍支援、外国人雇用、ライフステージや年齢に応じた多様な働き方、障がいのある方の雇用や協働など、従業員一人ひとりの人権や働きがい・働き方などに関する取り組みを中心に、各社施策の検討とモニタリングを行っています。

#### 人財育成

ニチレイグループでは、各事業会社の社長を責任者として、自社に最適な「人財」を育成するための制度を構築しています。「人財育成」の施策は、各事業会社の教育訓練方針に則り、毎年見直しを実施し、その計画の内容や成果については、年2回開催されるグループ人財委員会においてモニタリングしています。

#### 階層別研修

- ・新入社員研修、ファーストキャリア研修（入社1～3年次）
- ・管理職養成研修
- ・新任役員セミナー等

#### 目的別研修

- ・ファシリテーション研修
- ・介護セミナー
- ・女性社員向けキャリア開発プログラム等



## マネジメント体制

グループ各社がそれぞれの事業に合わせた取り組みを行っていますが、グループ人財委員会とダイバーシティ推進協議会をグループ横断的に組織し、各社が推進している「働きがいの向上」に向けた施策を上記二つの会議体で情報共有し、進捗確認を行っています。また、労働慣行に関する従業員からの通報・相談に応じるため、2003年10月から内部通報・相談制度（ニチレイホットライン）を導入しています。

2013～18年度の間、人事・処遇に関わる相談が19件ありました。これらを受けて、労働組合との協働を通じて労使連携に取り組んでいます。

## 長時間労働是正と労働時間の基本的な考え方

ニチレイグループでは、「ニチレイグループ働き方改革方針」を制定しています。その柱の一つに「長時間労働是正」を掲げ、労使協働で、従業員一人ひとりが健康で働きがいをもち、能力がより発揮できる適正な労働時間を実現することを目指しています。具体的な取り組みとしては、法令遵守の観点（36協定の遵守や年休5日以上取得等）から隔月でグループ労使協議会を開催しモニタリングを実施しています。また「ニチレイグループ労働時間ガイドライン」を策定、その内容の周知を目的としたeラーニングを実施することで、従業員が労働時間について正しく認識するよう啓蒙し、過重労働時間となっている場合には、労働時間の削減や年休取得率の向上に努めています。

## シニア雇用の創出

ニチレイグループでは、定年退職後の就業機会提供について2002年から「シニアスタッフ制度」を設置し、定年退職後の就職機会の提供に取り組んでいます。60歳の定年を迎えた後、希望者を65歳まで雇用。現在100名を超えるシニアスタッフがその経験や知識を活かし、グループの発展に寄与しています。



出張工場見学で冷凍食品について  
講義

## 公正な雇用機会の提供

新卒採用については、ホームページ上に募集要領や各種情報を公開し、広く募集を受け付け、公正な選考を行っています。

社員重視の職場づくり



ダイバーシティの推進





## ■ グループ合計採用者数（新卒、経験者）

			2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
新卒採用数（名）			106	83	92	101	88
	<内訳>	男性	61	58	57	54	46
		女性	45	25	35	47	42
経験者採用数（名）			50	45	68	45	80
	<内訳>	男性	36	36	42	36	60
		女性	14	9	26	9	20

## ■ 社員以外の従業員の割合

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
社員数（名）	3,635	3,628	3,755	3,780	3,782
社員以外の従業員数（名）	2,408	2,241	2,270	2,228	2,158
社員以外の従業員の割合（%）	39.8	38.2	37.7	37.1	36.3

## 基本的な考え方

ニチレイグループでは、グローバルな事業を行う上で、従業員はもちろんのこと、グループの事業に関わるステークホルダーの人権を尊重することが不可欠であり、また、この考え方はあらゆる人や企業に対して適用されるべきものであると認識しています。

以上の認識に立ち、当社グループは、「労働における基本的原則および権利に関するILO宣言」※1および「国連ビジネスと人権に関する指導原則」※2を含めた国際的な人権基準を参考とし、グループの「行動規範」にて、以下の考え方を明示しています。「ニチレイグループは、人権を尊重し、人種、肌の色、性別、宗教、政治的見解、国籍、社会的地位、出身などにもとづく一切の差別を行いません。ニチレイグループは、あらゆる形態の強制労働、児童労働を排除します。また、職場においては、差別的な言動、暴力行為、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどを禁止し、賃金（法定の手当てを含みます）および労働時間につき、法定の基準を遵守します。」

また、2019年度には「ニチレイグループ 人権方針」を制定しました。2017年度には「ニチレイの約束」に基づき「ニチレイグループ働き方改革方針」を定め、2021年度までの実現を目指し取り組んでいます。グループ各社がそれぞれの課題に沿った取組みを推進するとともに、「グループ人財委員会」「ダイバーシティ推進協議会」において、グループ横断的に情報交換や進捗確認などを行っています。

- ※1 すべての加盟国に対し、雇用および職業における差別の排除、児童労働の実効的な廃止、強制労働の禁止、結社の自由と団体交渉権の実効的な承認について、尊重、促進および実現の義務を負うことを宣言
- ※2 国連事務総長特別代表のジョン・ラギー氏が策定し、その目的は、多国籍企業のビジネスと人権に関する基準と慣行を強化するために策定した「保護、尊重及び救済の枠組（ラギーフレームワーク）」の実行

行動規範

ニチレイグループ 人権方針

働き方改革方針

ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針

## ■ 労使関係の考え方

ニチレイ労働組合は、活動理念「労使対等を堅持し、相互に意欲をもって活動できる環境を作る」のもと、当社グループが健全な発展をするために、組合員個々を尊重する活動を目指しています。「労使協議制」「第一線現場の組合員の要望集約と改善」「健康経営確立」などに重点を置いて活動しています。

労働組合の活動と労使連携

## マネジメント体制

従業員の人権侵害が起こった場合に通報・相談に応じるため、ニチレイでは2003年10月に内部通報・相談制度（ニチレイ・ホットライン）を導入しました。人権に関する相談を含め、相談は匿名で行うことができます。ここ3カ年の傾向としては、「ハラスメント」に関する通報が増えています。コーポレートガバナンス・コードで求められている「経営陣から独立した内部通報窓口を設置する」ことに対応するため、2015年度の内部通報制度の改正以降、従業員への制度周知徹底を目的に事業場には周知ポスターを、従業員には「ニチレイ・ホットライン」携帯カードを作成し配布しています。その他、行動規範に関する事例集を毎月一回社内掲示板で従業員に共有することで、「マタニティー・ハラスメント」等や法令違反に関する意識啓発を行っています。また、外部からの相談は、代表電話やフリーダイヤル、ホームページの問い合わせサイト等の窓口で受け付けています。

## 取組みの状況

2018年度は、人権に関する事案の発生はありませんでした。

2016年度は2回、2017年度に18回、2018年度に13回のコンプライアンス意識向上研修を実施しました。各部署のグループリーダー（課長相当職）を対象にし、合計898名が受講しました。

目的は、コンプライアンス遵守の意義・必要性和当社グループの方針を再確認することです。研修の中では、ハラスメント防止をはじめとするコンプライアンス遵守ならびに推進にあたり、参加者がグループリーダーの役割を考えました。今後も、人権尊重の意識醸成に向けて、教育を継続していきます。

そのほか、ハラスメント防止のe-ラーニングを実施し、5,166名が受講しました。

2018年度の人権に関する苦情申し立てに該当する内部通報・相談件数は1件でした。受け付けたすべての通報・相談は、規程の定めに従い、事務局から経営トップへ報告するとともに、事実確認の調査と是正処置を行い、通報者へのフィードバックを行います（実名による通報の場合）。その際には、通報者保護のため、匿名性を確保し、通報を受けた側からの報復行為や不利益な取り扱いなどが無いよう厳正に管理しています。

コンプライアンス



## 人財育成と多様性

### 基本的な考え方

ニチレイグループは、ミッション・ステートメントの実現に向け、CSR活動の基本方針「ニチレイの約束」のひとつとして「働きがいの向上」を推進しています。また、「企業経営理念（ミッション・ステートメント）：従業員に」では、「性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関する差別的な行為を防止し、待遇の機会均等を実現」を方針の一つに定めています。

「ニチレイの約束」



「ニチレイグループ働き方改革の方針」



### マネジメント体制

グループ各社がそれぞれの事業に合わせた取組みを行っていますが、グループ人財委員会とダイバーシティ推進協議会をグループ横断的に組織しています。その会議体で、各社が推進している「働きがいの向上」に向けた施策を情報共有し、進捗確認を行っています。

グループ人財委員会は年2回開催、またその下部組織であるダイバーシティ推進協議会は、労使協働で年3回開催し、協議内容をグループ人財委員会に報告しています。

ダイバーシティ推進協議会では、女性の活躍支援など企業としての男女共同参画推進、外国人採用などグローバル社会を意識した雇用、ライフステージや年齢に応じた多様な働き方、障がい者雇用などハンディキャップのある方の雇用や協働のほか、従業員一人ひとりの人権や働きがい・働き方などに関する取組みを中心に、各社施策の検討とモニタリングを行っています。情報共有を進め、有効な施策の横展開を図るなど、グループ各社の働きがいの向上の推進、啓発に取り組んでいます。また、2017年度には「ニチレイグループ働き方改革方針」を定め、「多様な働き方の実現」や「長時間労働の是正」、「公平な機会の提供」などを柱に2021年度までの実現を目指して取り組んでいます。

### 多様な働き方

#### ■ 企業内保育施設を新設

2018年4月、東京都中央区築地の本社ビル内に、企業内保育所を開設しました。

ニチレイグループが現在進めている働き方改革の施策の一つとして、子育て中の従業員の早期復職や仕事と家庭の両立支援を目的としていることに加え、一定枠を地域の方に開放することで、待機児童状況の緩和に貢献したいという考えから設置しました。



保育園児の職場訪問の様子

## 業務革新

### ■ RPA※<sup>1</sup>を活用した働きがいの向上

ニチレイロジグループでは、事務オペレーション業務革新に向けて、RPAの導入を進めています。RPAとは、PCの中でアプリケーションを跨いで自動化することができるツールで、プログラミング知識がなくても活用できるのが特徴です。事業所社員自らがRPAシナリオを作成し、活用しています。本格展開を開始した2018年度は目標1万時間/年換算の業務のRPA化に対し、2万時間を達成致しました。業務の自動化により生まれた時間は、長時間労働の是正だけでなく、事務オペレーションからのリソースシフトとして、現場とのコミュニケーションの強化や来場者へのホスピタリティ向上、新たな付加価値業務の創出や社員一人一人の働き甲斐の向上にもつながっています。2019年度は更に推進し、RPAシナリオを作成できるメンバー100人の育成と、年換算18万時間分の業務のRPA化を目指していきます。

※<sup>1</sup> RPA:Robotics Process Automationの略



事業所社員のRPA操作研修の様子

## 障がい者雇用の積極的な実施

ニチレイグループは人材活用の一環として積極的に障がい者雇用を進めています。当社グループの特例子会社である（株）ニチレイアウラでは、30名の障がいのあるスタッフが、本社やグループ会社の食品工場や物流センターの事務所内の清掃や緑地環境整備などをはじめ幅広い業務に従事しています。これからも、障がい者の皆さんが働きやすいよう職場環境づくりに取り組んでいきます。

### ■ 障がい者雇用率

2018年度	2.56%
2017年度	2.50%
2016年度	2.62%
2015年度	2.64%
2014年度	2.36%

## 転居ができない社員に配慮

ニチレイフーズは2015年度から2016年度にかけて人事制度を改定し、転居を伴う異動のない職群を設けました。結婚、育児、介護、傷病などの個人事由により、やむを得ず転居を伴う異動ができない場合や、一定の在籍期間を超えた社員については、個人のキャリア観に基づき、事由の有無を問わず本人の希望する勤務地で働き、転居を伴う異動の対象とならない職群を選択することができます。ニチレイフーズでは社員一人ひとりの多様な価値観を尊重し、働きがいのある職場づくりを目指します。

## 女性活躍の推進

ニチレイロジグループでは、女性活躍の取り組みの一環として、2019年1月に第6回「咲カセル ロジ女フォーラム」を開催しました。全国各地から女性社員61名が集まり、女性活躍推進の取り組みの経緯と現状および今後の展望について、理解を深めました。第6回は初の取り組みとして、男性社員を含む上長者が参加しました。参加者が仕事に対する価値観や女性が自分らしく働ける環境作りについてのディスカッションを通して、各人の仕事に対する価値観の再認識や各地域間の社員同士のネットワーク作りを促進しました。

ニチレイフーズでは、2018年度、他の食品メーカーと共同で女性社員向けセミナーを実施しました。意識の形成を目的としたダイバーシティフォーラム「SPIRAL UP!」や、社外ネットワーク構築とキャリア開発を目的としたキャリアセミナー「LADY, GO UP!」を開催しました。



咲カセル ロジ女フォーラム

## キャリア申告制度

社員の働きがいを向上させるためには、社員自身のキャリアプランに即した役割を提供することが重要です。当社グループでは年に1度、全社員がキャリアの棚卸を行い将来的なキャリア観を申告し、それを人事異動の参考にしながら異動・配属を決定する「キャリア申告制度」を導入しています。

## 育児休業からの復職率

2017年度はグループ全体で女性34人が育児休業を取得し、復職率は100%です。

人財データ



## 給与の男女比

当社グループの給与は役職や職務によって設定されており、性別による違いはありません。また、昇格や昇給に関する評価についても性別によって違いはありません。

## 教育研修

### ■主な教育研修体系

種別	一般社員	役職社員	役員
階層別研修	<ul style="list-style-type: none"><li>・新入社員研修</li><li>・1~3年次社員フォロー研修</li><li>・中堅社員研修</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新任役職者研修</li><li>・次世代経営幹部養成講座</li><li>・マネジメント研修</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・新任役員セミナー</li><li>・メディアトレーニング</li><li>・取締役・執行役員研修</li><li>・マネジメント研修</li><li>・コーチング研修</li></ul>
目的別研修	<ul style="list-style-type: none"><li>・ファシリテーション研修</li><li>・女性社員向けキャリアセミナー</li><li>・女性リーダー育成プログラム</li><li>・コーチング研修</li><li>・語学研修</li><li>・評価者研修</li><li>・クリティカル・シンキング</li><li>・マーケティング</li><li>・アカウンティング</li></ul>		

### ■教育時間及び参加人数

階層別及び目的別研修	教育時間数（延べ）	教育参加人数（人数）
2017年度	45,649	1,379
2018年度	49,730	1,699
合計	95,199	3,078

## コーポレートガバナンスの充実

---

ニチレイグループは、持株会社体制のもと、事業会社が加工食品、水産・畜産、低温物流およびバイオサイエンス等の多岐にわたる事業を展開しています。当社の取締役会が当社グループの戦略を立案し、事業会社の業務執行を監督するという構造を採り、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指しています。

当社は、公正かつ透明性の高い経営の実現を重要な経営課題と認識し、取締役会の監督のもと、適切な資源配分、意思決定の迅速化、コンプライアンスの徹底を推進するなど、コーポレートガバナンスの充実に努めています。

当社は、会社法上のガバナンス体制として監査役会設置会社を採用しています。



コーポレート  
ガバナンス



リスクマネジメント

## コーポレートガバナンスの充実

# コーポレートガバナンス

ニチレイグループは、持株会社体制のもと、事業会社が加工食品、水産・畜産、低温物流およびバイオサイエンス等の多岐にわたる事業を展開しています。当社の取締役会が当社グループの戦略を立案し、事業会社の業務執行を監督するという構造を採り、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を目指しています。

当社は、公正かつ透明性の高い経営の実現を重要な経営課題と認識し、取締役会の監督のもと、適切な資源配分、意思決定の迅速化、コンプライアンスの徹底を推進するなど、コーポレートガバナンスの充実に努めています。

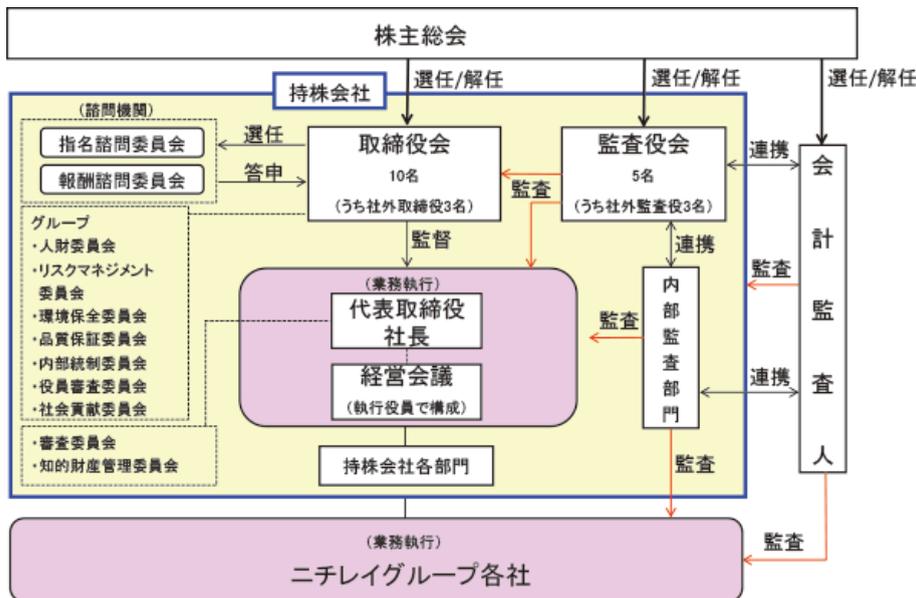
当社は、会社法上のガバナンス体制として監査役会設置会社を採用しています。

コーポレートガバナンス基本方針

コーポレートガバナンス報告書

## マネジメント体制

### ● コーポレートガバナンス体制



統合レポート2019 コーポレートガバナンス

### ■ 取締役の任期・選出方法

取締役の員数を11名以内とし、経営環境の変化に対する機動性を高めるため任期を1年と定めています。取締役の選任決議は、議決権を行使できる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行います。なお、透明性向上と監督機能強化のため、現行取締役10名のうち社外取締役を3名選任しており、毎月1回以上の取締役会を開催しています。取締役会議長は代表取締役会長で、執行役員を兼務しています。代表取締役会長と代表取締役社長は、共同でグループ全体の業務執行を統括しています。

## ■ 監査役制度と監査役会の役割

当社は監査役制度を採用しており、監査役5名のうち金融機関経験者1名、法曹界より弁護士1名、行政機関経験者1名の合計3名を社外監査役として選任しています。監査役会は原則月1回開催され、必要に応じて随時開催しています。業務執行に対する監査役の監督機能を充分果たせる仕組みの構築を通じ、監査役の機能を有効に活用しながら、経営に対する監督機能の強化を図っています。

## ■ 独立性を保持した社外取締役・社外監査役の選出

当社が独立役員として指定する社外取締役および社外監査役の選任に際しては、当社が定めた独立性基準に従っています。社外取締役、社外監査役、その近親者またはそれらが取締役等に就任する会社・団体等と当社との間に利害関係はありません。

社外取締役の選任理由 第101期株主総会招集ご通知 P10～12



## ■ 社外取締役および社外監査役の取締役会または監査役会への出席状況（2019年6月25日 現在）

区分	氏名	取締役会または監査役会への出席状況	主な活動状況
社外取締役	鶴澤 静	取締役会19回中 19回に出席	経営者としての豊富な経験と財務・経理分野の幅広い見識を有しており、グループ経営の視点から、必要に応じ、発言を行っています。
	鰐淵美恵子	取締役会19回中 18回に出席	長年にわたり会社経営に携わっており、生活者の商品・サービスの購買行動などの視点も踏まえながら、必要に応じ、発言を行っています。
	昌子 久仁子	取締役会15回中 15回に出席※	薬事関連業界での企業経営者としての豊富な経験と、品質保証、研究開発に関する幅広い見識を有しており、必要に応じ、発言を行っています。
社外監査役	岡島 正明	取締役会19回中 19回に出席 監査役会16回中 16回に出席	行政分野における豊富な経験と幅広い見識を有しており、必要に応じ、経営上有用な指摘、発言を行うとともに、内部統制システム、業務監査、会計監査などについて発言を行っています。
	長野 和郎	取締役会19回中 16回に出席 監査役会16回中 14回に出席	長年にわたり金融機関の経営に携わった経験を有しており、金融の専門家としての立場から、必要に応じ、経営上有用な指摘、発言を行うとともに、内部統制システム、業務監査、会計監査などについて発言を行っています。
	齊藤 雄彦	新任	法曹界の出身であり、法律の専門家としての立場から、必要に応じ、意思決定の妥当性や適正性について指摘、発言を行うとともに、内部統制システム、業務監査、会計監査などについて発言を行っています。

※ 2018年6月26日に選任

## ■ コーポレートガバナンスを有効に機能させる各種委員会の設置

当社は、コーポレートガバナンスを有効に機能させるため、取締役会の諮問機関として「指名諮問委員会」「報酬諮問委員会」「グループ人財委員会」「グループリスクマネジメント委員会」「グループ環境保全委員会」「グループ品質保証委員会」「グループ内部統制委員会」「グループ役員審査委員会」「グループ社会貢献委員会」を、代表取締役社長の業務執行に資することを目的として「経営会議」「審査委員会」「知的財産管理委員会」をそれぞれ設置しています。その概要は次のとおりです。

		開催回数	
		2017	2018
指名諮問委員会	年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集	1	2
報酬諮問委員会	年1回開催するほか必要に応じて委員長が招集	1	6
グループ人財委員会	年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集	2	2
グループリスクマネジメント委員会	年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集	2	2
グループ環境保全委員会	年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集	3	3
グループ品質保証委員会	年2回開催するほか必要に応じて委員長が招集	2	2
グループ内部統制委員会	年1回開催するほか必要に応じて委員長が招集	1	1
グループ役員審査委員会	必要に応じて委員長が招集	-	-
グループ社会貢献委員会	年1回開催するほか必要に応じて委員長が招集	1	1

		開催回数	
		2017	2018
経営会議	毎月第3火曜日を除く火曜日定時に開催	21	23
審査委員会	必要に応じて委員長が招集	-	-
知的財産管理委員会	必要に応じて委員長が招集	-	-

### ■ グループ一貫体制での内部監査・監査役監査・会計監査

グループ経営に対応した監査を効果的に実行するため、持株会社と中核事業会社3社の監査役は定期的な連絡会議や監査の共同実施などを行っています。内部監査部門である経営監査部は、業務監査・会計監査を通じて経営活動全般にわたる内部統制状況を検証し助言することで、行動規範やコンプライアンスの徹底、リスクマネジメントに対する意識向上に努めるとともに、生産工場や物流センターなどの施設の状況を監査し、適切な指導・助言を行う設備監査を実施しています。

### ■ 役員報酬

取締役および執行役員の報酬体系は第三者機関の意見を取り入れて設計しており、報酬は基本報酬と賞与で構成されています。基本報酬は、報酬基準表に基づく固定報酬にて支給しています。賞与は、当社グループの業績ならびに各役員が担当する事業の業績予算達成率および個別の定性的評価を基にした業績連動の考え方に基づき、支給しています。社外取締役については固定報酬のみとし、賞与は支給していません。代表取締役社長、常勤監査役と社外取締役を構成員とした報酬諮問委員会を設置しており、原則年1回開催し、報酬制度、報酬水準、報酬の妥当性等について審議の上、取締役会へ答申します。役員報酬については、取締役会で決定しています。なお、取締役の報酬額と賞与の総支給額は、株主総会において決議された総枠の範囲内としています。

取締役及び監査役の報酬等の額 第101期定時株主総会招集ご通知 P35



### ■ 取締役会評価の状況

統合レポート2019 コーポレートガバナンス



# コーポレートガバナンスの充実 リスクマネジメント

## 基本的な考え方

ニチレイグループは、企業経営理念、ブランドステートメント、CSR基本方針の実現のため、「内部統制システムの基本方針」を策定した上で、「業務の有効性と効率性の向上」「財務報告の信頼性の確保」「事業活動に関わる法令等の遵守」「資産の保全」の観点から内部統制システムを整備・運用しています。特に、リスクマネジメントに関しては、当社グループは、事業活動を行う上でのさまざまなリスクを、全体的視点から合理的かつ最適な方法で管理し、当社グループの企業価値を最大化するため、代表取締役社長を委員長とするグループリスクマネジメント委員会を設置しています。委員会がグループ全体のリスクの識別・評価を行い、構築したリスクマネジメントサイクルに基づき、当社および各事業会社は自主的に対応するとともに、重要な事項については持株会社の取締役会等への報告のうえ対応を協議します。

内部統制システムの基本方針

有価証券報告書（2019年3月期（平成31年3月期）P15 事業等のリスク

統合レポート2019 P13 ニチレイグループの価値創造モデル

## マネジメント体制

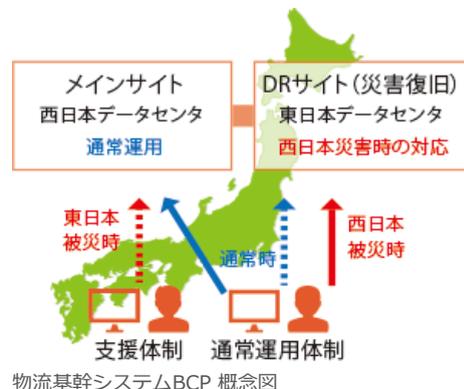
さまざまなリスクを未然に防ぐためには、従業員一人ひとりの行動が重要であると考え、環境・社会・ガバナンスの各領域のコンプライアンスや倫理的行動に関わる、12カ条からなる行動規範を制定（2014年に内容を改訂）し、周知徹底を図り、コンプライアンス違反等のリスク低下に努めています。グループリスクマネジメント委員会においてグループ全体のリスクの識別・評価を行い、グループのリスクマネジメントの仕組みを整備しています。リスクマネジメントのプロセスにおいて特定された重要なリスクについては、持株会社の取締役会へ報告のうえ対応を協議します。

コンプライアンス（行動規範の周知・教育活動）

## 「物流基幹システムのBCP（事業継続計画）」対応の強化

ニチレイロジグループでは、リスクマネジメントの一環として、2018年2月より物流基幹システムのBCP対応の強化を図りました。

これまで東京一極集中だったデータセンターのメインサイトを西日本に設置し、迅速な災害復旧を可能にするディザスタリカバリ（以下、DR）を構築しました。大規模災害の発生時、メインサイトからDRサイトに切り替える「2拠点化」を実現することにより、速やかに業務復旧を進めることができます。DR発動からオンライン再開までの時間は約1時間と、さまざまな状況下でお客様の業務や食品物流に影響を与えない最大限の配慮がなされています。取引先の事業継続にも寄与することを目指し、食品物流のライフラインとして先進的な取組みを実践していきます。



# コンプライアンスの徹底

---

ニチレイグループは、グループの企業経営理念および行動規範にもとづき、法令の遵守はもとより、不正や反社会的な企業行動をとらないという姿勢を堅持し、あくまでも社会の公器にふさわしい公正な企業活動に徹します。

1999年4月に制定した行動規範は日本国内を中心とした内容であり、グローバル経営を展開する上で、内容そのものがそぐわなくなってきたことから、2014年4月に当社グループ全体のコーポレートガバナンスの強化および法令遵守と倫理的な事業活動のさらなる徹底を図ることを目的として「国内外統一版の行動規範」を制定しました。改定の中では、国連グローバル・コンパクトの4分野10原則なども参考にして「人権の尊重」の項目を新たに加えて第一優先に位置づけています。また、国際的なコンプライアンスの視点で重要と判断される「インサイダー取引の禁止」「反社会的勢力との関与、取引の禁止」など腐敗防止に関する事項も盛り込んでいます。

くわえて当社グループは、法令遵守、公正な取引、人権等を項目とする「ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針」を制定し、基本方針にのっとり商品やサービスの調達を行うとともに、方針の理解と実践への協力を取引先へ働きかけています。



コンプライアンス

# コンプライアンスの徹底

## コンプライアンス

### 基本的な考え方

ニチレイグループは、グループの企業経営理念および行動規範にもとづき、法令の遵守はもとより、不正や反社会的な企業行動をとらないという姿勢を堅持し、あくまでも社会の公器にふさわしい公正な企業活動に徹します。

2014年4月に当社グループ全体のコーポレートガバナンスの強化および法令遵守と倫理的な事業活動のさらなる徹底を図ることを目的として「国内外統一版の行動規範」を制定しました。改定の中では、国連グローバル・コンパクトの4分野10原則なども参考にして「人権の尊重」の項目を新たに加えて第一優先に位置づけています。また、国際的なコンプライアンスの視点で重要と判断される「インサイダー取引の禁止」「反社会的勢力との関与、取引の禁止」など腐敗防止に関する事項も盛り込んでいます。

くわえて当社グループは、法令遵守、公正な取引、人権等を項目とする「ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針」を制定し、基本方針ののって商品やサービスの調達を行うとともに、方針の理解と実践への協力を取引先へ働きかけています。

### 行動規範

ニチレイグループの行動規範目次（2014年4月改訂）

1. 人権の尊重・労働に関する法令の遵守
2. 環境保全への取り組み
3. 法令および社内規程の遵守
4. 会社財産の管理と保全
5. 会社財産の私物化の禁止
6. インサイダー取引の禁止
7. 財務情報の信頼性の確保
8. 情報の管理と利用
9. 会社の利益と相反する個人の行為の禁止
10. 公務員、取引先などとの不当な利益の授受の禁止
11. 反社会的勢力との関与、取引の禁止
12. 行動規範の遵守と報告・相談について

企業経営理念



行動規範



コーポレートガバナンス報告書



ニチレイグループ 持続可能なサプライチェーン基本方針



### マネジメント体制

#### ■ コンプライアンス意識を強化・徹底するために

当社グループの社内規程は、会社が組織的、効率的に運営されるために必要なルールを明文化したものであり、会社のガバナンスや内部統制上不可欠なものであり、当社グループで働くすべての人が正しく理解し遵守しなければなりません。この考え方にに基づき、行動規範の遵守を取締役会が監督しながら、コンプライアンスや腐敗防止の取り組みを全社的にを行っています。

具体的には、すべての従業員が法令や定款を守り、企業倫理に即して行動するための指針や具体的な事例を明示した「行動規範」および「行動規範事例集」を作成し、配布しています。また、行動規範等におけるコンプライアンス経営の理念および体制が、社内により浸透するように、行動規範の内容に関する事例集を用いて従業員および新入社員を対象とした研修を実施しています。具体的な事例に基づき行動規範の内容を学ぶことにより、従業員や新入社員のコンプライアンス意識の啓発および周知徹底を図っています。

#### ■ 内部通報・相談制度

法令や社内規程に違反する行為といった、あらゆる腐敗行為や、倫理上問題のある行為などに関する従業員からの通報・相談に応じる内部通報制度・相談制度を導入しています。2015年度には、コーポレートガバナンス・コードで求められている「経営陣から独立した内部通報窓口を設置」するために、内部通報制度を改正しています。制度の周知徹底を目的に、事業場には周知ポスターを、従業員には「ニチレイ・ホットライン」携帯カードを配布しています。

ここ3カ年の傾向としては、「ハラスメント」に関する通報が増えています。受け付けたすべての通報は、規程の定めに従い、事務局から経営トップへ報告するとともに、事実確認の調査と是正処置を行い、通報者へのフィードバックを行います（実名による通報の場合）。その際には、通報者保護のため、匿名性を確保し、通報を受けた側からの報復行為や不利益な取り扱いなどが無いよう厳正に管理しています。

なお、内部通報の窓口担当者及び責任者は、毎年専門家によるハラスメント等に関する教育その他の研修を受講し、対応力の向上に努めています。また、部下から相談を受ける立場にある職場の上長者や責任者は、全員が後述のコンプライアンス意識向上勉強会を受講しています。毎年定期的の実施し受講者を増やすことでグループ全体のハラスメント等への対応力向上を図っています。

#### ■ 内部通報件数と内容

	人事・処遇	コミュニケーション	ハラスメント	コンプライアンス	その他	合計
2014年度	0	5	4	0	0	9
2015年度	0	0	7	2	4	13
2016年度	6	2	7	1	4	20
2017年度	6	11	12	3	3	35
2018年度	6	2	1	1	2	12

## コンプライアンスの徹底への取り組み（行動規範の周知・教育活動）

当社グループは、役員および従業員の高い倫理観によって、社会から信頼される会社として存続・発展していくことを目指しています。従業員一人ひとりの倫理観の醸成に関しては、従業員手帳にグループ経営理念に追加して行動規範も掲載し、いつでも確認できるようにしています。また、全従業員へソーシャルメディア利用ガイドブックの配布や、行動規範事例集を分かりやすく、読みやすく工夫して、社内イントラネットに毎月シリーズ掲載をしています。

2016年度～2018年度は33回に分けて、各部署のグループリーダー（課長相当職）を対象にしたコンプライアンス意識向上勉強会を実施し、898名が受講しました。この勉強会は年間一人当たり2時間実施しています。目的は、コンプライアンス遵守の意義・必要性和当社グループの方針を再確認することです。研修の中では、ハラスメント防止をはじめとするコンプライアンス遵守並びに推進にあたり、参加者がグループリーダーの役割を考えました。

そのほか、グループ教育訓練規程にもとづき、各種e-ラーニングを実施し、教育・啓発を行っています。今後も、コンプライアンス教育を継続していきます。

#### ■ 2018年度実施 e-ラーニング実施率

	e-ラーニング	対象者数	実施人数	実施率
1	ハラスメント	5,356	5,166	96.5%
2	品質保証	5,308	5,178	97.6%
3	ヘルスリテラシー	5,320	4,988	93.8%
4	個人情報保護法	5,311	4,973	93.6%
5	知的財産	5,308	5,037	94.9%
6	競争法遵守・贈賄防止	5,308	5,005	94.3%
7	内部通報・相談制度	5,256	4,901	93.2%
8	内部統制	5,247	5,080	96.8%
9	環境	5,234	5,016	95.8%
10	情報セキュリティ	5,214	5,115	98.1%

## 贈収賄等について

2018年度は、贈収賄等の腐敗行為により、処罰された従業員はおりません。また、贈収賄等の腐敗行為に関わる罰金の支払はありません。

# レポートライブラリー

## レポートライブラリー

統合レポート2019	<a href="#">PDF (和文)</a>
	<a href="#">PDF (英文)</a>
統合レポート2018	<a href="#">PDF (和文)</a>
	<a href="#">PDF (英文)</a>
CSRレポート2019	<a href="#">PDF (和文)</a>
	<a href="#">PDF (英文)</a>
CSRレポート2018	<a href="#">PDF (和文)</a>
	<a href="#">PDF (英文)</a>
	<a href="#">人財・環境データ集</a>
CSRレポート2017	<a href="#">PDF (コミュニケーション版)</a>
	<a href="#">人財データ集</a>
CSRレポート2016	<a href="#">PDF (コミュニケーション版)</a>
	<a href="#">人財データ集</a>
CSRレポート2015	<a href="#">PDF</a>
	<a href="#">人財データ集</a>
CSRレポート2014	<a href="#">Web版</a>
	<a href="#">PDF (ダイジェスト)</a>
	<a href="#">人財データ集</a>
CSRレポート2013	<a href="#">Web版</a>
	<a href="#">PDF (ダイジェスト)</a>
	<a href="#">人財データ集</a>
CSRレポート2012	<a href="#">Web版</a>
	<a href="#">PDF (ダイジェスト)</a>
CSRレポート2011	<a href="#">Web版</a>
	<a href="#">PDF (ダイジェスト)</a>
CSRレポート2010	<a href="#">Web版</a>
	<a href="#">PDF (ダイジェスト)</a>
CSRレポート2009	<a href="#">Web版</a>
	<a href="#">PDF (ダイジェスト)</a>
社会環境報告書2008	<a href="#">PDF</a>
社会環境報告書2007	<a href="#">PDF</a>

社会環境報告書2006	<a href="#">PDF</a>
社会環境報告書2005	<a href="#">PDF</a>
環境報告書2004	<a href="#">PDF</a>
環境報告書2003	<a href="#">PDF</a>
環境報告書2002	<a href="#">PDF</a>
環境報告書2001	<a href="#">PDF</a>
環境報告書2000	<a href="#">PDF</a>

## ESGナビゲーション

		掲載箇所へのリンク
ニチレイグループのCSR経営推進	トップメッセージ	<a href="#">●</a>
	CSR基本方針（ニチレイの約束）	<a href="#">●</a>
	CSR経営推進体制	<a href="#">●</a>

		コミットメント	マネジメント体制	目標と実績	取り組み
環境	気候変動	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>
	水使用	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
	廃棄物・資源活用	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
	汚染・化学物質管理	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
	生物多様性	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
	サプライチェーン（環境）	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
社会	サプライチェーン（社会）	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
	人権	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
	ステークホルダーエンゲージメント			<a href="#">●</a>	
	健康と安全への取り組み	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
	労働安全衛生	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>
	働き方改革（ダイバーシティ含む）	<a href="#">●</a>	<a href="#">●</a>		<a href="#">●</a>

			掲載箇所へのリンク
ガバナンス	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス基本方針	<a href="#">●</a>
		取締役等の報酬決定方針および手続き	<a href="#">●</a>
		取締役等の選任に関する考え方	<a href="#">●</a>
		取締役等の専門性・経歴等	<a href="#">●</a>
		内部統制システム基本方針	<a href="#">●</a>
		ガバナンス体制図（取締役会および監査役会の構成）	<a href="#">●</a>
		委員会の設置	
		経営監視機能について	
	コンプライアンス	コンプライアンス体制	<a href="#">●</a>
		内部通報窓口について	
		行動規範	
	リスクマネジメント	リスクマネジメントに関する基本的な考え方	<a href="#">●</a>
		情報セキュリティ	<a href="#">●</a>
	株主総会関係	招集ご通知	<a href="#">●</a>
		決議ご通知	

# ESGに関する方針一覧

## ESGに関する方針一覧

### ■ニチレイグループ ESGに関する方針一覧

テーマ	関連する方針
企業の基本的な方針	<a href="#">CSR基本方針「ニチレイの約束」</a>
環境	<a href="#">環境方針</a> <a href="#">生物多様性方針</a>
社会	<a href="#">品質保証に関する基本方針</a> <a href="#">人権方針</a> <a href="#">持続可能なサプライチェーン基本方針</a> <a href="#">社会貢献基本方針</a> <a href="#">働きがい向上基本方針</a> <a href="#">働き方改革方針</a>
ガバナンス	<a href="#">コーポレートガバナンス基本方針</a> <a href="#">内部統制システムの基本方針</a> <a href="#">行動規範</a>

## ESGデータ集

▼ 人財データ集

▼ 環境データ集

▼ ガバナンスデータ集

### ■ 人財データ集

▼ 従業員数	▼ 女性役職者比率	▼ 平均年齢	▼ 平均勤続年数
▼ 採用者数（新卒・経験者）	▼ 退職者数/退職率/事由	▼ 定年後再雇用者数	▼ 障がい者雇用率
▼ 年間総実労働時間数	▼ 年次有給休暇年間平均取得日数・取得率	▼ 育児休業取得者数	▼ 介護休業取得者数
▼ 食品工場の労働災害件数	▼ 業務上の死亡者数	▼ 一般定期健康診断受診率	▼ ストレスチェック受検率
▼ 新卒採用者の離職状況	▼ 主な教育研修体系	▼ 教育時間及び参加人数	

### ■ 従業員数

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
グループ合計	役員・従業員合計	人	6,106	5,932	6,087	6,073	6,002	
	<内訳>		男性	3,668	3,629	3,746	3,792	3,748
			女性	2,438	2,303	2,341	2,281	2,254
	役員数		63	63	62	65	62	
	<内訳>		男性	62	62	60	63	60
			女性	1	1	2	2	2
	社員数		3,635	3,628	3,755	3,780	3,782	
	<内訳>		男性	2,729	2,732	2,800	2,786	2,789
			女性	906	896	955	994	993
	【役職社員数】		1,267	1,270	1,285	1,293	1,309	
	<内訳>		男性	1,196	1,196	1,206	1,205	1,216
			女性	71	74	79	88	93
	【一般社員数】		2,368	2,358	2,470	2,487	2,473	
	<内訳>		男性	1,533	1,536	1,594	1,581	1,573
女性		835	822	876	906	900		
社員以外の従業員数	2,408	2,241	2,270	2,228	2,158			
<内訳>	男性	877	835	886	943	899		
	女性	1,531	1,406	1,384	1,285	1,259		
ニチレイ	役員・従業員合計	246	263	273	277	252		
	<内訳>	男性	148	159	157	156	148	

対象範囲	項目	性別	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
		女性		98	104	116	121	104
	役員数			20	20	20	21	19
	<内訳>	男性		19	19	18	19	17
		女性		1	1	2	2	2
	社員数			175	189	205	213	187
	<内訳>	男性		114	127	125	128	122
		女性		906	896	955	994	65
	【役職社員数】			89	99	100	111	112
	<内訳>	男性		73	81	79	85	85
		女性		16	18	21	26	27
	【一般社員数】			86	90	105	102	75
	<内訳>	男性		41	46	46	43	37
		女性		45	44	59	59	38
	社員以外の従業員数			51	54	48	43	46
	<内訳>	男性		15	13	14	9	9
		女性		36	41	34	34	37
ニチレイフーズ	役員・従業員合計		3,193	3,014	3,126	3,133	3,054	
	<内訳>	男性	1,773	1,716	1,799	1,866	1,821	
		女性	1,420	1,298	1,327	1,267	1,233	
	役員数		13	13	13	12	12	
	<内訳>	男性	13	13	13	12	12	
		女性	0	0	0	0	0	
	社員数		1,512	1,472	1,541	1,535	1,524	
	<内訳>	男性	1,128	1,110	1,155	1,146	1,134	
		女性	384	362	386	389	390	
	【役職社員数】		530	525	533	534	532	
	<内訳>	男性	496	488	499	498	497	
		女性	34	37	34	36	35	
	【一般社員数】		982	947	1,008	1,001	992	
	<内訳>	男性	632	622	656	648	637	
		女性	350	325	352	353	355	
	社員以外の従業員数		1,668	1,529	1,572	1,586	1,518	
<内訳>	男性	632	593	631	708	675		
	女性	1,036	936	941	878	843		
ニチレイフレッシュ	役員・従業員合計		308	313	313	308	315	
	<内訳>	男性	222	225	228	228	228	
		女性	86	88	85	80	87	
	役員数		7	8	7	9	9	
	<内訳>	男性	7	8	7	9	9	
		女性	0	0	0	0	0	
社員数		243	248	254	252	256		
<内訳>	男性	198	200	203	200	197		

対象範囲	項目	性別	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
		女性		45	48	51	52	59	
	【役職社員数】			142	146	151	149	149	
	<内訳>	男性		138	142	146	144	142	
		女性		4	4	5	5	7	
	【一般社員数】			101	102	103	103	107	
	<内訳>	男性		60	58	57	56	55	
		女性		41	44	46	47	52	
	社員以外の従業員数			58	57	52	47	50	
	<内訳>	男性		17	17	18	19	22	
		女性		41	40	34	28	28	
	ニチレイロジグループ	役員・従業員合計		2,244	2,227	2,260	2,224	2,252	
		<内訳>		男性	1,470	1,473	1,504	1,479	1,488
				女性	774	754	756	745	764
		役員数		19	18	17	18	16	
<内訳>		男性	19	18	17	18	16		
		女性	0	0	0	0	0		
社員数		1,641	1,654	1,687	1,701	1,738			
<内訳>		男性	1,247	1,250	1,270	1,262	1,287		
		女性	394	404	417	439	451		
【役職社員数】		472	467	466	464	479			
<内訳>		男性	462	457	454	451	464		
		女性	10	10	12	13	15		
【一般社員数】		1,169	1,187	1,221	1,237	1,259			
<内訳>		男性	785	793	816	811	823		
		女性	384	394	405	426	436		
社員以外の従業員数		584	555	556	505	498			
<内訳>		男性	204	205	217	199	185		
		女性	380	350	339	306	313		
ニチレイバイオサイエンス	役員・従業員合計		115	115	115	131	129		
	<内訳>	男性	55	56	58	63	63		
		女性	60	59	57	68	66		
	役員数		4	4	5	5	6		
	<内訳>	男性	4	4	5	5	6		
		女性	0	0	0	0	0		
	社員数		64	65	68	79	77		
	<内訳>	男性	42	45	47	50	49		
		女性	22	20	21	29	28		
	【役職社員数】		34	33	35	35	37		
	<内訳>	男性	27	28	28	27	28		
		女性	7	5	7	8	9		
	【一般社員数】		30	32	33	44	40		
	<内訳>	男性	15	17	19	23	21		

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
	女性		15	15	14	21	19	
	社員以外の従業員数		47	46	42	47	46	
	男性		9	7	6	8	8	
	女性		38	39	36	39	38	

※ 社員以外の従業員：臨時従業員、契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等を含み派遣社員を除く

※ 人材データ集は、下記の15社に勤務する従業員を対象としています。（2018年度）

- 1 ニチレイ 2 ニチレイフーズ 3 ニチレイフレッシュ 4 ニチレイロジグループ本社 5 ロジスティクス・ネットワーク 6 ニチレイ・ロジスティクス北海道  
7 ニチレイ・ロジスティクス東北 8 ニチレイ・ロジスティクス関東 9 ニチレイ・ロジスティクス東海 10 ニチレイ・ロジスティクス関西  
11 ニチレイ・ロジスティクス中四国 12 ニチレイ・ロジスティクス九州 13 キョクレイ 14 ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング  
15 ニチレイバイオサイエンス

[ページトップへ戻る](#)

### ■ 女性役職者比率

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ合計		%	5.6	5.8	6.1	6.8	7.1
ニチレイ			18.0	18.2	21.0	23.4	24.1
ニチレイフーズ			6.4	7.0	6.4	6.7	6.6
ニチレイフレッシュ			2.8	2.7	3.3	3.4	4.7
ニチレイロジグループ			2.1	2.1	2.6	2.8	3.1
ニチレイバイオサイエンス			20.6	15.2	20.0	22.9	24.3

※ 対象者：社員

### ■ 平均年齢

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ全体	<内訳>	男性	41.3	41.2	41.6	41.9	42.1
		女性	38.5	39.0	39.5	39.6	39.8
ニチレイ	<内訳>	男性	42.1	42.7	43.7	43.3	44.1
		女性	39.7	40.9	41.1	41.9	43.1
ニチレイフーズ	<内訳>	男性	41.2	41.4	41.8	42.3	42.5
		女性	40.0	40.7	40.8	41.2	41.5
ニチレイフレッシュ	<内訳>	男性	42.5	42.5	42.8	42.9	42.6
		女性	41.9	42.5	42.6	42.5	41.2
ニチレイロジグループ	<内訳>	男性	41.2	41.1	41.1	41.2	41.6
		女性	36.5	36.9	37.6	37.6	37.9
ニチレイバイオサイエンス	<内訳>	男性	40.9	40.9	40.6	40.2	40.7
		女性	37.3	37.3	37.7	36.3	36.7

※ 対象者：社員

■平均勤続年数

対象範囲	項目		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ全体	<内訳>	男性	年	16.1	16.2	16.4	16.7	16.7
		女性		14.3	14.8	15.1	15.3	15.7
ニチレイ	<内訳>	男性		16.9	17.5	18.3	18.2	19.1
		女性		14.0	15.4	13.6	14.4	18.5
ニチレイフーズ	<内訳>	男性		16.0	16.2	16.8	17.3	17.7
		女性		14.9	15.5	15.8	16.3	16.7
ニチレイフレッシュ	<内訳>	男性		18.7	18.5	18.7	18.8	18.4
		女性		21.0	20.8	20.9	20.5	18.6
ニチレイロジグループ	<内訳>	男性		15.8	15.6	15.6	15.7	15.9
		女性		13.0	13.5	14.1	14.1	14.3
ニチレイバイオサイエンス	<内訳>	男性		15.3	15.2	14.9	14.2	15.3
		女性		13.1	13.2	13.4	11.9	12.1

※ 対象者：社員

※ 所属会社の合併・分社、社員への登用等により、計算開始年度は実際の入社年度と異なる場合があります。

■採用者数（新卒・経験者）

対象範囲	項目		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ合計	新卒採用数		人	106	83	92	101	88
	<内訳>	男性		61	58	57	54	46
		女性		45	25	35	47	42
	経験者採用数			50	45	68	45	80
	<内訳>	男性		36	36	42	36	60
		女性		14	9	26	9	20
ニチレイ	新卒採用数			4	5	5	3	0
	<内訳>	男性		2	5	1	2	0
		女性		2	1	4	1	0
	経験者採用数			7	2	22	4	2
	<内訳>	男性		3	1	4	2	2
		女性		4	1	18	2	0
ニチレイフーズ	新卒採用数		36	29	25	27	31	
	<内訳>	男性	27	20	15	18	20	
		女性	9	9	10	9	11	
	経験者採用数		7	3	2	8	13	
	<内訳>	男性	6	3	2	1	6	
		女性	1	0	0	1	7	
ニチレイフレッシュ	新卒採用数		6	8	9	10	10	

対象範囲	項目		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	<内訳>	男性		5	7	6	7	6
		女性		1	1	3	3	4
	経験者採用数			0	3	1	0	5
	<内訳>	男性		0	2	1	0	1
		女性		0	1	0	0	4
	新卒採用数			57	38	47	53	42
ニチレイロジグループ	<内訳>	男性	26	25	32	24	19	
		女性	31	13	15	29	23	
	経験者採用数		36	36	41	32	60	
	<内訳>	男性	27	29	34	26	51	
		女性	9	7	7	6	9	
	新卒採用数		3	3	6	8	5	
ニチレイバイオサイエンス	<内訳>	男性	1	2	3	3	1	
		女性	2	1	3	5	4	
	経験者採用数		0	1	2	1	0	
	<内訳>	男性	0	1	1	1	0	
		女性	0	0	1	0	0	
	新卒採用数		3	3	6	8	5	

※ 対象者：社員

[ページトップへ戻る](#)

■ 退職者数/退職率/事由

対象範囲	項目		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ合計	退職者数		人	160	144	131	137	146
	<事由別内訳>	定年		74	61	52	48	64
		自己都合		65	62	65	69	74
		会社都合		1	2	1	0	0
		その他		20	19	13	20	8
	離職率			2.3%	2.2%	2.0%	2.3%	2.1%
	ニチレイ	退職者数			13	10	9	9
<事由別内訳>		定年	8		3	2	3	6
		自己都合	4		6	5	4	5
		会社都合	0		0	0	0	0
		その他	1		1	2	2	1
離職率		2.7%	3.7%		3.2%	2.8%	3.0%	
ニチレイフーズ		退職者数				73	43	52
	<事由別内訳>	定年	33	22		22	17	30
		自己都合	28	17		26	23	26
		会社都合	0	0		0	0	0
		その他	12	4		4	3	1
	離職率		2.6%	1.4%		1.9%	1.7%	1.7%

対象範囲	項目		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
ニチレイフレッシュ	退職者数			10	9	9	10	14
	<事由別内訳>	定年		7	5	3	2	7
		自己都合		3	3	3	7	4
		会社都合		0	0	0	0	0
		その他		0	1	3	1	3
	離職率				1.2%	1.6%	2.3%	3.1%
ニチレイロジグループ	退職者数			62	80	59	72	60
	<事由別内訳>	定年		25	31	25	25	21
		自己都合		29	35	29	35	36
		会社都合		1	2	1	0	0
		その他		7	12	4	12	3
	離職率				2.2%	2.9%	2.0%	2.7%
ニチレイバイオサイエンス	退職者数			2	2	2	3	3
	<事由別内訳>	定年		1	0	0	1	0
		自己都合		1	1	2	0	3
		会社都合		0	0	0	0	0
		その他		0	1	0	2	0
	離職率				1.6%	3.0%	2.7%	2.6%

※ 対象者：社員

※ 離職率は定年退職者を除く退職者をもとに算出

※ 「その他」は役員就任退職、等を含む

[ページトップへ戻る](#)

#### ■ 定年後再雇用者数

対象範囲	項目		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ合計			人	64	54	45	44	59
ニチレイ				8	3	2	3	5
ニチレイフーズ				27	18	19	14	28
ニチレイフレッシュ				6	5	3	2	7
ニチレイロジグループ				22	28	21	24	19
ニチレイバイオサイエンス				1	0	0	1	0
参考) グループ定年退職者数				74	61	52	48	64

※ 対象者：社員、60歳代で働いている人

※ 年度ごとの定年退職者のうち、再雇用されている人数

※ 再雇用希望者のほぼ100%が再雇用されている

[ページトップへ戻る](#)

■ 障がい者雇用率

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ		%	2.36	2.64	2.62	2.5	2.56

※ 法定雇用率2.2%（2018年度より）

※ 対象範囲はニチレイアウラ（特例子会社）のグループ適用会社

※ グループ適用会社（2018年度）：ニチレイ、ニチレイフーズ、ニチレイフレッシュ、ニチレイロジグループ本社、ニチレイバイオサイエンス、ロジスティクス・ネットワーク、ニチレイ・ロジスティクス関東、ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング、東京ニチレイサービス、ニチレイアウラ

■ 年間総実労働時間数

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ全体	合計	時間	2,038	2,025	2,026	2,025	1,997
	所定内勤務時間 －休暇取得時間		1,822	1,807	1,804	1,801	1,780
	時間外労働時間		216	218	222	225	217
ニチレイ	合計		1,998	1,934	1,943	1,906	1,905
	所定内勤務時間 －休暇取得時間		1,765	1,732	1,740	1,729	1,718
	時間外労働時間		233	202	203	176	187
ニチレイフーズ	合計		1,998	1,987	2,007	2,020	1,998
	所定内勤務時間 －休暇取得時間		1,807	1,790	1,791	1,790	1,772
	時間外労働時間		191	197	216	230	226
ニチレイフレッシュ	合計		2,034	1,983	1,972	1,981	1,948
	所定内勤務時間 －休暇取得時間	1,818	1,800	1,796	1,795	1,770	
	時間外労働時間	216	183	176	185	178	
ニチレイロジグループ	合計	2,081	2,076	2,061	2,052	2,014	
	所定内勤務時間 －休暇取得時間	1,845	1,833	1,826	1,821	1,796	
	時間外労働時間	236	243	235	231	218	
ニチレイバイオサイエンス	合計	2,025	1,993	2,024	1,980	1,954	
	所定内勤務時間 －休暇取得時間	1,767	1,738	1,761	1,749	1,736	
	時間外労働時間	258	255	263	232	218	

※ 年間1人当たり平均時間数

※ 対象者：社員

[ページトップへ戻る](#)

■ 年次有給休暇年間平均取得日数・取得率

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ全体	年間平均取得日数	日数	5.9	5.7	5.5	6.6	8.0
	取得率	%	30.8	29.6	28.5	34.8	41.8
ニチレイ	年間平均取得日数	日数	12.6	12.9	10.9	14.3	15.1

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	取得率	%	65.2	67.2	58.5	76.9	78.0
ニチレイフーズ	年間平均取得日数	日数	7.4	6.8	6.4	7.4	8.3
	取得率	%	37.8	35.1	33.0	37.9	42.7
ニチレイフレッシュ	年間平均取得日数	日数	7.2	7.5	6.8	7.9	9.9
	取得率	%	37.2	39.1	35.5	41.2	51.9
ニチレイロジグループ	年間平均取得日数	日数	3.5	3.4	3.6	4.6	6.5
	取得率	%	18.4	18.1	19.2	24.8	34.6
ニチレイバイオサイエンス	年間平均取得日数	日数	10.5	11.5	9.5	12.6	12.5
	取得率	%	55.6	60.9	51.3	70.7	69.0

※ 対象者：社員

※ 取得率＝取得日数÷年間付与日数（繰越日数を含まない）

※ その他に特別休暇（夏季休暇）として年間1人平均2.9日（2018年度）取得している。

[ページトップへ戻る](#)

#### ■ 育児休業取得者数

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ全体	男性	人	1	0	0	2	1
	女性		42	52	44	34	42
ニチレイ	男性		0	0	0	2	0
	女性		4	4	4	1	2
ニチレイフーズ	男性		1	0	0	0	1
	女性		16	28	20	17	14
ニチレイフレッシュ	男性		0	0	0	0	0
	女性		2	0	3	0	2
ニチレイロジグループ	男性		0	0	0	0	0
	女性		20	15	15	15	20
ニチレイバイオサイエンス	男性		0	0	0	0	0
	女性		0	5	2	1	4

※ 対象者：社員

※ 2014年度より産前産後休業取得者数含む

#### ■ 介護休業取得者数

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ全体		人	1	1	1	0	3
ニチレイ			0	0	0	0	0
ニチレイフーズ			0	1	1	0	3
ニチレイフレッシュ			0	0	0	0	0
ニチレイロジグループ			1	0	0	0	0

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
ニチレイバイ オサイエンス			0	0	0	0	0

※ 対象者：社員

[ページトップへ戻る](#)

#### ■ 食品工場の労働災害件数

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
食品工場	休業災害件数	件	18	21	17	34	34
	不休災害件数		25	23	18	12	11

※ 対象範囲：ニチレイフーズ自営工場及びニチレイフレッシュ国内関係会社の従業員

※ 契約社員、嘱託社員、パート・アルバイトなどを含む

#### ■ 業務上の死亡者数

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ	社員	件	-	-	-	1	0
	社員以外（臨時従業員、契約社員、嘱託社員、パート・アルバイト等を含み派遣社員を除く）		-	-	-	0	0

[ページトップへ戻る](#)

#### ■ 一般定期健康診断受診率

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ		%	90.0	92.0	99.3	99.8	100

#### ■ ストレスチェック受検率

対象範囲	項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
グループ		%	-	-	88.3	89.2	84.6

[ページトップへ戻る](#)

#### ■ 新卒採用者の離職状況

対象範囲	項目	離職者数（人）	離職率（%）	
グループ合計	2012年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	3	3.8%
		3年目まで	8	10.1%
	2013年度入社	1年目まで	1	1.3%
		2年目まで	3	3.8%
		3年目まで	4	5.0%

対象範囲	項目		離職者数 (人)	離職率 (%)
	2014年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	5	4.7%
		3年目まで	7	6.6%
	2015年度入社	1年目まで	1	1.2%
		2年目まで	5	6.0%
		3年目まで	7	8.4%
	2016年度入社	1年目まで	1	1.1%
		2年目まで	2	2.2%
		3年目まで	8	8.7%
ニチレイ	2012年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	0	0.0%
		3年目まで	1	33.3%
	2013年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	0	0.0%
		3年目まで	0	0.0%
	2014年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	0	0.0%
		3年目まで	0	0.0%
	2015年度入社	1年目まで	1	20.0%
		2年目まで	1	20.0%
		3年目まで	1	20.0%
	2016年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	0	0.0%
		3年目まで	0	0.0%
ニチレイフーズ	2012年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	0	0.0%
		3年目まで	2	8.7%
	2013年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	0	0.0%
		3年目まで	1	3.3%
	2014年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	3	8.3%
		3年目まで	3	8.3%
	2015年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	2	6.9%
		3年目まで	3	10.3%
	2016年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	1	4.0%
		3年目まで	2	8.0%
ニチレイフレッシュ	2012年度入社	1年目まで	0	0.0%
		2年目まで	1	20.0%
		3年目まで	1	20.0%

対象範囲	項目		離職者数 (人)	離職率 (%)	
	2013年度入社	1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	0	0.0%	
		3年目まで	0	0.0%	
	2014年度入社	1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	0	0.0%	
		3年目まで	0	0.0%	
	2015年度入社	1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	1	12.5%	
		3年目まで	1	12.5%	
	2016年度入社	1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	0	0.0%	
		3年目まで	0	0.0%	
ニチレイロジグループ	2012年度入社	1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	2	4.4%	
		3年目まで	4	8.9%	
	2013年度入社	1年目まで	1	2.6%	
		2年目まで	3	7.7%	
		3年目まで	3	7.7%	
	2014年度入社	1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	2	3.5%	
		3年目まで	3	5.3%	
	2015年度入社	1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	1	2.6%	
		3年目まで	2	5.3%	
	2016年度入社	1年目まで	1	2.1%	
		2年目まで	1	2.1%	
		3年目まで	6	12.8%	
	ニチレイバイオサイエンス	2012年度入社	1年目まで	0	0.0%
			2年目まで	0	0.0%
			3年目まで	0	0.0%
2013年度入社		1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	0	0.0%	
		3年目まで	0	0.0%	
2014年度入社		1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	0	0.0%	
		3年目まで	1	33.3%	
2015年度入社		1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	0	0.0%	
		3年目まで	0	0.0%	
2016年度入社		1年目まで	0	0.0%	
		2年目まで	0	0.0%	
		3年目まで	0	0.0%	

■ 主な教育研修体系

種別	一般社員	役職社員	役員
階層別研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入社員研修</li> <li>・1~3年次社員フォロー研修</li> <li>・中堅社員研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任役職者研修</li> <li>・次世代経営幹部養成講座</li> <li>・マネジメント研修</li> </ul>	
目的別研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーション研修</li> <li>・女性社員向けキャリアセミナー</li> <li>・女性リーダー育成プログラム</li> <li>・コーチング研修</li> <li>・語学研修</li> <li>・評価者研修</li> <li>・クリティカル・シンキング</li> <li>・マーケティング</li> <li>・アカウンティング</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新任役員セミナー</li> <li>・メディアトレーニング</li> <li>・取締役</li> <li>・執行役員研修</li> <li>・マネジメント研修</li> <li>・コーチング研修</li> </ul>

■ 教育時間及び参加人数

階層別及び目的別研修	教育時間数（延べ）	教育参加人数（人数）
2017年度	45,649	1,379
2018年度	49,730	1,699
合計	95,199	3,078

■ 環境データ集

▼ 環境中期目標（2019年度～2021年度）	▼ ニチレイグループCO <sub>2</sub> 排出量の推移	▼ ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率	▼ マテリアルバランス INPUT
▼ マテリアルバランス OUTPUT	▼ ニチレイグループ特別管理産業廃棄物排出量		

■ 環境中期目標（2019年度～2021年度）

	項目	内容
グループ環境中期目標（2019年度～2021年度）	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	2021年度の総CO <sub>2</sub> 排出量を、2013年度実績「維持」 ※電力係数：2013年度の係数で固定
	廃棄物のリサイクル率維持と発生の抑制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率99%以上の維持</li> <li>・動植物性残さの削減に取り組む（国内の食品工場）</li> </ul>
	水資源の保全	各地域の水を取り巻く環境事情を考慮し、持続可能な水利用に向け、効率的な水利用を通じて、水資源の保全に取り組む（国内の食品工場）

・ 海外データ：海外事業所における環境に関するデータの収集に取り組む

■ ニチレイグループCO<sub>2</sub>排出量の推移

項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
電力排出係数固定	千トン-CO <sub>2</sub>	223	226	228	227	228
電力排出係数変動	千トン-CO <sub>2</sub>	290	287	279	273	260

■ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率

項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
事業所外排出量	千トン	40.4	41.9	45.2	45.2	45.4
リサイクル率	千トン	99.6	99.6	99.7	99.5	99.5

[環境データ集 トップへ戻る](#)

■マテリアルバランス INPUT

項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
原材料	合計	千トン	161	167	185	188	195
	原料	千トン	145	149	167	170	177
	包装資材	千トン	16	18	18	18	18
エネルギー	購入電力	千kWh	438,673	444,843	447,574	443,480	447,277
	重油	kl	3,314	3,329	3,335	3,319	2,609
	灯油	kl	189	198	200	191	173
	都市ガス	千m <sup>3</sup>	5,951	6,385	6,705	6,923	7,142
	LGP	トン	4,487	4,623	4,620	4,650	4,814
	ガソリン（社有車）	kl	588	524	467	461	402
	軽油（社有車）	kl	1,144	1,270	1,340	1,378	1,556
	太陽光発電	千kWh	243	186	211	400	1,444
エネルギーの各事業会社の内訳	ニチレイフーズ	千GJ	1,569	1,649	1,716	1,726	1,761
	ニチレイフーズフレッシュ	千GJ	159	173	179	169	173
	ニチレイロジグループ	千GJ	3,161	3,159	3,129	3,098	3,089
	ニチレイバイオサイエンス	千GJ	10	10	8	11	12
	その他	千GJ	73	72	73	74	72
水	上水	千m <sup>3</sup>	1,276	1,336	1,284	1,293	1,267
	工業用水	千m <sup>3</sup>	638	853	877	797	907
	地下水（井水）	千m <sup>3</sup>	1,867	1,845	1,770	1,906	1,943
水の各事業会社の内訳	ニチレイフーズ	千m <sup>3</sup>	2,372	2,595	2,581	2,652	2,812
	ニチレイフーズフレッシュ	千m <sup>3</sup>	352	352	353	331	322
	ニチレイロジグループ	千m <sup>3</sup>	1,043	1,070	977	998	963
	ニチレイバイオサイエンス	千m <sup>3</sup>	6	5	8	6	6
	その他	千m <sup>3</sup>	8	12	12	11	13

[環境データ集 トップへ戻る](#)

■マテリアルバランス OUTPUT

項目	単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	
廃棄物	事業所外排出量	千トン	40.4	41.9	45.2	45.2	45.4
	リサイクル量	千トン	40.3	41.7	45.0	45.0	45.2
	最終処分廃棄物量 <sup>※1</sup>	千トン	0.1	0.2	0.2	0.2	0.2
事業所外排出量の各事業会社の内訳	ニチレイフーズ	トン	17,806	18,469	21,227	20,965	18,155
	ニチレイフーズフレッシュ	トン	9,474	11,029	11,453	11,426	13,973

項目		単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
	ニチレイロジグループ	トン	12,795	12,330	12,436	12,733	13,236
	ニチレイバイオサイエンス	トン	45	43	20	46	44
大気系	その他	トン	—	—	—	—	—
	CO <sub>2</sub> ※2	トン	289,396	286,382	279,465	273,348	259,980
	SOx ※3		7	5	4	4	3
CO2排出量の各事業会社の内訳	ニチレイフーズ	トン	90,775	92,894	93,613	93,076	90,717
	ニチレイフーズフレッシュ	トン	9,956	9,830	9,914	9,281	9,376
	ニチレイロジグループ	トン	184,258	179,529	171,652	166,509	155,815
	ニチレイバイオサイエンス	トン	510	406	538	574	568
	その他	トン	3,897	3,724	3,747	3,909	3,503
水系	排水	千m <sup>3</sup>	2,295	2,444	2,525	2,458	2,421
	下水道	千m <sup>3</sup>	1,453	1,530	1,577	1,514	1,464
	公共水域（河川等）	千m <sup>3</sup>	841	913	948	945	957
	排水負荷率BOD ※4	トン	52	26	46	48	48
	COD ※4	トン	16	19	24	22	24
排水の各事業会社の内訳	ニチレイフーズ	トン	1,731	1,902	1,922	1,758	1,751
	ニチレイフーズフレッシュ	トン	168	165	234	328	308
	ニチレイロジグループ	トン	382	360	349	355	343
	ニチレイバイオサイエンス	トン	6	5	8	6	6
	その他	トン	8	12	12	11	14

環境データ集 トップへ戻る 

#### ■ ニチレイグループ特別管理産業廃棄物排出量

単位	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
kg	11.7	11.1	3.8	9	9.3

※1 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

※2 地球温暖化対策の推進に関する法律にもとづき算出

※3 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず

※4 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出

#### ■ 対象事業所

環境データ 2018年度実績集計対象事業所 下記各社の食品工場、物流センターなどを集計対象としている。事業所数が複数ある場合は（ ）内に数を記載。

##### ニチレイフーズ

(株)ニチレイフーズ (9)、(株)ニチレイ・アイス (3)、(株)中冷、(株)キューレイ、(株)ニチレイウエルダイニング

##### ニチレイフレッシュ

(株)フレッシュまるいち (3)、(株)ニチレイフレッシュプロセス (2)、(株)ニチレイフレッシュファーム (2)、(株)フレッシュチキン軽米、(株)フレッシュミート佐久平

##### ニチレイロジグループ

(株)ロジスティクス・ネットワーク (35)、(株)NKトランス (4)、(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道 (7)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東北 (4)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関東 (11)、(株)ニチレイ・ロジスティクス東海 (10)、(株)ニチレイ・ロジスティクス関西 (13)、(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国 (14)、(株)ニチレイ・ロジスティクス九州 (13)、(株)キョクレイ (4)

##### ニチレイバイオサイエンス

## その他

(株) ニューハウジング

- ※ エネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量については、上記以外の本社や支店などのオフィスの活動、自社所有トラックによるものを含む。
- ※ 海外事業所は含まない。
- ※ 上記と対象範囲が異なる場合、その旨を記載しています。
- ※ 四捨五入の影響により合計数字が異なる場合があります。

環境データ集 トップへ戻る 

## ■ ガバナンスデータ集

## ■ 取締役会構成

区分	性別	2017年度（人）	2018年度（人）
社内取締役	男性	7	7
	女性	0	0
	計	7	7
社外取締役	男性	1	1
	女性	2	2
	計	3	3
合計	男性	8	8
	女性	2	2
	計	10	10

## ■ 取締役会出席率

区分	2017年度（%）	2018年度（%）
社内取締役	97.7	97.4
社外取締役	96.5	98.2

# 社外からの評価

## 社外からの評価

ニチレイグループは、CSR活動を幅広いステークホルダーの皆さまにお伝えするとともに、コミュニケーションを深めている企業グループとして、さまざまな外部機関より評価をいただいています。

こうした外部評価の項目や結果をもとに、定期的にレビューを行うことで、取組みや報告の改善につなげています。

### 外部評価

#### ESGインデックスの組み入れ状況

##### ■ FTSE4Good Index Series

英ロンドン証券取引所（LSE）グループの100%子会社、FTSE International社（現FTSE Russell社）が2001年から発表している世界的に有名なESG投資インデックス。



FTSE4Good

2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2008	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2000	1999	1998
○	○	○	○	○	○	—	—			

##### ■ FTSE Blossom Japan Index

FTSE Russell社が2017年発表した環境、社会、ガバナンス（ESG）および女性活躍推進について優れた対応を行っている日本企業で構成されるインデックス。



FTSE Blossom Japan

2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009
○	○	○								

##### ■ MSCI Japan ESG Select Leaders Index

米国のMSCI社が開発したインデックスで、各業種の中でESG（環境、社会、ガバナンス）に優れた企業が選定される（旧称 MSCI Global Sustainability Indexes）。



2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009
○	○	○								

### ■ MSCI Japan Empowering Women Index (WIN)

米国のMSCI社が2017年発表したESG投資インデックス。日本株の時価総額上位500銘柄の中から、各業種の中で性別多様性に優れた企業が選定される。



2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009
○	○	○								

### ■ SNAM Sustainability Index

SOMPOリスクマネジメント社の環境 (E)、インテグレックス社の社会 (S)、ガバナンス (G) に関する企業調査でESGスコアが基準以上の企業で構成されるインデックス。2012年8月より運用開始。



2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009
○	○	○	○	○	○	—	—			

### ■ CDP (気候変動・水セキュリティ)

CDPは、投資家・企業・都市・国家・地域が環境影響を管理するためのグローバルな情報開示システムを運営している国際的なNGO。機関投資家を代表して、環境への取り組みを調査・評価・開示している。気候変動では世界の時価総額50%以上に相当する7000社を超える企業が回答した。



#### ■ 気候変動

2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008
B	C	A-	C	C	C	31	—	—	—	—

#### ■ 水セキュリティ

2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	2011	2010	2009	2008
B-	B-	—	—	—	—	—	—	—	—	—

#### ■ 認定一覧

取得時期	名称		
2018年度 ~	DBJ健康経営格付		ニチレイ プレスリリース ニチレイグループの健康経営、 「DBJ健康経営格付」の獲得と「健康経営優良法人2019~ホワイト500~」の認定 <a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2019/328.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2019/328.html</a>
2016年度 ~	健康経営優良法人 (ホワイト500)		
2017年度	えるぼし「3段階目」(「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく、		ニチレイ プレスリリース 女性活躍推進法に基づく認定マーク「えるぼし」(3段階目)の取

~	厚生労働大臣認定)		得に関するお知らせ <a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2017/293.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2017/293.html</a>
2009年~	「次世代育成支援対策推進法」認定マーク (愛称:くるみん)		⇒働き方改革 (ダイバーシティ含む) <a href="https://www.nichireifoods.co.jp/corporate/csr/employee.html">https://www.nichireifoods.co.jp/corporate/csr/employee.html</a>

## ■表彰

表彰年度	名称	概要
2018年度	第1回 消費者志向経営優良事業表彰 「消費者庁長官表彰」受賞	消費者庁 主催 消費者を重視した事業活動、「消費者志向経営」(愛称:サステナブル経営)の推進している事業者を表彰する制度 <a href="https://www.nichireifoods.co.jp/news/2018/info_id6991/">https://www.nichireifoods.co.jp/news/2018/info_id6991/</a> ニチレイフーズ独自の「ハミダス活動」を通じて、従業員の積極的な自主的活動を支援していることや、食育活動の推進、環境保全活動を通じた地域貢献やフードバンクへの取組など、SDGs 推進に向けた取組みが評価された。 
2017年度	東京証券取引所 第6回 企業価値向上表彰 優秀賞	株式会社東京証券取引所 主催 資本コストをはじめとする投資者の視点を強く意識した経営を実践し、高い企業価値の向上を実現している会社を表彰。 ニチレイは、資本コストを上回る企業価値の創造を目指す「企業価値向上経営」を高いレベルで実践していると認められた。 東京証券取引所が実施する第6回「企業価値向上表彰」の優秀賞を受賞しました。 <a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2018/304.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2018/304.html</a>
2017年度	グリーン物流パートナーシップ会議 優良事業者 表彰	グリーン物流パートナーシップ会議 主催 国土交通省などが実施する、物流分野におけるCO <sub>2</sub> 削減を促進するための優れた取り組みを表彰する制度。 ニチレイロジグループのロジスティクス・ネットワークでは、調達・在庫管理、配送に至るまで、荷主である顧客企業の全物流を改善・運営する3PL事業者として、10年以上にわたってモーダルシフトを推進。それらの取組みの実効性が評価され、荷主であるニチレイフーズなど3社と共同での受賞。 ロジスティクス・ネットワークがグリーン物流パートナーシップ物流審議官表彰を受賞しました。 <a href="https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2017/20171213.html">https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2017/20171213.html</a>
2016年度	モーダルシフトの取り組み優良事業者公表・表彰制度 「モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)」	一般社団法人日本物流団体連合会 主催 モーダルシフト促進に関し、物流事業者の自主的な取り組みの推奨や、取り組み意識の高揚等を図るため、モーダルシフトを積極的に推進した優良な事業者を公表・表彰する制度。 ニチレイロジグループのロジスティクス・ネットワークはモーダルシフトを2003年から開始し、輸送エリアや取扱量を拡大し継続して取り組んできたことが評価された。 (株)ロジスティクス・ネットワークの「モーダルシフト最優良事業者賞(大賞)」受賞のお知らせ <a href="https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2016/20161107.html">https://www.nichirei-logi.co.jp/news/2016/20161107.html</a>
2016年度	nanotech大賞 「ライフナノテクノロジー賞」受賞	国際ナノテクノロジー総合展・技術会議 主催 出展者の斬新かつ先駆的な技術・製品を分野ごとに選出し、優秀出展者を決定。 ニチレイは寒冷地に生息する魚類から発見した不凍タンパク質の研究とその成果を、食品、医療、工業等、幅広い分野へ役立てようとしており、その活動について評価された。応用分野例として、食品では豆腐や寒天などゲル状食品について、凍結解凍後の組織ダメージが小さくなる等がある。 nano tech 2017にて「ライフナノテクノロジー賞」を受賞 <a href="https://www.nichirei.co.jp/news/2017/289.html">https://www.nichirei.co.jp/news/2017/289.html</a>